

京隈侍屋敷遺跡

—第 30・31 次発掘調査報告—

令和 3 年（2021） 3 月
久留米市教育委員会

きょうぐま さむらい やしき いせき
京隈侍屋敷遺跡

—第30・31次発掘調査報告—

令和3（2021）年3月
久留米市教育委員会

序

福岡県久留米市は、福岡県第三位の人口を誇る県南の中核都市です。その歴史は古く、旧石器時代から人々の生活の痕跡が残されています。交通においては、縦横の陸路と筑後川の水運が交差する好立地を有し、九州の心臓ともいえる重要な位置を占めています。

このような環境の下、久留米市は、日本一住みやすいまち、幸せを実感できるまちを目指してまちづくりに努めています。

今回、市立京町小学校校舎等改築に先立って調査を実施した京隈侍屋敷遺跡は、久留米市の北西部の市街地中心部に位置し、江戸時代には有馬家家臣団の居住地でした。

今回の調査では、武家屋敷の造成痕跡や4家分の屋敷境が確認され、屋敷の敷地内からは、井戸や溝、土坑など久留米藩に仕えた侍の生活の痕跡が発見されました。

この成果を活かして郷土学習や地域振興、文化教育の発展に寄与できることを願います。

また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました地域住民及び関係者の方々に心より御礼申し上げます。

令和3年3月31日

久留米市教育委員会
教育長 井上 謙介

例言

1. 本書は市立京町小学校校舎等改築に先立ち、平成28～令和元年度にかけて実施した京隈侍屋敷遺跡第30・31次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は久留米市教育部学校施設課の依頼を受けて久留米市教育委員会が主体となり、市民文化部文化財保護課の熊代昌之と江頭俊介が担当した。
3. 本書に掲載した遺構実測図の作成は、調査担当者及び舟越朝菜、藤木幸子、中村麻衣、山口誠也が行い、浄書は調査担当者及び今村理恵、宮崎彩香、湯川琴美が株式会社CUBIC社「遺構くんcubic」及びAdobe社「Illustrator」で行った。遺物の実測は江頭と山元博子が行った。
4. 遺構写真は現地において調査担当者がマミヤRB67、CANONE S 6 Dを用いて撮影した。空中写真撮影は、有限会社空中写真企画に委託した。遺物写真は、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 IIを用いて調査担当者が撮影した。
5. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位はすべて座標北を示す。なお、熊本地震に伴うパラメータ補正は行っていない。
6. 本書に使用した遺構の略記号は、SA - 柵列、SE-井戸、SK - 土坑、SP-ピット、SX-性格不明遺構・流路を示す。
7. 遺物観察表の単位はcm、（ ）内の数値は、復元値・残存値を示す。
8. 出土遺物及び記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵保管されている。
9. 本調査の略記号はLKG-30・31、調査番号は、30次-201605、31次-201904である。
10. 本書の編集は熊代が行った。執筆は主に第2章を熊代が、第3章を江頭が担当した。

本文目次

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯 1
2. 調査の体制 1
3. 調査の経過 2
4. 位置と環境 3

第2章 第30次調査 7

1. 検出遺構 7
2. 出土遺物 30
3. 総括 32

第3章 第31次調査 47

1. 検出遺構 47
2. 出土遺物 52
3. 総括 52

挿図目次

第1図 調査地周辺の遺跡分布図 (1/25,000) 4	第11図 SK100・103・120・128・129・131・153実測図 (1/40) 18
第2図 調査地の位置図 (1/2,500) 6	第12図 SK142・156・157・158・159・160・171・175実測 図 (1/40) 20
第3図 絵図から見る調査区の位置(縮尺任意) 6	第13図 SK180・190・211・212・219実測図 (1/40) . . . 22
第4図 京隈侍屋敷遺跡第30・31次調査遺構配置図 (1/150) 折込	第14図 SK217・223・226・233・237実測図 (1/40) . . . 23
第5図 SA213実測図 (1/80) 7	第15図 SK240・243・248・253実測図 (1/40) 25
第6図 SD2・62・64・155・200・209・215実測図 (1/40) 8	第16図 SK249・256・266・267・270・271実測図 (1/40) 26
第7図 SE138・146・147・174・187実測図 (1/40) . . . 10	第17図 SK268、SP230・263実測図 (1/40) 27
第8図 SK4・5・6・11・12・14・20実測図 (1/40) . . . 12	第18図 SK269実測図 (1/40) 29
第9図 SK19・21・35・37・40・46・50・52・57実測図 (1/40) 14	第19図 SX70実測図 (1/40) 31
第10図 SK85・90・92・95・97・98実測図 (1/40) . . . 16	第20図 屋敷境と空間利用天保～幕末期 (1/500) . . . 33

第21図	第31次調査区遺構配置図 (1/100)	・ ・ ・ ・ ・	48	第24図	SD6・9・21、SX12、SK2・5出土遺物実測図 (1/4)	・ ・ ・ ・ ・	51
第22図	SD9・12、SK2・5・7・8・15・18・19実測図(1/40)	・ ・ ・ ・ ・	49	第25図	SK7・15・19・21遺物実測図 (1/4)	・ ・ ・ ・ ・	52
第23図	SK21実測図(1/40)	・ ・ ・ ・ ・	50	第26図	第31次調査区時期別遺構図 (1/100)	・ ・ ・ ・ ・	55

表目次

第1表	第30次調査遺物観察表1	・ ・ ・ ・ ・	34	第8表	第30次調査遺物観察表8	・ ・ ・ ・ ・	41
第2表	第30次調査遺物観察表2	・ ・ ・ ・ ・	35	第9表	第30次調査遺物観察表9	・ ・ ・ ・ ・	42
第3表	第30次調査遺物観察表3	・ ・ ・ ・ ・	36	第10表	第30次調査遺物観察表10	・ ・ ・ ・ ・	43
第4表	第30次調査遺物観察表4	・ ・ ・ ・ ・	37	第11表	第30次調査遺物観察表11	・ ・ ・ ・ ・	44
第5表	第30次調査遺物観察表5	・ ・ ・ ・ ・	38	第12表	第30次調査遺物観察表12	・ ・ ・ ・ ・	45
第6表	第30次調査遺物観察表6	・ ・ ・ ・ ・	39	第13表	第30次調査遺物観察表13	・ ・ ・ ・ ・	46
第7表	第30次調査遺物観察表7	・ ・ ・ ・ ・	40	第14表	第31次調査遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・	54

図版目次

図版1	1. 調査地点より筑後川を望む (東から)	6. SK11 完掘状況 (西から)
	2. 1区遠景 (南から)	7. SK12 遺物出土状況 (東から)
図版2	1. 2区遠景 (南から)	8. SK19 完掘状況 (南から)
	2. 3区遠景 (南から)	図版5
図版3	1. SA213 全景 (北から)	1. SK20 甕検出状況 (西から)
	2. SD2 土層 (北から)	2. SK85 完掘状況 (西から)
	3. SD62 掘下状況 (南から)	3. SK90 完掘状況 (西から)
	4. SD200 土層 (南から)	4. SK92・95 完掘状況 (北から)
	5. SD209 遺物出土状況 (北から)	5. SK100 完掘状況 (東から)
	6. SE138 掘下状況 (東から)	6. SK103 完掘状況 (西から)
	7. SE146・147 掘下状況 (北から)	7. SK120 完掘状況 (東から)
	8. SE174 掘下状況 (南から)	8. SK128 検出状況 (東から)
図版4	1. SE187 掘下状況 (南から)	図版6
	2. SK5 遺物出土状況 (南から)	1. SK129 検出状況 (東から)
	3. SK5 遺物出土状況拡大 (南から)	2. SK131 完掘状況 (東から)
	4. SK5 完掘状況 (西から)	3. SK153 完掘状況 (北から)
	5. SK6 完掘状況 (東から)	4. SK158 完掘状況 (西から)
		5. SK171 完掘状況 (西から)
		6. SK175 検出状況 (西から)

7. SK180 完掘状況（北から）
8. SK190 完掘状況（南から）
- 図版 7 1. SK212 完掘状況（東から）
2. SK217 完掘状況（南から）
3. SK219・226 完掘状況（南から）
4. SK223 完掘状況（西から）
5. SK233 完掘状況（西から）
6. SK243 完掘状況（西から）
7. SK248 土層状況（北から）
8. SK268 完掘状況（北から）
- 図版 8 1. SK271 完掘状況（東から）
2. SP230 出土状況（北東から）
3. SX70 検出状況（南から）
4. 東西屋敷境段差（北から）
5. 東西屋敷境段差（南から）
6. 南北屋敷境段差（東から）
7. 4区遠景（北から）
8. 4区掘下状況（北から）
- 図版 9 出土遺物写真 1
- 図版 10 出土遺物写真 2
- 図版 11 出土遺物写真 3
- 図版 12 出土遺物写真 4
- 図版 13 出土遺物写真 5
- 図版 14 出土遺物写真 6
- 図版 15 出土遺物写真 7
- 図版 16 出土遺物写真 8
- 図版 17 出土遺物写真 9
- 図版 18 出土遺物写真 10
- 図版 19 出土遺物写真 11
- 図版 20 1. 調査区遠景（南東上空から）
2. 調査区遠景（東上空から）
- 図版 21 1. SD6 完掘状況（北から）
2. SD9・SX12 土層断面（西から）
3. SK2 土層断面（北から）
4. SK2 完掘状況（西から）
5. SK5 土層断面（北から）
6. SK5 完掘状況（北から）
7. SK7 完掘状況（北から）
8. SK8 完掘状況（西から）
- 図版 22 1. SK10 完掘状況（北から）
2. SK15 完掘状況（東から）
3. SK18 土層断面（西から）
4. SK21 掘削状況（西から）
5. SK21 土層断面（東から）
6. SX12 土層断面（南から）
7. SX12 掘削状況（北から）
8. SX12 土層断面（西から）
- 図版 23 出土遺物写真 1
- 図版 24 出土遺物写真 2

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、京町小学校校舎等改築に伴う事前の発掘調査である。平成28年1月7日、教育部学校施設課から、久留米市京町256における「埋蔵文化財包蔵の有無」について照会が提出された。当該地一帯は周知の遺跡である京隈侍屋敷遺跡にあたり、今回の開発においても江戸時代の遺跡が地中に残存している可能性があると考えられたため、同年4月1日発掘調査が必要な旨を回答した。平成28年6月13日、発掘調査の依頼及び文化財保護法94条の通知が提出され、それを受けて同年6月30日から平成29年3月16日まで、校舎新築予定地の西半分において、現地における発掘調査（第30次調査）を実施した。

校舎東半分の建設予定地には体育館があり、その解体が終了した令和元年7月1日から9月12日まで、現地における発掘調査（第31次調査）を実施した。

現地調査後は、令和元年度から2年度にかけて、遺物整理作業及び報告書作成を実施した。なお、第30・31次の調査面積はそれぞれ829㎡、125㎡であり、合計は954㎡である。

2. 調査の体制

施工担当 教育部 学校施設課

調査主体 久留米市教育委員会

教育長 大津秀明（平成28～令和元年度） 井上謙介（令和2年度）

調査総括 市民文化部

部長 野田秀樹（平成28～29年度） 松野誠彦（平成30年度）

宮原義治（平成31・令和元年度）

竹村政高（令和2年度）

文化芸術担当部長 甲斐田忠之（平成28～29年度）

竹村政高（平成30～令和元年度）

次長 竹村政高（平成28年度） 西村信二（平成29～令和2年度）

調査担当 文化財保護課

課長 馬場博文（平成28～29年度） 水島秀雄（平成30～令和2年度）

課長補佐 山崎万里子（平成28～29年度） 久保田由美（平成30～令和2年度）

主査 水原道範（平成28～令和2年度）

事務主査 豊福早苗（平成28～29年度）

塚本映子（平成28～令和元年度）

小澤太郎（平成31・令和元～2年度）

庶務担当 市村久美子（平成30～令和2年度）
事前確認 神保公久（平成28年度）
調査担当 熊代昌之（平成28年度） 江頭俊介（平成31・令和元年度）
整理担当 古賀和子（平成28年度） 宮崎彩香（平成28～令和2年度）
米澤美詠子（平成28～令和2年度）
岩坪純子（平成29年度） 今村理恵（平成30～令和2年度）

発掘調査臨時職員

青木佐智子、秋永絹子、石橋康子、伊藤美樹、上葉友記、大淵文子、大江田博子、居石寿智、鐘江清、蒲池稔、川原初美、久保田英嗣、合戸喬一、古賀香澄、進上裕永、高尾春代、田中樹子、田中とし子、永尾忍、中村麻衣、中村万喜男、野口忠勝、原学、原口貞子、福田猛、藤木幸子、舟越朝菜、平田広之、松尾朱美、松尾英明、丸山幸、溝口輝男、矢野崇徳、山口誠也、渡辺しげ子

発掘調査整理臨時職員

阪柿友紀、後藤とみ子、田島博子、福田澄子、矢野祐子、山口由季子、山元博子、湯川琴美

3. 調査の経過

(1) 第30次調査

新校舎建設地西側の調査を行った。調査区が学校校庭であるため、対象地を西側・中央・東側の3分割して、西から1区、2区、3区として調査を行うこととし、平成28年6月30日より西区の調査を開始した。同日、校庭にプラスチックフェンスを設置し調査区をグラウンドより隔離する。午後に機材を搬入し現場作業の準備を行う。7月1日、重機による表土剥ぎを開始し、梅雨時の降雨に悩まされながらも、14日に表土剥ぎを終了する。表土剥ぎに並行して、7月4日より作業員を投入して遺構検出を開始する。その後、遺構掘削・測量・写真撮影を随時行い、8月19日空中写真撮影を実施した。その後、掘り残していたSD62の掘り下げを行う。8月22日学芸員実習生の現場体験を受け入れる。9月2日、台風12号の接近に伴い、深掘りを行っていたSD62を急遽埋め戻し、台風養生を行う。9月6日より1区の埋め戻しと並行して、2区の表土剥ぎを重機により実施。9月15日表土剥ぎを完了し、遺構検出を開始する。並行して、遺構掘削、測量、写真撮影を随時行う。9月16日台風16号の接近に伴い、台風養生を行い現場中断。9月20日に復旧作業を行い、調査を再開する。9月27日6年生を対象として体験発掘を行う。生徒・保護者を含め60名が参加した。10月3日台風18号の接近に備え、台風養生を行い作業中断。10月6日に復旧作業を行い、調査を再開する。10月30日に2区の空中写真撮影を実施する。11月7日井戸状遺構の断割りを重機にて実施する。11月8日より2区の埋め戻しを開始。降雨による中断を経て、11月15日3区の表土剥ぎを完了する。11月17日より遺構検出を開始し、同時に遺構掘削、測量、写真撮影を随時行う。12月13日、現地にて今後の工程会議を京町小学校・学校施設課と行い、工事車両搬入口がスロープ状に掘り下げ

られることから、3月に学校敷地北西部分の一部を確認調査（4区）することとした。平成29年1月17日空中写真撮影を行い、翌18日より重機による埋め戻しを開始する。埋め戻しの土量が不足したため、2月17日に埋戻し業務の委託契約を行い、2月21日から3月3日にかけてグラウンドの復旧作業を行う。3月6日より北西部に位置する4区の調査を開始、重機による表土剥ぎを行う。翌7日に表土剥ぎを終了するが、対象地の3分の2が旧校舎の基礎による削平を受けており、残りの3分の1部分についてのみ調査を行うこととなった。3月8日より作業員を投入し、遺構の検出作業を行い、並行して遺構掘削、測量、写真撮影を行う。3月14日に調査区全体写真を撮影する。同日、遺構検出面が造成面と推定されたため、重機による掘り下げを行い、地山面の確認を行うも、現地表より4mの地下げを行っても地山に到達できなかったため、安全面を考慮し、地山の検出を断念する。その後、略測を行い埋戻しを行う。3月16日、全ての機材を撤収し調査を終了した。

遺構の測量は株式会社CUBIC「遺構くんcubic」を用いて実施し、一部遺構については、水糸メッシュ法により実測を行った。遺構写真は、マミヤRB67を用いて撮影を行った。

（2）第31次調査

新校舎東半分の建設予定地を対象に調査を実施した。旧体育館解体の際の立会調査の結果、旧体育館部分の遺構が残存していないことが確認された。そのため、第31次調査の調査区は、既に竣工した新校舎東半分と旧体育館の間の138㎡の区域が対象となった。令和元年7月1日より、作業員駐車場の整備、バリケード設置、縄張り等を行い、7月5日より、重機による表土剥ぎを行った。遺構の検出実施後、各遺構の掘削、測量、写真撮影等の記録保存調査を行った。7月16日には、6年生を対象に、体験発掘を実施した。途中、酷暑や台風による中断を挟みながら調査を進め、9月6日には空中写真撮影を実施した。9月10日からは、埋戻し等を行い、9月12日に現地調査を終えた。

遺構の測量は株式会社CUBIC「遺構くんcubic」を用いて実施し、遺構写真は、Canon EOS 6Dで撮影した。

4. 位置と環境

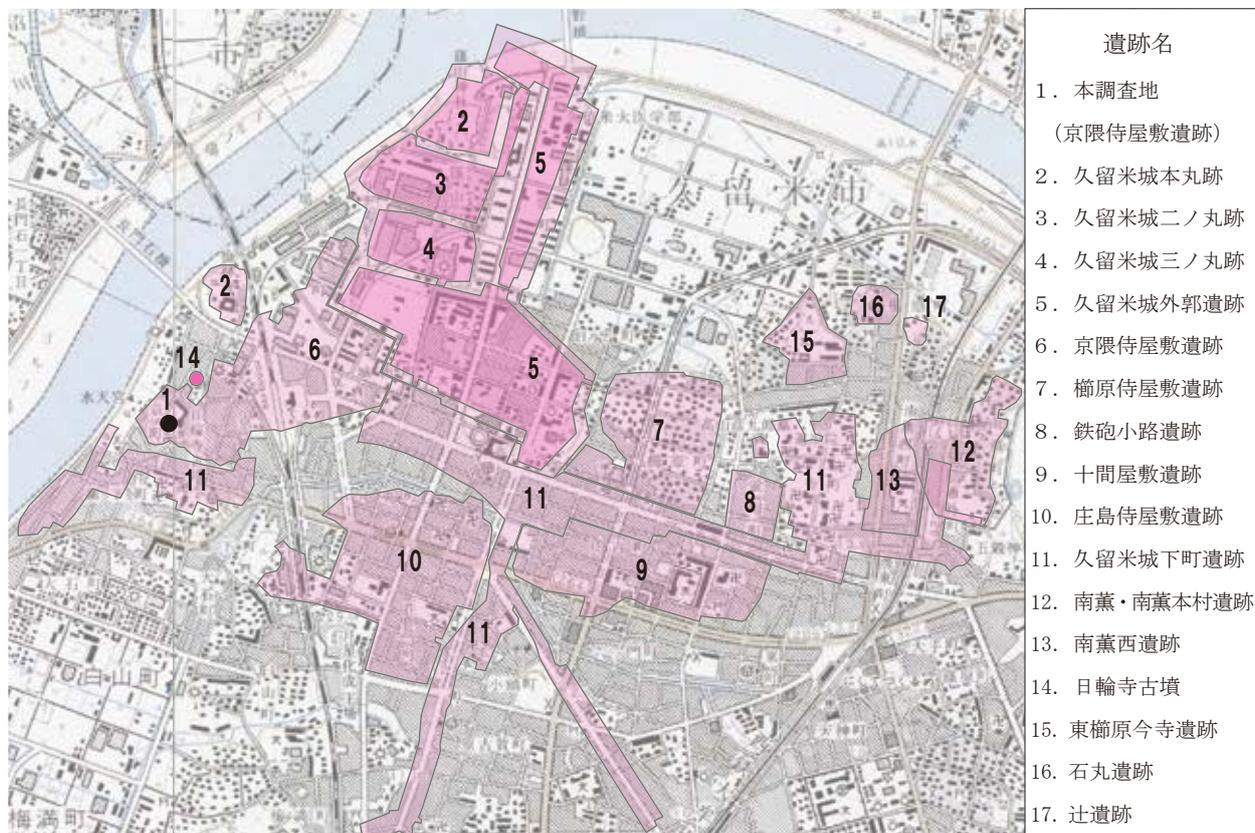
久留米市は九州の北部、福岡県のほぼ中央に位置し、南北16km、東西32kmの東西に長い市である。市域は、九州一の大河筑後川の中下流域に沿っている。

筑後川は熊本県阿蘇郡瀬の本高原に端を発し、山岳部を北流したのち、玖珠川を合わせ、うきは市、日田市にまたがる夜明ダムを通過し、平野部に出る。ここまでが上流域であり、以西は中流域である。平野部では佐田川、小石原川、大刀洗川、巨瀬川、宝満川などを合わせ西流し、久留米市北西部の久留米城あたりで南西に流れを変える。久留米市大善寺の筑後川大堰より以西は下流域となり、佐賀県と県境を成す。流域面積は2,860平方キロメートルを測り、九州最大の平野である筑紫平野を形成している。

筑紫平野の中央に位置する久留米市は、戦国末期以降、久留米城の城下町として発展し、人口30万人を擁する、筑後地方の中核都市である。中心市街地は、久留米城がある篠山町を中心として、その西に隣接する京町や、東に隣接する櫛原町、南に隣接する中央町などは、古くから久留米の町の中核となった地域であり、現在は市役所や法務局、高校などの公共施設や、商店街などが立地している。この「久留米の街」が形成される起源となったのは、中世、おおよそ室町時代と考えられる。

旧石器時代から古代における調査地周辺の歴史的な環境は、後述する久留米城及び城下町の大規模な削平・造成によって判然としない。旧石器時代では、ナイフ型石器が隣接する久留米城外郭遺跡で出土しており、その痕跡が確認できる。縄文時代については、現在のところ遺構は確認されていない。弥生時代には第6次調査で甕棺墓が、第4・23次調査で竪穴建物跡が検出されており、弥生時代の集落・墓地が展開していた状況を示す。古墳時代には、調査地が位置する京町小学校の北に、5世紀後半の前方後円墳である日輪寺古墳が所在する。日輪寺古墳は墳長50mを測り、主体部である横穴式石室には、同心円文等の装飾がある石障を有す装飾古墳である。古代の遺構は、土坑等が散見されるがその密度は希薄である。中世になると、第12・13次調査等から溝等の遺構が確認されており、城下町造成前の遺構が検出されている。

「くるめ」の文献における初出は、『筑後鷹尾文書』における建武3年(1336)2月13日「瀬高下庄々官等連署去渡状写」に見える「くるめかた」である(『久留米市史』第7巻P.509)。次に貞和3



第1図 調査地周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

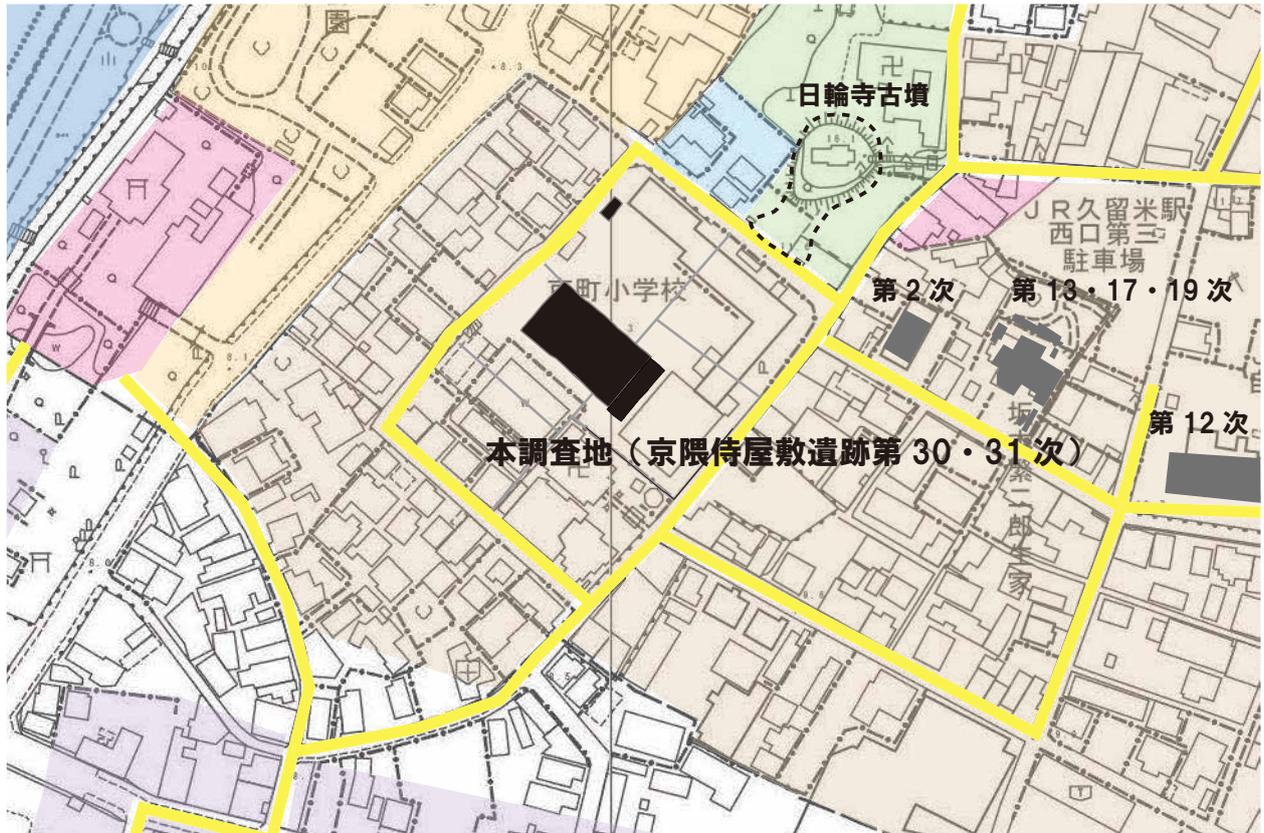
年(1347)には『御船文書』において「久留米入道」が見える(『久留米市史』7巻P257)。『隈文書』「報恩寺々領坪付之事」には、応永25年(1418)2月28日付で「くるめ屋敷」「久留米屋敷」「久留目屋敷」の記載がある(『久留米市史』第1巻P.745)。続いて『鷹尾神社関係文書』応永27年(1420)7月「溝口目安申状案」に「久留米方」の記述があり(『久留米市史』第7巻P.537)、いずれも高良山関係者で、久留米を拠点にした僧侶とその集団の存在を示している。戦国期前後に書かれた『高良玉垂宮神秘書』においては、祭事の世話役とみられる「十二人ノヲトナ」の中に、「クルメ」がみえることから、中世における久留米の発祥には、高良山勢力が関係していることが窺える。

戦国期の久留米は、龍造寺、大友、島津の三大勢力の争奪の場となった。その後、秀吉による九州出兵を経て、久留米城主となったのは毛利元就の九男、小早川秀包である。諸説あるが、御井郡の一部と山本郡を合わせた3,500石を領有した。現在の久留米市役所庁舎建設に先立って実施された両替町遺跡(久留米城下町遺跡第2次調査)では、毛利家の沢瀉紋鬼瓦や大規模なキリスト教会堂の遺構が検出されている。関ヶ原合戦後には、田中吉政が筑後国主として入封し、柳川城を本城とした。土木の神様として知られる田中吉政は、梅林寺岸の開削や、城郭の整備、柳川久留米間の幹線道路建設など大規模な整備を行った。このころには、久留米城(後の本丸・二ノ丸、三ノ丸)、祇園丁(元町、後の久留米城外郭)、柳原、内町、三本松町、長町(後の通町)、洗切(京隈の西端に位置する川湊)が形成されており、この頃から、久留米城下町の骨格がすでに完成していたと考えられる。2代目忠政には子がなく、1620年に断絶したのち、翌年には筑後北半国が有馬豊氏に与えられ、久留米21万石の領主となった。その後明治初期まで久留米は有馬の城下町として栄えた。

本調査区が位置する京町は、中世には経隈村と呼ばれた村落が存在した。有馬入城後、外郭や侍屋敷が建設される際には、祇園丁とともに、経隈村の住民も城外に移転させられたことが記されている。(『石原家記』) 櫛原、庄島、十間屋敷ともに久留米城を囲むように建設された侍屋敷である京隈小路(きょうのくまこうじ)は、上・中級武士の屋敷地であった。小路の北西端にあった川湊・洗切(あらいぎり)は、有馬水軍の根拠地となり、港町は小路南端の瀬下町に集約された。小路の西側は、筑後川に沿って、北に梅林寺、南に水天宮が置かれた。水天宮は2代目藩主忠頼の時代に、城下町から当地に移転した。京隈小路は筑後川の河岸段丘上にあり、起伏に富んだ地形であることから、有馬入城後に大規模な造成工事が行われたと見られ、現在も急な段造成の痕跡が残っている。

京隈小路には、寺社のほか、140軒の屋敷が建ち並んでいた。1軒の面積は、おおむね1,500~2,000㎡を有し、居住者は150~500石程度の上・中級武士であった。京隈小路出身の著名人は、枚挙にいとまがないが、近代洋画の坂本繁二郎をはじめ、幕末の藩政改革に尽力した村上守太郎、久徳与十郎、松岡伝十郎、本庄仲太、久留米藩大参事の水野正名、三越百貨店の創業者日比翁助などが代表的である。

第30・31次調査区は、京隈小路を南北に貫く小松原地区の西側にあたり、居住者は、延宝期は第30次調査地が鈴木氏・安藤氏・岩井氏・岡本氏、第31次調査地が安藤氏、天保期は第30次調査地が山田氏・岡本氏・佐々木氏・高橋氏、第31次調査地が高橋氏である。



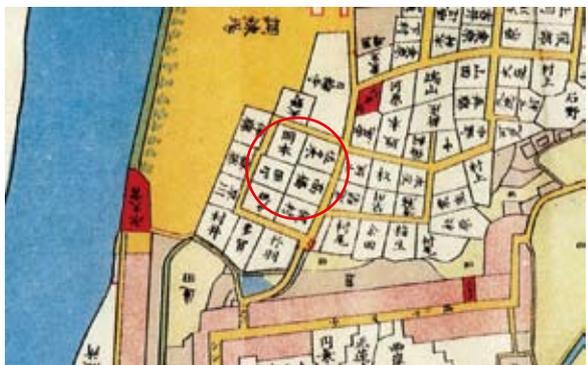
第2図 調査地の位置図 (1/2,500)



延寶八年久留米市街図 (1680年)



伝元禄十四年製之古図 (1701年力)

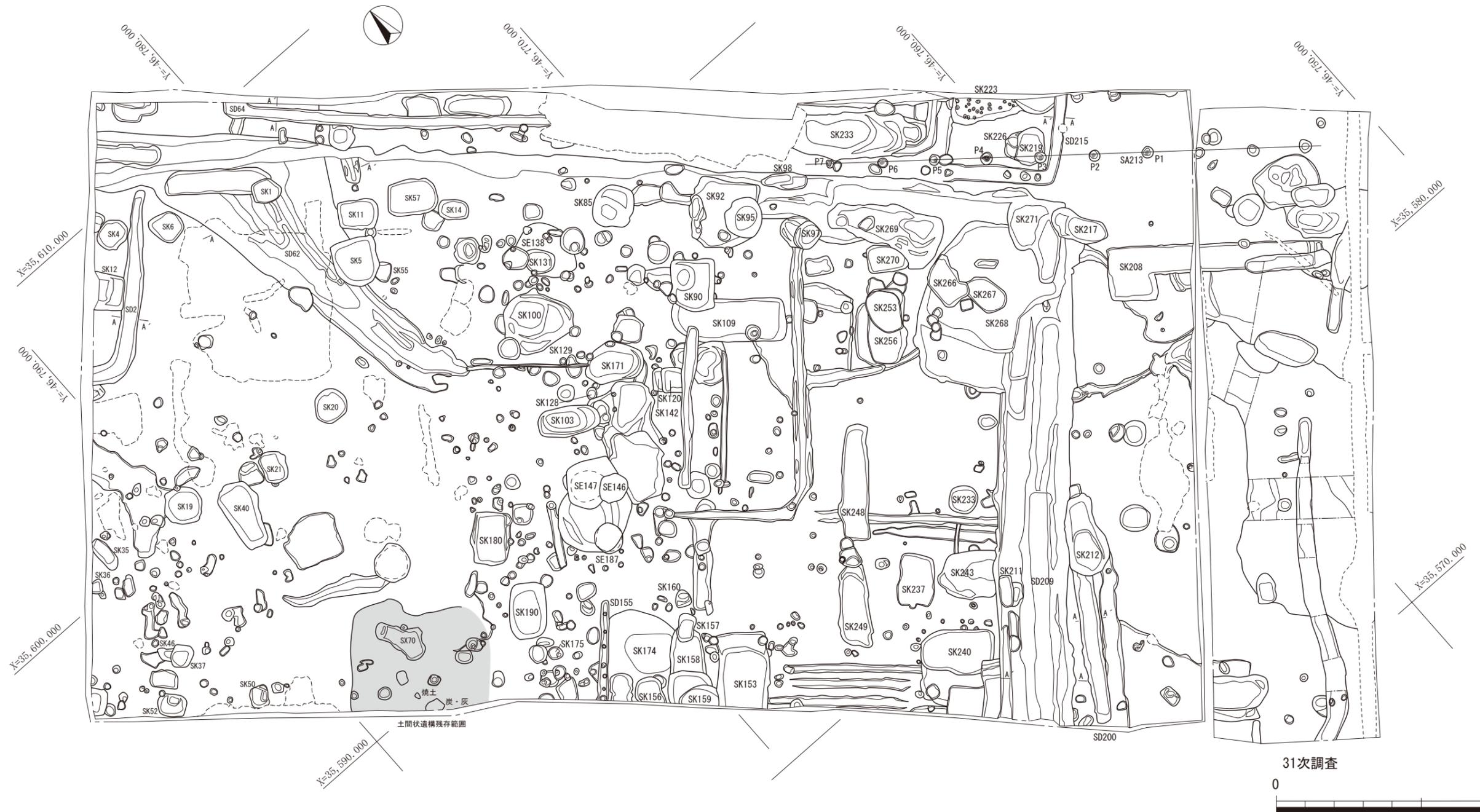
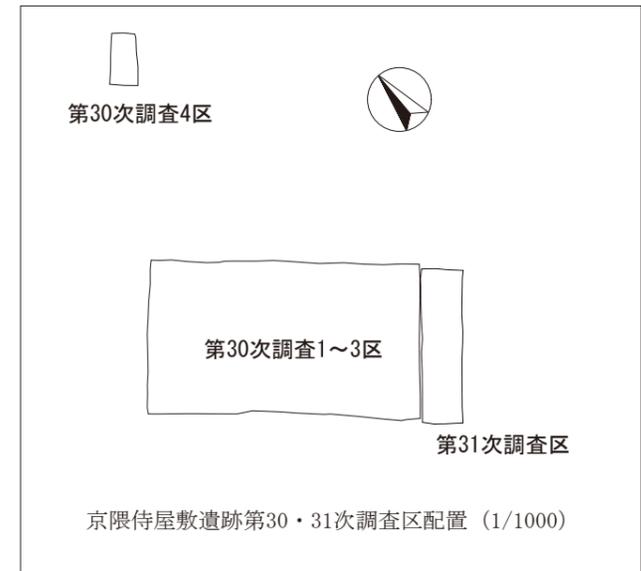
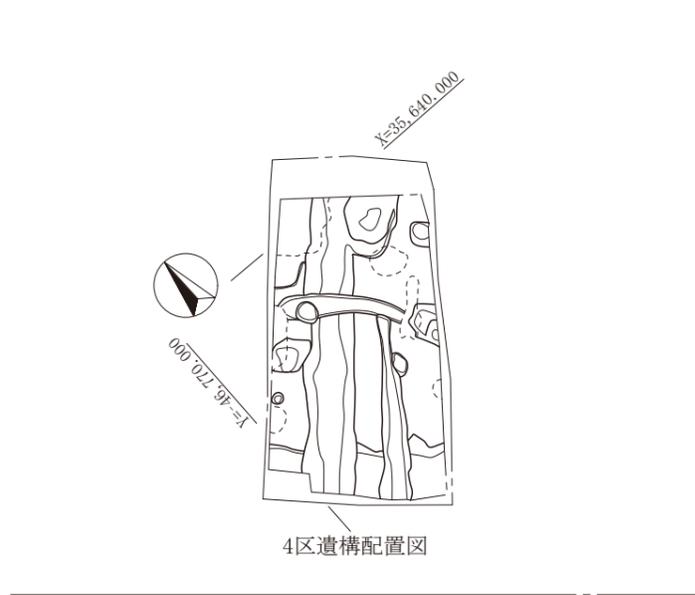


天保年間久留米城下図 (1830～1844年)



明治二年旧郭図 (1869年)

第3図 絵図から見る調査区の位置 (縮尺任意)



第4図 京限侍屋敷遺跡第30次遺構配置図 (1/150)

第2章 第30次調査

1. 検出遺構

今回の調査では、17世紀半ばの造成痕跡、武家屋敷の屋敷境、近世の溝7条、井戸4基、土坑61基、ピット等が検出された。

柱列

S A 213 (第5図 図版3)

調査区北東に位置する柱列痕で、第30次調査から第31次調査地にわたり検出された10基のピットにより構成される。ピットの直径は約30cmから40cmで、深さは45cmから8cmを測る。柱間は芯々間で1.85mを測り、残存長は16.8mである。柱列は、天保年間久留米城下図の佐々木家と高橋家の屋敷境に位置しており、両家の屋敷地を区画する構造物の一部であったと考えられる。各ピットより柱痕跡を確認していることから、掘立柱が建てられていたと想定されるが、上屋の構造は不明である。屋敷の境界に位置することから、柵列もしくは塀の可能性が考えられる。各ピット埋土中より、磁器の碗・皿・急須、陶器の急須・火入等が出土しており、19世紀の半ばに位置づけられる。

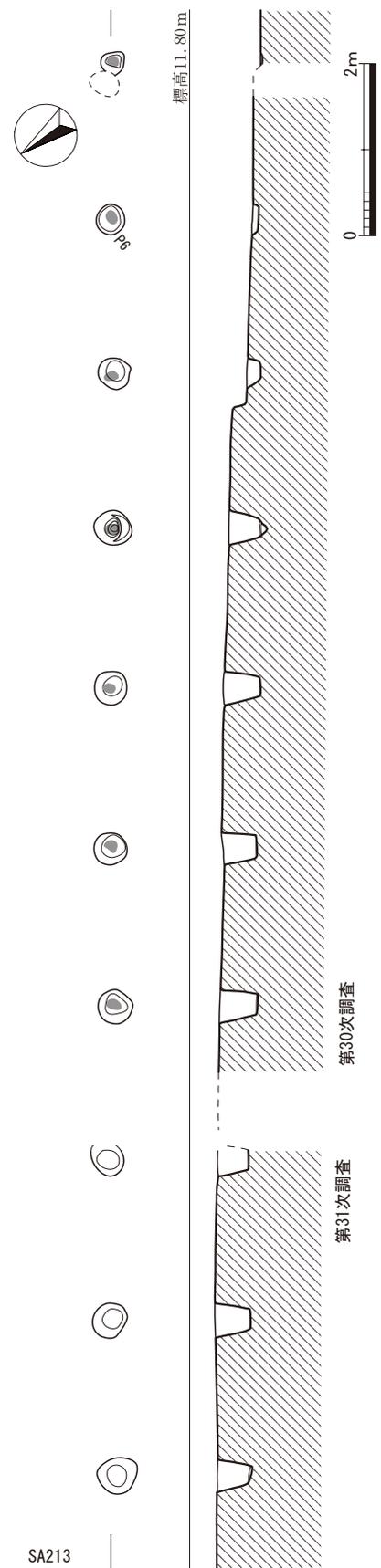
溝

S D 2 (第6図 図版3)

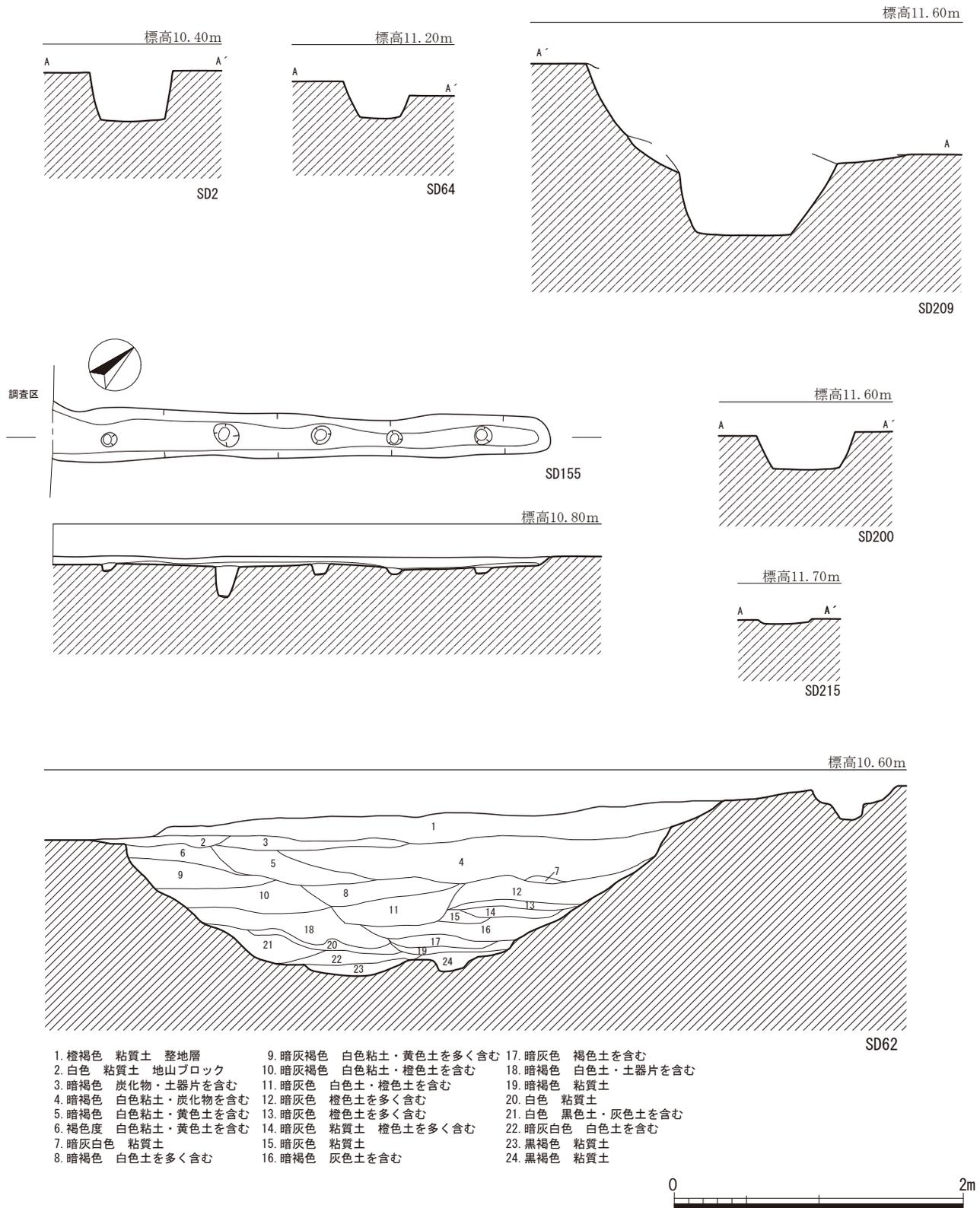
調査区北西隅に位置する溝で、南西隅で逆L字に屈曲し調査区外へと延びる。北端部は、北側屋敷境の段落ち手前で途切れる。長さは、南西から北東方向に6.71m、屈曲した北西方向に1.12mが検出されている。溝の断面は逆台形で、幅0.77m、深さ0.55mを測る。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられるが断定はできない。埋土中より、磁器の碗、土師質の灯明皿等が出土しており、18世紀前半に位置づけられる。

S D 62 (第6図 図版3)

調査区中央から北に向かい走行する溝で、北端部は調査区外へ延びる。南から北に向かい傾斜し、南端部の幅1.55m、深さ0.06m、北端部の幅5.2m、深さ3.7m以上を測り、幅、深さともに北に向かい規模が増大する。溝の断面は緩やかに内湾する逆台形を呈し、検出長は14.5mである。埋土中より、



第5図 S A 213 実測図(1/80)



第6図 SD2・62・64・155・200・209・215実測図(1/40)

磁器の皿、陶器の皿等が出土しており、17世紀半ばに位置づけられる。埋没状況から、人為的に埋め戻された状況が観察される。

SD 64 (第6図)

調査区北、屋敷境上段部に位置する溝で、北隅でL字に屈曲し北側は調査区外へと延び、南東部は攪乱により削平される。長さは、南東から北西方向に11.22 mが残存し、屈曲した北東方向に0.52 mが検出されている。溝の断面は逆台形で、幅0.51 m、深さ0.38 mを測る。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられるが断定はできない。埋土中より、磁器の碗・皿、陶器の壺等が出土しており、17世紀後半に位置づけられる。

SD 155 (第6図)

調査区中央南に位置する溝で、南部は調査区外へ延びる。底面に柱穴列を有す。長さ3.44 m、幅0.38 m、深さ0.13 mを測る。溝の断面は逆台形で、底面の柱穴列は、直径10 cmから20 cmのピット5基で構成され、柱間は、北から芯々間で0.61 m、0.52 m、0.68 m、0.82 mを測る。柵列もしくは塀の存在が想定される。埋土中より、陶磁器の細片が出土しているが、詳細な時期は断定できない。

SD 200 (第6図 図版3)

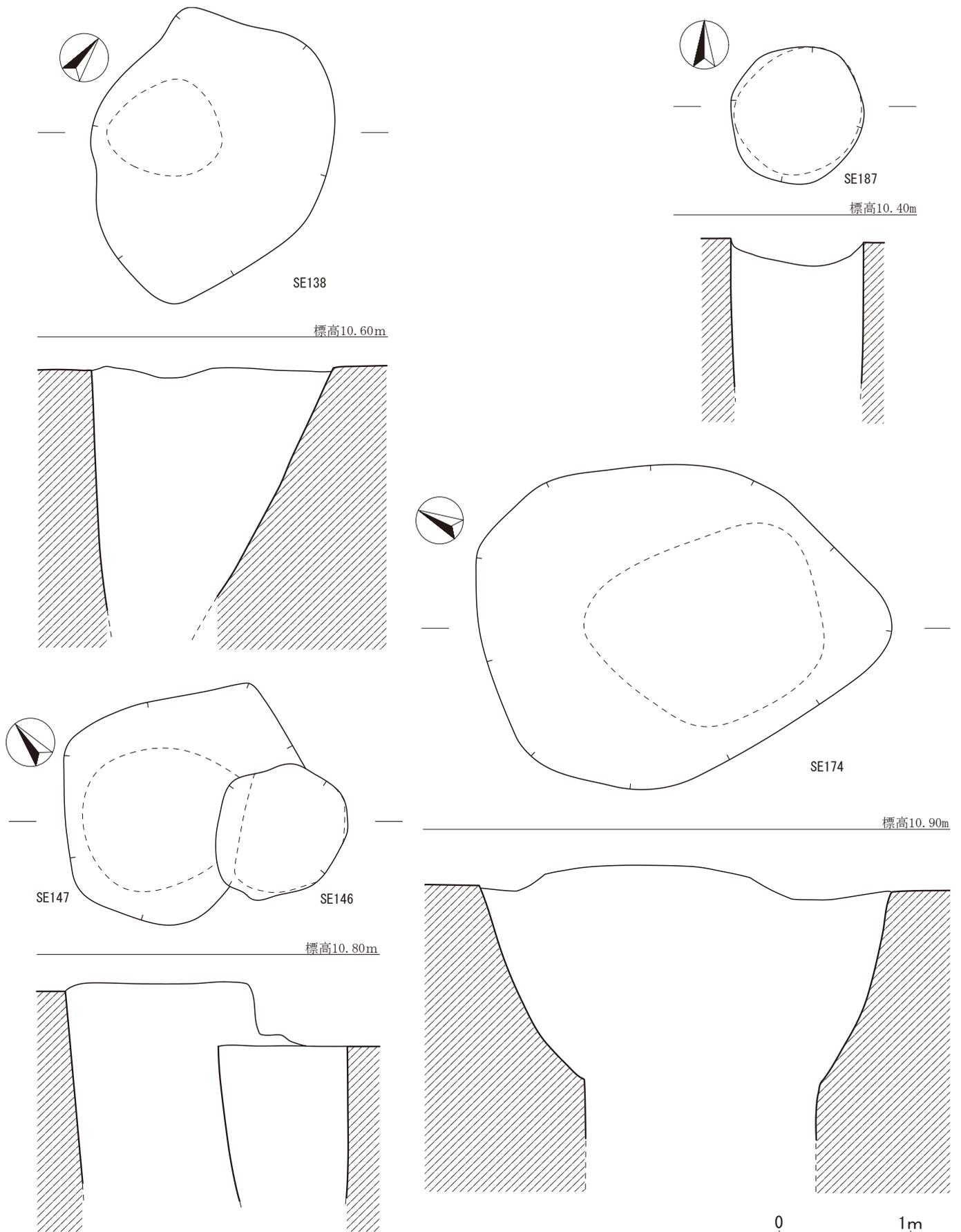
調査区東、屋敷境上段部に位置する溝で、北側をSK 212によって削平される。長さ8.27 m、幅0.67 m、深さ0.38 mを測る。溝の断面は逆台形で、溝の両端は隅丸方形を呈す。細長な土坑である可能性もあるが、溝の北側は屋敷境の段落ちに接しており、排水溝の可能性が高い。埋土中より、陶器の急須・鍋等が出土しており、19世紀に位置づけられる。

SD 209 (第6図 図版3)

調査区東、屋敷境下段部に位置する溝で、東西屋敷地の境界溝である。溝は、北側をSK 268・271によって削平されるか同時並存している。長さ14.45 m以上、幅2.25 m、深さは、東側1.32 m、西側0.75 mを測る。溝は、東西の屋敷境、段造成の下段部隅に位置し、底面は北から南へと傾斜する。断面は、下半が逆台形で、上半は西側が緩やかに立ち上がり、東側は急峻な傾斜で立ち上がる。屋敷境の排水溝であり、東側上端と西側上端の比高差は、0.67 mを測る。埋土中より、磁器の碗・皿、陶器の壺・皿・壺・播鉢等が出土しており、19世紀半ばに位置づけられる。

SD 215 (第6図)

調査区北東隅に位置する溝で、東端部で逆L字に屈曲し調査区外へと延びる。西端部は、次第に浅くなり途切れる。長さは、北西から南東方向に3.83 m、屈曲した北東方向に3.13 mが検出されている。溝の断面は逆台形を呈し、幅0.60 m、深さ0.19 mを測る。底面は、北東方向から南西方向へ傾斜する。建物に伴う雨落溝か西側の道路部分への排水溝の可能性が考えられる。埋土中より、ガラス片等が出土しており、19世紀後半以降に位置づけられる。



第7図 S E138・146・147・174・187 実測図 (1/40)

井戸

S E 138 (第7図 図版3)

調査区中央北に位置する不整形井戸で、長軸 2.20 m、短軸 1.79 m、深さ 1.86 m 以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器のくらわんか手碗、陶器の小皿等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

S E 146 (第7図 図版3)

調査区中央に位置する不整円形井戸で、S E 147 を切る。長軸 1.05 m、短軸 0.90 m、深さ 1.68 m 以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗片等が出土しているが、遺物量は少なく時期決定が困難であるが、S E 147 が 18 世紀半ばに埋没していることから、18 世紀半ば以降に位置づけられる。

S E 147 (第7図 図版3)

調査区中央に位置する不整円形井戸で、S E 146 に削平される。長軸 1.93 m、短軸 1.55 m 以上、深さ 1.52 m 以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の壺・皿・鉢・壺等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

S E 174 (第7図 図版3)

調査区中央南に位置する不整円形井戸で、SK156 等周辺遺構全てに切られている。長軸 3.06 m、短軸 2.41 m、深さ 1.71 m 以上を測る。断面はやや内湾しながら立上る逆台形を呈し、下半は垂直に立上る。底面までの掘り下げを行っていないため、底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗、陶器の播鉢等が出土しており 17 世紀半ばに位置づけられる。その他、弥生土器、須恵器。中世磁器・土師器の破片を含み全遺構の中でも古段階に属する遺構である。

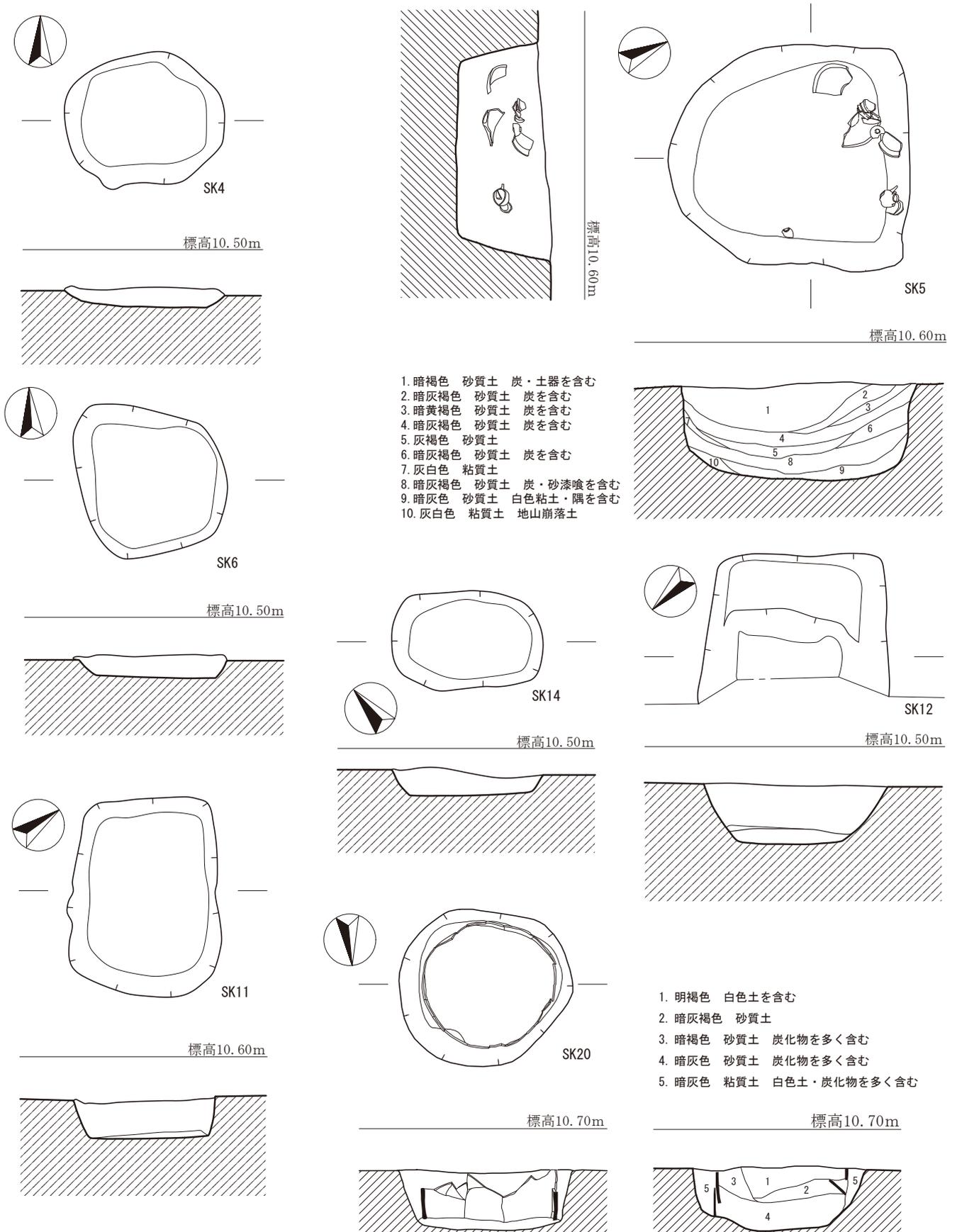
S E 187 (第7図 図版4)

調査区中央北に位置する円井戸で、長軸 1.03 m、短軸 0.99 m、深さ 1.56 m 以上を測る。底面までの掘り下げを行っていないため、断面形及び底面形は不明である。井戸枠の痕跡は認められず、素掘りの井戸と考えられる。埋土中より磁器の碗・瓶等が出土しており、19 世紀前半以降に位置づけられる。

土坑

S K 4 (第8図)

調査区北西隅に位置する不整形土坑で、長軸 1.18 m、短軸 0.97 m、深さ 0.19 m を測り、断面はレンズ状を呈す。埋土中より陶器の鉢・瓶、土師質の灰取が出土しており 17 世紀後半に位置づけられる。



第8図 SK4・5・6・11・12・14・20実測図 (1/40)

SK5 (第8図 図版4)

調査区北西に位置する不整形土坑で、長軸 1.67 m、短軸 1.57 m、深さ 0.65 mを測り、断面は逆台形を呈す。形状や遺物の出土状況から廃棄土坑として利用されたと考えられる。埋土中より西洋陶器の皿、磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の皿・急須等が出土しており、19世紀前半から半ばに位置づけられる。

SK6 (第8図 図版4)

調査区北西隅に位置する不整形土坑で、長軸 1.09 m、短軸 1.02 m、深さ 0.17 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より16世紀代の土師質土鍋片が出土しているが、周辺の状況から混入品の可能性が高く、時期は不明である。

SK11 (第8図 図版4)

調査区北西に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.39 m、短軸 1.06 m、深さ 0.27 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の急須・片口鉢等が出土しており、19世紀半ばに位置づけられる。

SK12 (第8図 図版4)

調査区北西隅に位置する隅丸長方形土坑で遺構の北西半部が調査区外に延びる。長軸1.05m以上、短軸1.29m、深さ0.38mを測る。断面は逆台形を呈し、南にステップ状の高まりを一段有す。埋土中より磁器の小皿・向付・油壺、陶器の碗・片口鉢等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

SK14 (第8図)

調査区中央北寄りに位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.05 m、短軸 0.71 m、深さ 0.27 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より陶器の鉢等が出土しており 19世紀に位置づけられる。

SK19 (第9図 図版4)

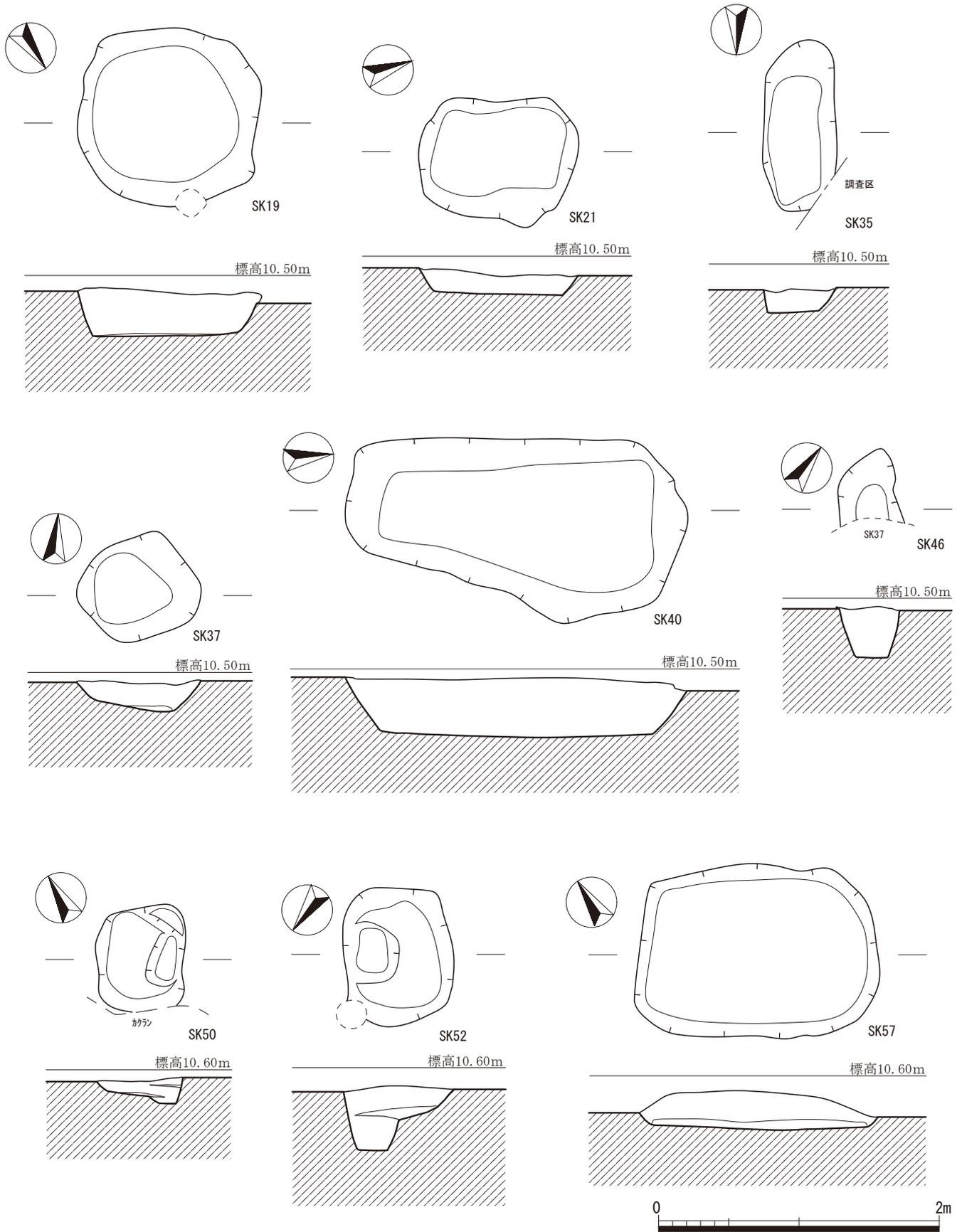
調査区北に位置する不整円形土坑で、長軸 1.29 m、短軸 1.28 m、深さ 0.37 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の皿・急須等が出土しており 19世紀半ばに位置づけられる。

SK20 (第8図 図版5)

調査区北西に位置する不整円形土坑で、長軸 1.21 m、短軸 1.10 m、深さ 0.42 mを測る。壁面は垂直に近い角度で立ち上がり、土坑内に土師質大型甕を据付けている。甕は胴部下半を打ち欠き、口縁部を下向きに置かれており、口縁部付近は白色粘土が充填されている。機能は明確ではないが、土坑底面に粘土が充填され甕が据付けられていることから、水を一定量貯めておくことが考えられ、検出位置が、屋敷地入り口の庭に想定されることから、庭の景観を構成する1部材と考えられる。出土遺物は細片で時期は不明である。

SK21 (第9図)

調査区北に位置する不整形土坑で、長軸 1.14 m、短軸 0.94 m、深さ 0.24 mを測り、断面は逆台形を呈す。埋土中より土製の面子が出土しているが時期は不明である。



第9図 SK19・21・35・37・40・46・50・52・57 実測図(1/40)

S K 35 (第9図)

調査区北西隅に位置する長円形土坑で、北西隅の一部が調査区外に伸びる。長軸 1.23 m、短軸 0.54 m、深さ 0.21 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の瓶等が出土しており 18 世紀末から 19 世紀前半に位置づけられる。

S K 37 (第9図)

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.88 m、短軸 0.79 m、深さ 0.23 mを測り、断面は東に傾斜するレンズ状を呈す。埋土中より磁器の碗等が出土しており 19 世代に位置づけられる。

S K 40 (第9図)

調査区北西に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 2.45 m、短軸 1.34 m、深さ 0.50 mを測る。壁面は緩やかに立ち上がり、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿・瓶、陶器の片口鉢等が出土しており 19 世紀後半以降に位置づけられる。

S K 46 (第9図)

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.57 m以上、短軸 0.46 m、深さ 0.35 mを測る。南半を S K 37 によって削平を受け、全体形状は不明である。断面は逆台形を呈す。埋土中より陶器の溝縁皿、軒丸瓦等が出土しており 17 世紀代に位置づけられる。

S K 50 (第9図)

調査区西隅に位置する不整形土坑で、長軸 0.78 m以上、短軸 0.64 m、深さ 0.20 mを測る。南側の一部を攪乱による削平を受ける。遺構の東および北に段を有し、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土中より磁器の端反碗・鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

S K 52 (第9図)

調査区西隅に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.00 m、短軸 0.79 m、深さ 0.50 mを測る。土坑東側をピット状に掘り込んでおり、柱穴の可能性もあるが、柱痕は確認できなかった。埋土中より磁器の蓋物、陶器の壺等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

S K 57 (第9図)

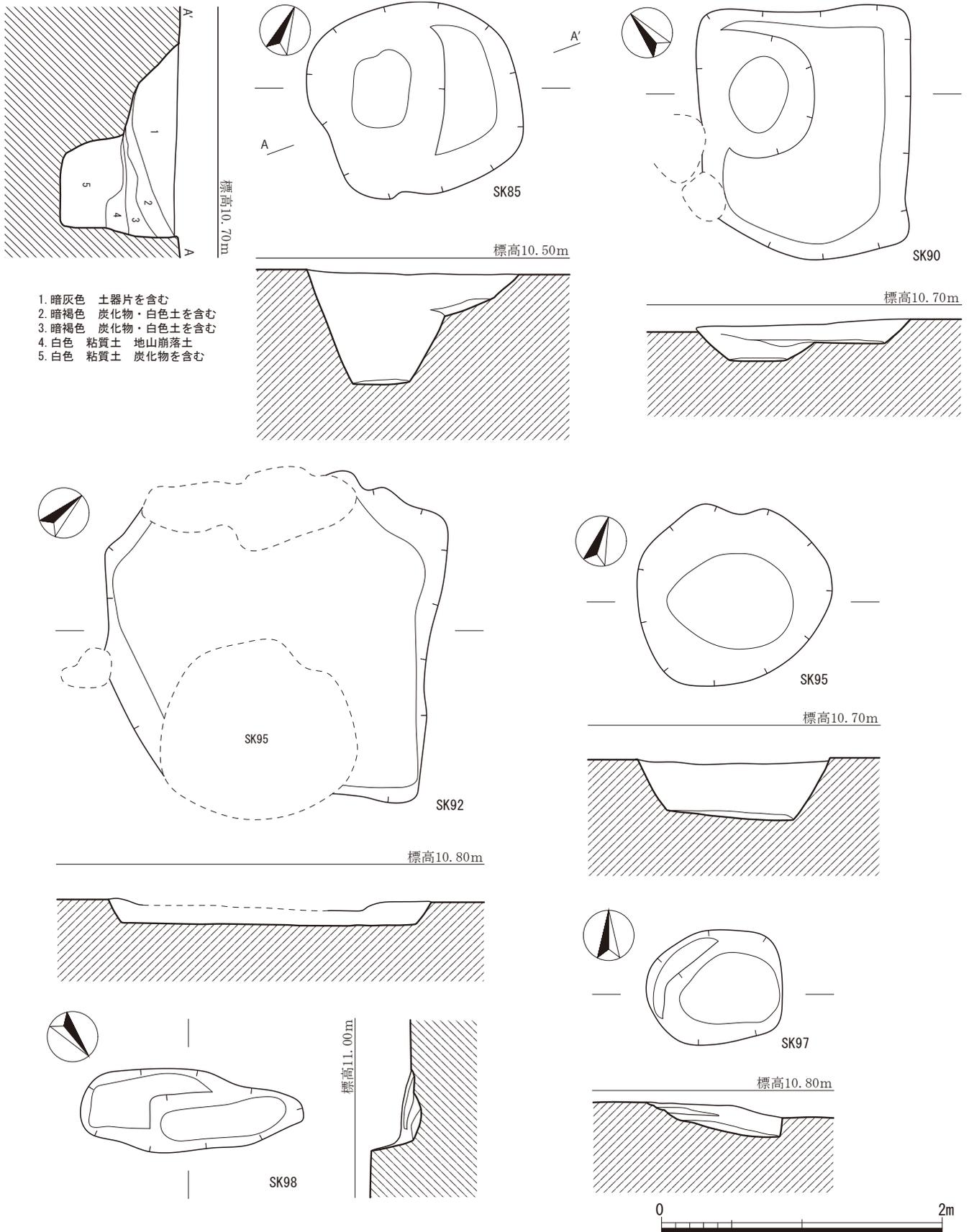
調査区北に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.75 m、短軸 1.24 m、深さ 0.26 mを測る。壁面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・蓋・猪口、陶器の壺等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

S K 85 (第10図 図版5)

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 1.55 m、短軸 1.41 m、深さ 0.89 mを測る。土坑東部に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗蓋、陶器壺・土瓶等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

S K 90 (第10図 図版5)

調査区中央北に位置する隅丸方形土坑で、長軸 1.82 m、短軸 1.53 m、深さ 0.33 mを測り、S K 109を切る。土坑北部にピット状の堀込を有す。断面形は逆台形を呈す。埋土中より磁器の壺・



第10図 SK85・90・92・95・97・98 実測図(1/40)

小皿、陶器の飴壺等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

SK 92 (第 10 図 図版 5)

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 2.40m、短軸 2.36m、深さ 0.23m を測り、SK 95 他の土坑によって削平を受ける。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

SK 95 (第 10 図 図版 5)

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 1.38m、短軸 1.31m、深さ 0.55m を測り、SK 92 を切る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・蓋・皿、陶器の壺・灰入等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。埋土中に含まれる遺物が一定の量があることから最終的には、廃棄土坑として利用されている。

SK 97 (第 10 図)

調査区中央北に位置する不整形土坑で、長軸 0.97 m、短軸 0.83 m、深さ 0.24 m を測る。断面は、底面が西から東に向かい傾斜し、西側に段を有す。埋土中より陶器の土瓶等が出土しており 18 世紀後半に位置づけられる。

SK 98 (第 10 図)

調査区中央北に位置する長円形土坑で、長軸 1.60 m、短軸 0.61 m、深さ 0.37 m を測る。屋敷境の段差に位置するため、掘方は北側が高く、南側が低い。断面は底面が南に傾斜し、北の立上りは急である。南に段を有す。埋土中より磁器の碗、軒丸瓦等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

SK 100 (第 11 図 図版 5)

調査区中央西に位置する不整形土坑で、長軸 2.44 m 以上、短軸 2.34 m、深さ 0.57 m を測り西と東の一部を土坑及びピットにより削平される。土坑南部に段を 3 段有し、北西にピット状の堀込を有す。壁面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・鉢、陶器の急須・播鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

SK 103 (第 11 図 図版 5)

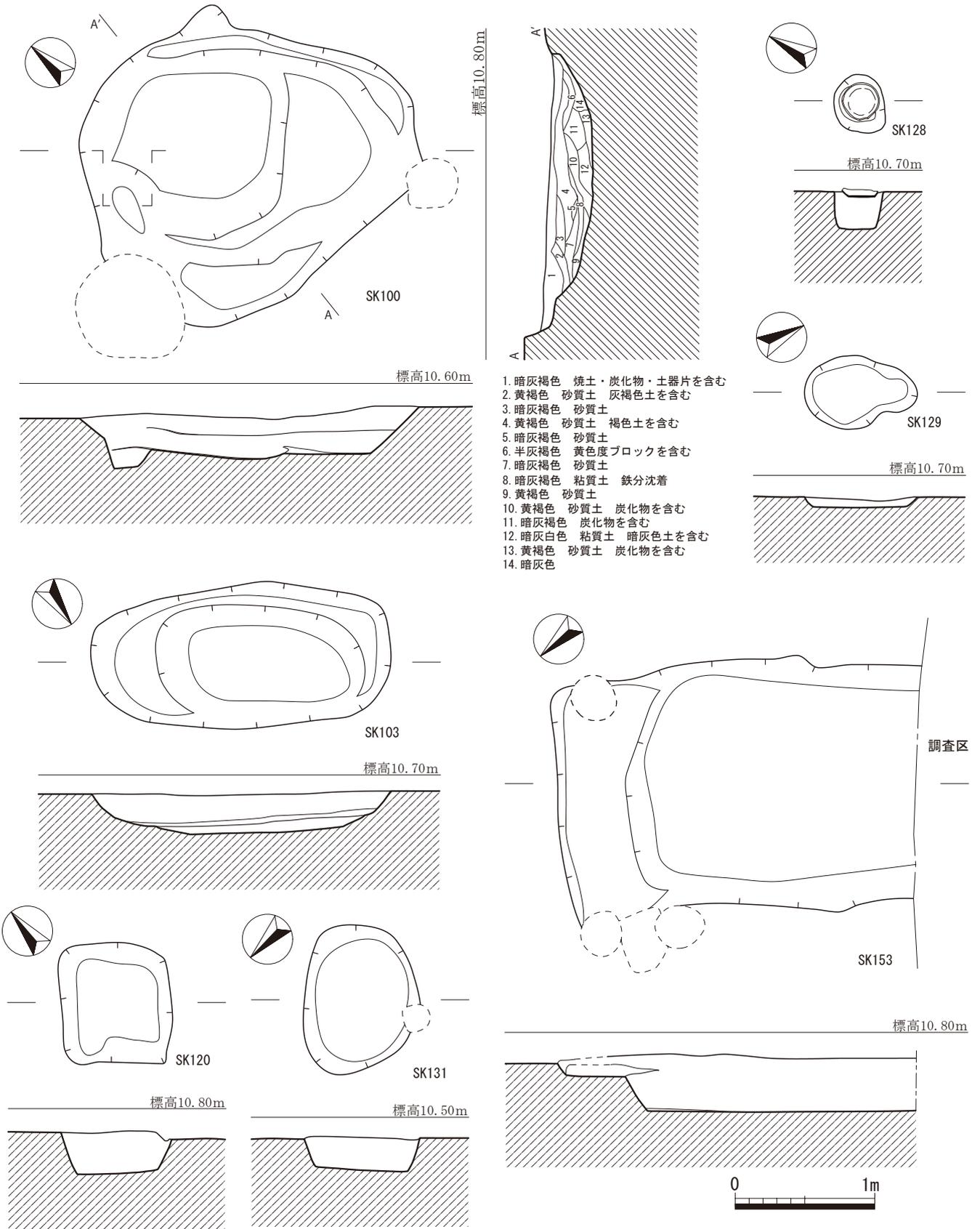
調査区中央に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 2.15 m、短軸 1.07 m、深さ 0.35 m を測る。土坑南部に段を有し、壁面は緩やかに立上る。埋土中より磁器の端反碗・皿・壺、陶器のミニチュア鉢等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

SK 120 (第 11 図 図版 5)

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸 0.86m、短軸 0.80m、深さ 0.32m を測り、SK 142 を切る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の壺等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

SK 128 (第 11 図 図版 5)

調査区中央に位置する楕円形土坑で、長軸 0.44 m、短軸 0.36 m、深さ 0.27 m を測る。断面は



第11図 SK100・103・120・128・129・131・153実測図(1/40)

逆台形を呈す。土師質の甕が据えられており、便槽と考えられる。

S K 129 (第11図 図版6)

調査区中央に位置する不整円形土坑で、長軸 0.78 m、短軸 0.53 m、深さ 0.17 m を測る。壁面は緩やかに立上る。陶器の甕が出土しており、便槽と考えられる。

S K 131 (第11図 図版6)

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸 0.89 m、短軸 0.79 m、深さ 0.27 m を測り、S E 138 を切りピットによる削平を受ける。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、清朝磁器碗等が出土しており 19 世紀前半に位置づけられる。

S K 142 (第12図)

調査区中央に位置する隅丸方形土坑で、長軸 0.83 m、短軸 0.34 m 以上、深さ 0.20 m を測り、S K 120 によって東半を削平される。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の鉢、軒丸瓦等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

S K 153 (第11図 図版6)

調査区中央南に位置する長方形土坑で、南半部が調査区外に伸びる。長軸 2.61 m 以上、短軸 1.84 m、深さ 0.48 m を測り、ピットによる削平を受ける。断面は逆台形を呈し、北側に段を有す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の壙・播鉢等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

S K 156 (第12図)

調査区中央南に位置する不整形土坑で、南半部が調査区外に伸びる。長軸 0.97 m 以上、短軸 1.02 m、深さ 0.09 m を測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗、陶器のハマ等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

S K 157 (第12図)

調査区中央南に位置する不整形土坑で、S K 158 を切る。長軸 1.00 m、短軸 0.59 m、深さ 0.29 m を測る。壁面は垂直に近く立ち上がる。埋土中より磁器の端反碗等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

S K 158 (第12図 図版6)

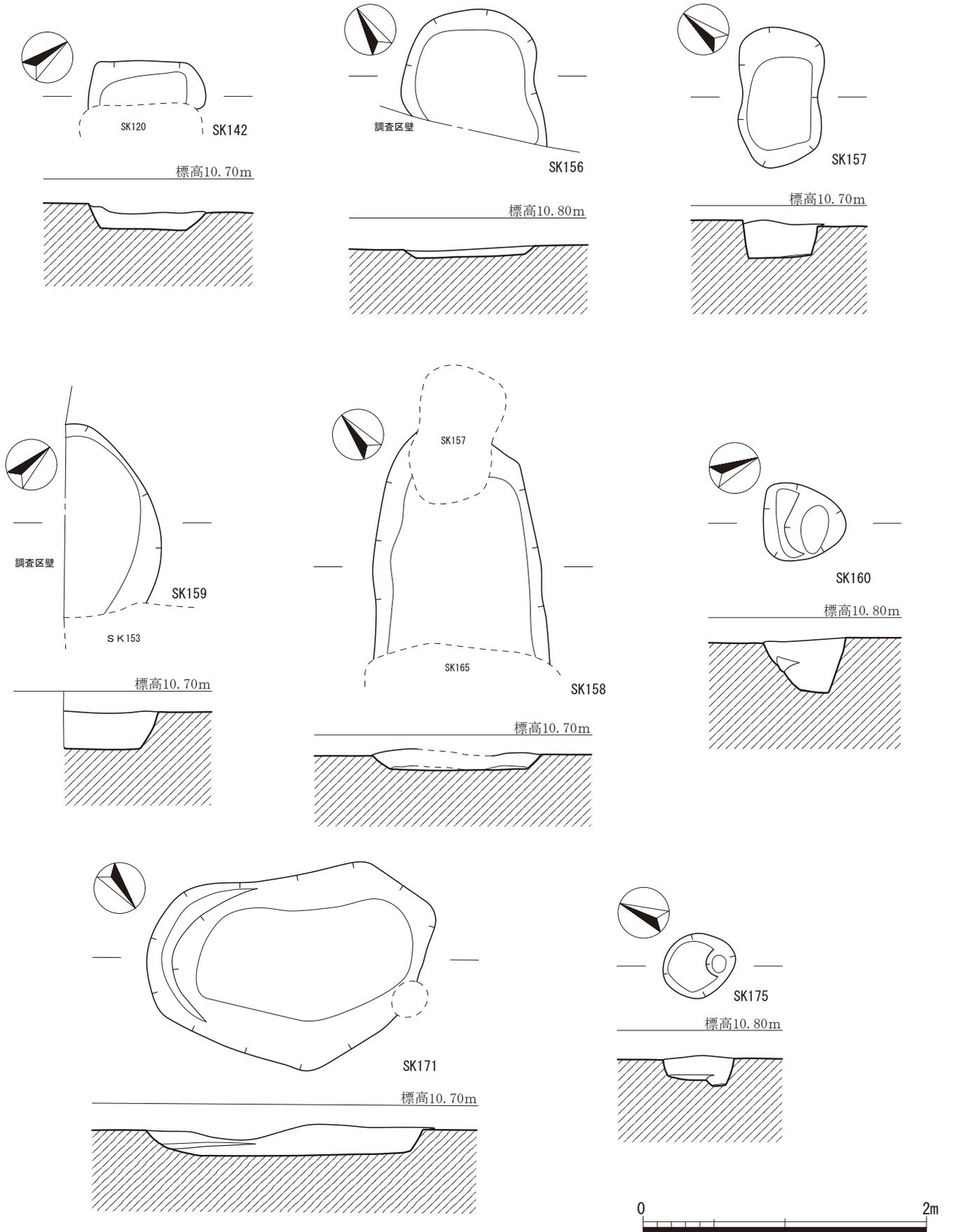
調査区中央南に位置する楕円形土坑で、北を S K 157、南を S K 165 によって削平される。長軸 1.60 m 以上、短軸 1.20 m、深さ 0.18 m を測る。断面は緩やかに立ち上がる逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗、陶器の急須蓋等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

S K 159 (第12図)

調査区中央南に位置する不整円形土坑で、南半部が調査区外に伸び、東を S K 153 により削平される。長軸 1.38 m 以上、短軸 0.68 m 以上、深さ 0.32 m を測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の瓶等が出土しており 18 世紀半ばに位置づけられる。

S K 160 (第12図)

調査区中央南に位置する不整形土坑で、長軸 0.58 m、短軸 0.56 m、深さ 0.40 m を測る。南半



第12図 SK142・156・157・158・159・160・171・175 実測図(1/40)

に段を有し、断面は南が緩やかに立上り、北は急角度で立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・碗、陶器の瓶、軒丸瓦、ガラス瓶等が出土しており 19 世紀半ば以降に位置づけられる。

S K 171 (第 12 図 図版 6)

調査区中央に位置する不整形土坑で、北側の一部をピットにより削平される。長軸 2.04 m、短軸 1.39 m、深さ 0.22 m を測る。南に段を有し、断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿・瓶、陶器の壺・瓶、土鈴等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

S K 175 (第 12 図 図版 6)

調査区中央南に位置する円形土坑で、長軸 0.49 m、短軸 0.45 m、深さ 0.16 m を測る。南にピット状の堀込を有し、断面は垂直に立上る逆台形を呈す。土坑内に陶器製の甕が据えられており、便槽と考えられる。埋土中より磁器の碗、陶器のハマ等が出土しており 18 世紀代に位置づけられる。

S K 180 (第 13 図 図版 6)

調査区中央に位置する長方形土坑で、一部にピットによる削平を受ける。長軸 1.86 m、短軸 1.42 m、深さ 0.27 m を測る。長軸両端に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿・瓶、陶器の急須蓋、土製品の鳩笛・土人形等が出土しており 19 世紀半ばに位置づけられる。

S K 190 (第 13 図 図版 6)

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.92 m、短軸 1.29 m、深さ 0.85 m を測る。断面は垂直に近く立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の広東碗・碗・皿・仏飯器、陶器の鉢・播鉢等が出土しており 18 世紀末から 19 世紀前半に位置づけられる。埋土中より多くの陶磁器が出土していることから、最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。

S K 208

調査区東端位置する L 字状に屈曲する方形土坑で、遺構の大半は第 31 次調査区 (S K 21) に位置する。遺構の詳細は第 31 次調査において述べる。第 30 次調査の埋土中からは、磁器の碗・皿・鉢、朝妻焼の皿、陶器の壺・皿等が出土している。

S K 211 (第 13 図)

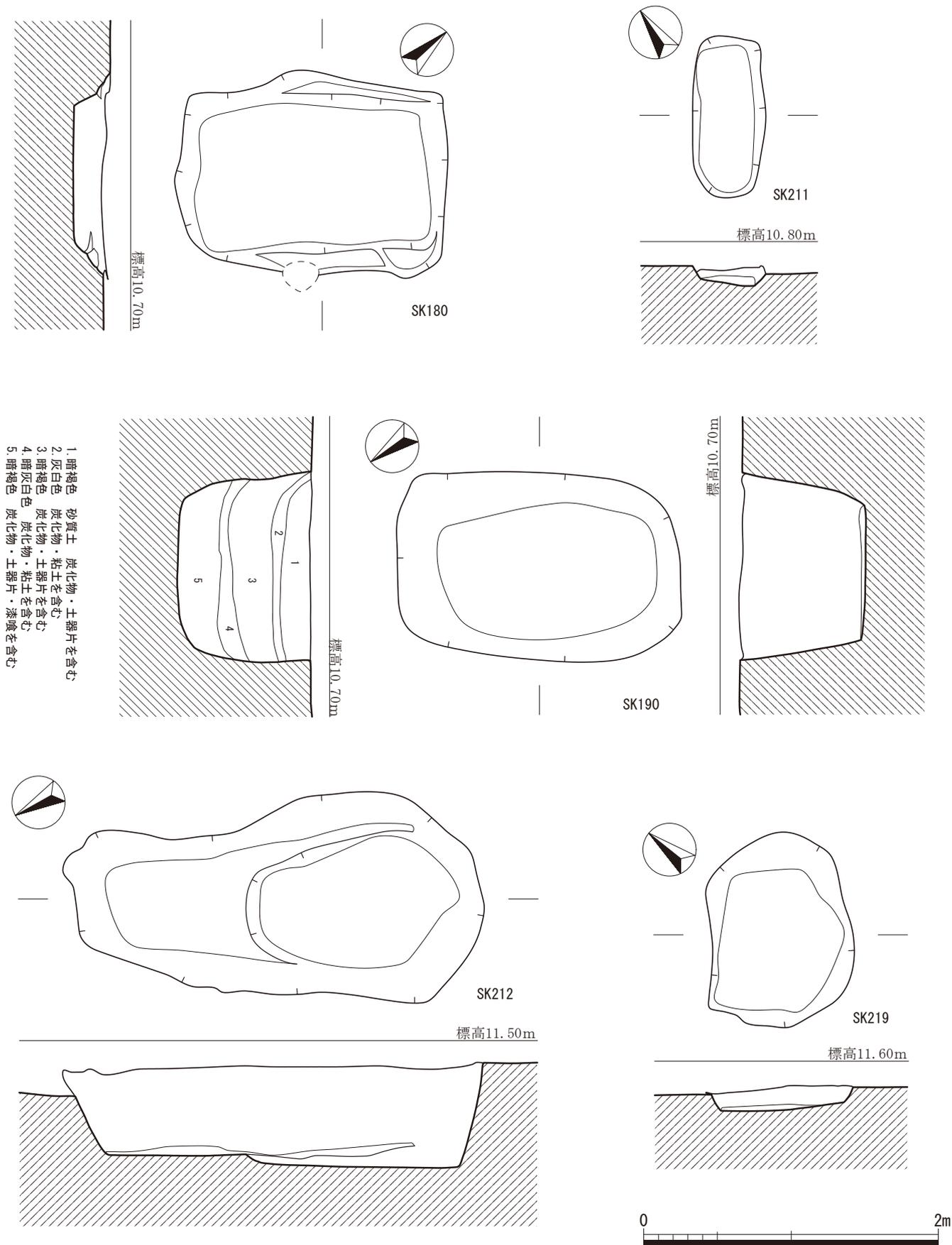
調査区東、S D 209 内に位置する隅丸長方形土坑で、長軸 1.11 m、短軸 0.50 m、深さ 0.14 m を測る。S D 209 による削平を受ける。底面は東に向かいやや傾斜し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・栓等が出土しており 18 世紀前半に位置づけられる。

S K 212 (第 13 図 図版 7)

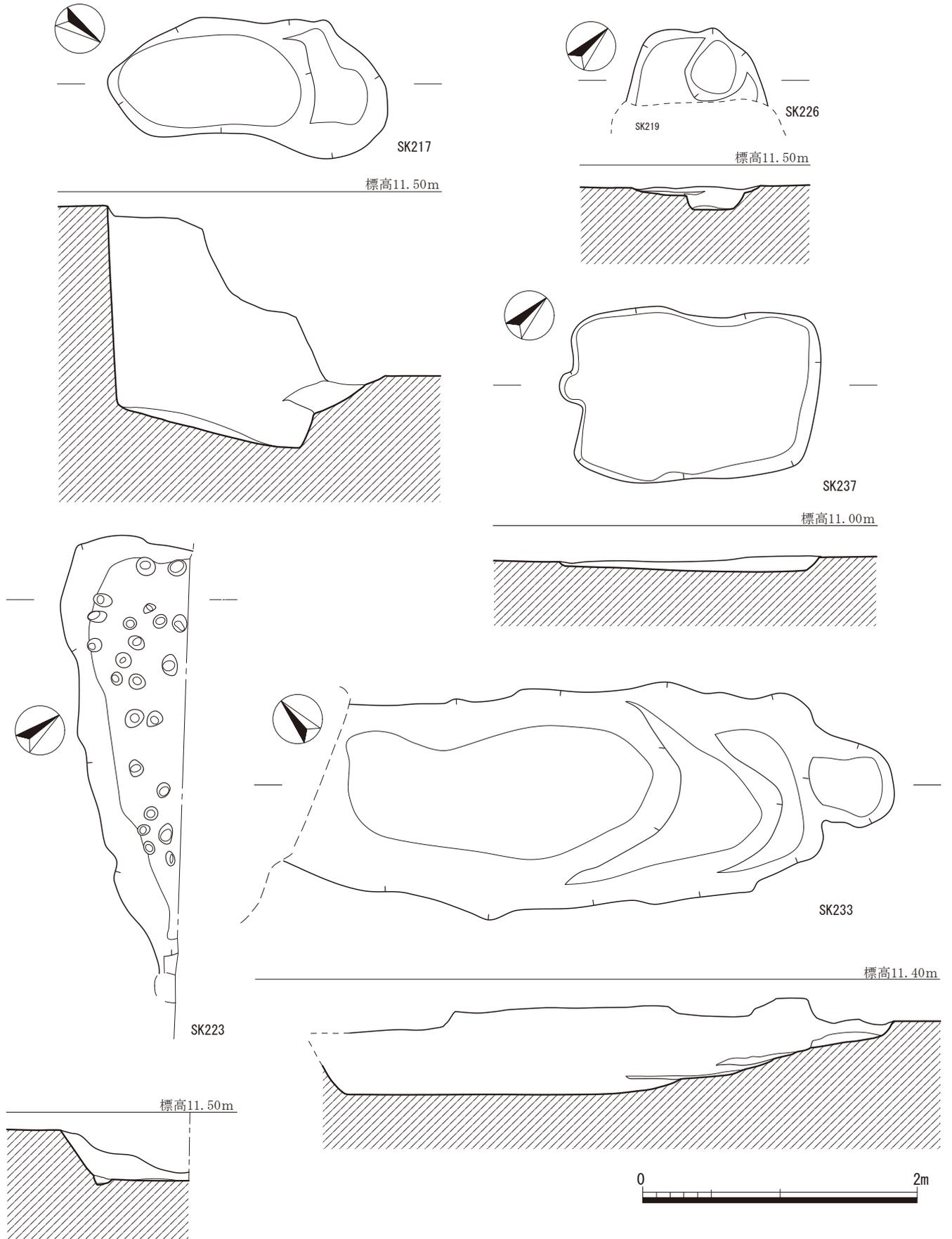
調査区南東に位置する不整形土坑で、S D 200 を切る。長軸 2.80 m、短軸 1.41 m、深さ 0.74 m を測る。北半から南東にかけ段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・碗・皿、陶器の急須蓋・平仄、硯等が出土しており 19 世紀半ばから後半に位置づけられる。

S K 217 (第 14 図 図版 7)

調査区南東部、屋敷境の段差部分に位置する不整形土坑で、S K 271 を切る。長軸 2.04 m、短軸 1.02 m、深さ 1.86 m を測る。北側に段を有し、断面は逆台形を呈す。屋敷境の段差部分に掘り



第13図 SK180・190・211・212・219 実測図(1/40)



第14図 S K 217・223・226・233・237 実測図(1/40)

込まれた土坑で、上段武家屋敷からの排水関連の土坑である可能性が考えられる。埋土中より磁器の碗、陶胎の皿、陶器の壙・播鉢、ガラス製簪等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。

S K 219 (第13図 図版7)

調査区南東に位置する不整形土坑で、S A 213 に上面を削平され、S K 226 を切る。長軸1.34 m、短軸0.96 m、深さ0.17 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗、陶器の鍋等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。

S K 223 (第14図 図版7)

調査区南東に位置する不整形土坑で、北側の大半が調査区外に伸びると考えられる。長軸3.15 m以上、短軸0.94 m以上、深さ0.42 mを測る。断面は逆台形を呈す。底面全体より小ピットが23基検出されている。ピットの径は10～20 cm程度で、深さは5から10 cm程度である。埋土中より磁器の端反碗・広東碗・碗、陶器の土瓶等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。

S K 226 (第14図 図版7)

調査区南東に位置する不整形土坑で、南半をS K 219 に削平され、北ピット状の堀込を有す。長軸0.55 m以上、短軸0.96 m、深さ0.19 mを測る。断面は逆台形を呈すと考えられるが遺存状況が悪く定かではない。埋土中より磁器の合子片等が出土しているが、所属時期は不明である。

S K 233 (第14図 図版7)

調査区南東に位置する不整形土坑で、北半を攪乱により削平される。長軸4.47 m以上、短軸1.76 m、深さ0.72 mを測る。南側に階段状のステップを3段有す。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の端反碗・広東碗・碗・碗蓋、陶器の壙・瓶・播鉢等が出土しており19世紀半ば以降に位置づけられる。遺物出土量の多さから、最終的に廃棄土坑として利用されたと考えられるが、階段状のステップが敷設されていることから、本来は穴倉であった可能性が高い。

S K 237 (第14図)

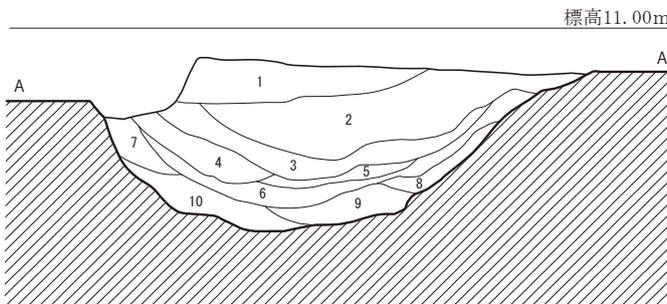
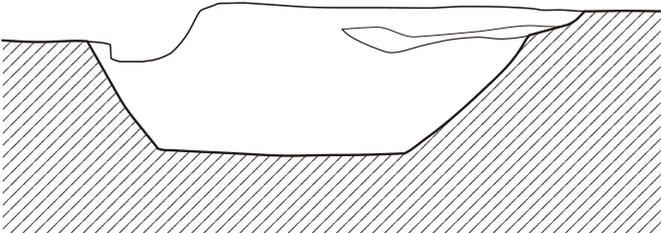
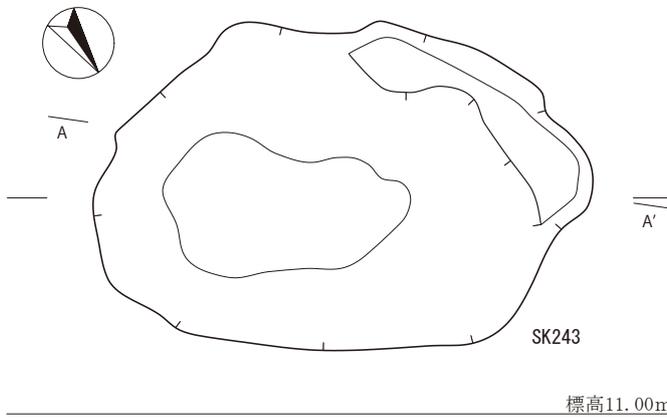
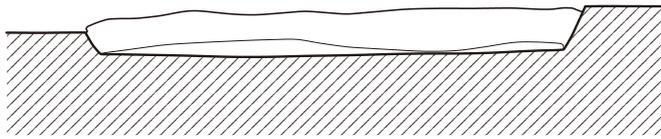
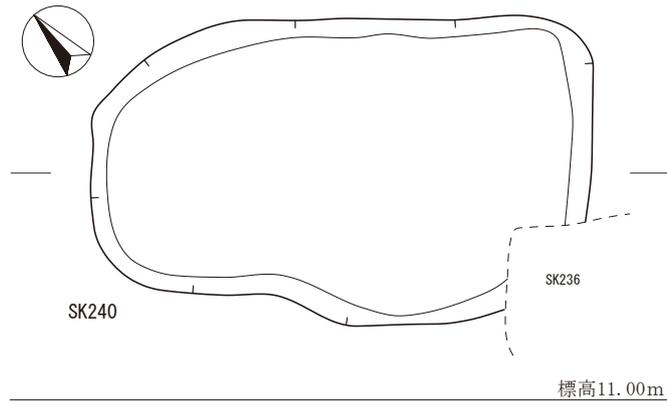
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、西側短軸に円形の張出を有す。長軸18.9 m、短軸1.29 m、深さ0.10 mを測る。断面は逆台形を呈し、底面は西から東へ僅かに傾斜する。埋土中より陶磁器の細片が出土しているが、所属時期は不明である。

S K 240 (第15図)

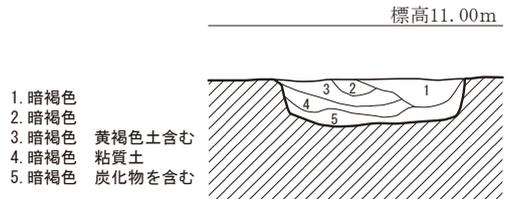
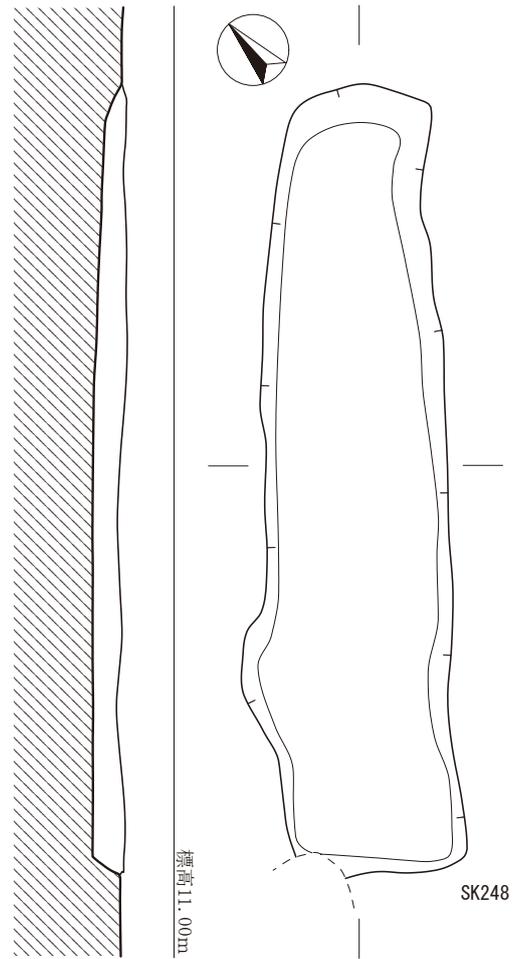
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、南西隅を土坑により削平される。長軸2.53 m、短軸1.57 m、深さ0.28 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の小坏・仏飯器、陶器の壙、土師質の灯明皿等が出土しており18世紀前半に位置づけられる。

S K 243 (第15図 図版7)

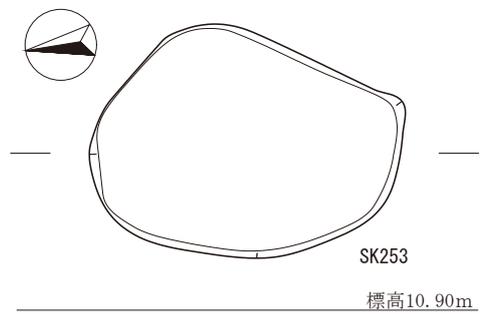
調査区南に位置する不整形土坑で、長軸2.51 m、短軸1.67 m、深さ0.86 mを測る。西に段を有し、断面は緩やかに内湾しながら立上る逆台形を呈す。埋土中より陶器の壙・皿の細片が確認され17世紀半ばに位置づけられる。その他、弥生土器・土師器土鍋などが出土しており、埋没状況はS K 174 に類似する。



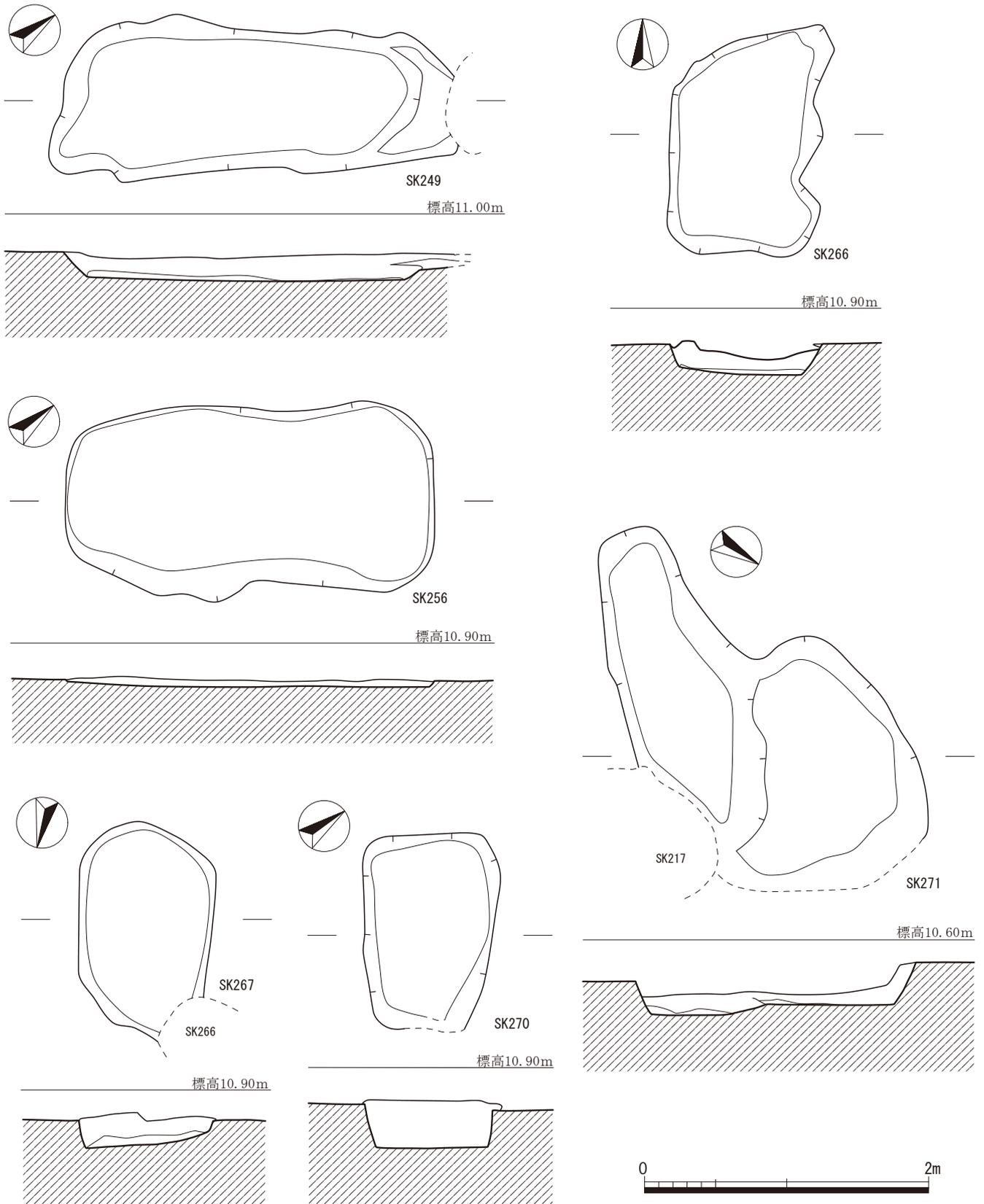
- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 黄褐色 地山ブロック・炭化物・土器片を含む | 6. 暗灰色 粘質土 暗褐色土を含む |
| 2. 黒褐色 地山ブロック・炭化物・土器片を含む | 7. 暗灰色 地山ブロックを含む |
| 3. 黒褐色 20cm大の礫と土器片を含む | 8. 灰白色 砂質土 暗褐色粘質土を含む |
| 4. 暗褐色 20cm大の礫と焼土・炭化物を含む | 9. 暗灰色 砂質土 白色粘土を含む |
| 5. 暗褐色 土器片を含む | 10. 暗灰色 粘質土 白色粘土を含む |



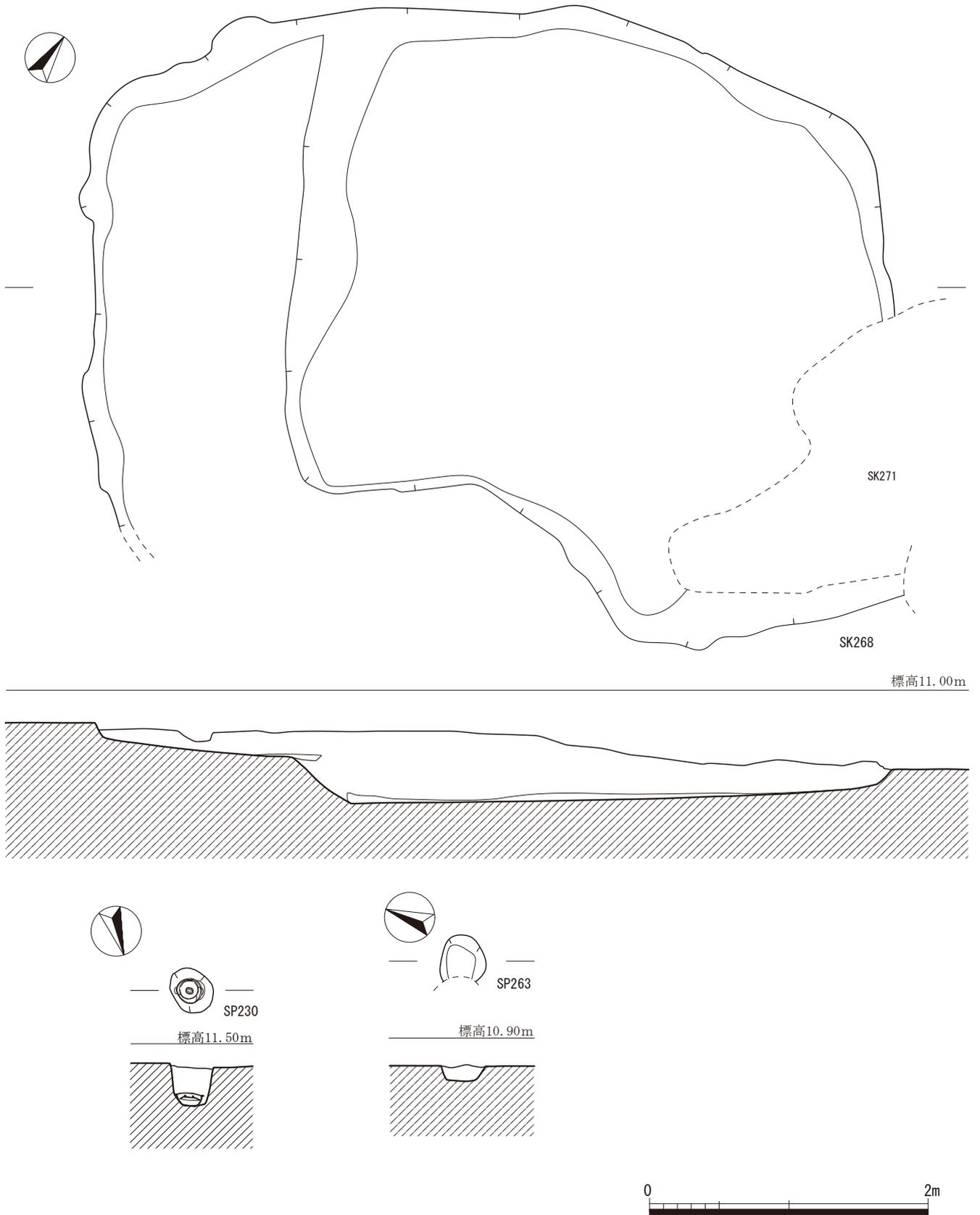
- | | |
|--------|--------|
| 1. 暗褐色 | 黄褐色土含む |
| 2. 暗褐色 | 粘質土 |
| 3. 暗褐色 | 炭化物を含む |
| 4. 暗褐色 | |
| 5. 暗褐色 | |



第15図 SK240・243・248・253 実測図(1/40)



第16図 SK249・256・266・267・270・271実測図(1/40)



第17図 S K268、SP230・263実測図(1/40)

S K 248 (第15図 図版7)

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、南西隅を土坑により削平される。長軸4.03m、短軸1.05m、深さ0.23mを測る。断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・仏飯器・手塩皿、軒丸瓦等が出土しており18世紀前半以降に位置づけられる。

S K 249 (第16図)

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、北端部を土坑により削平される。長軸2.74m以上、短軸1.14m、深さ0.22mを測る。北に段を有し、断面は緩やかに立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿等が出土しているが出土量は多くない。S K 248と軸を揃えて近接するが、出土遺物は18世紀後半に位置づけられ、やや後出する。

S K 253 (第15図)

調査区中央南に位置する不整形土坑で、S K 256の上面を削平する。長軸1.57m、短軸1.18m、深さ0.05mを測る。断面形は遺存状況が悪く不明である。埋土中より磁器の小碗、土師質の灯明皿等が出土しており18世紀前半以降に位置づけられる。

S K 256 (第16図)

調査区中央南に位置する隅丸長方形土坑で、上面をS K 253により削平される。長軸2.59m、短軸1.39m、深さ0.16mを測る。断面形は遺存状況が悪く不明である。埋土中より磁器の碗、陶器の皿等が出土しており17世紀後半に位置づけられる。

S K 266 (第16図)

調査区南に位置する不整形土坑で、S K 268の上面とS K 267を切る。長軸1.64m、短軸1.10m、深さ0.28mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・皿、陶器の碗・皿、土師質の灯明皿・土鍋等が出土しており18世紀前半以降に位置づけられる。

S K 267 (第16図)

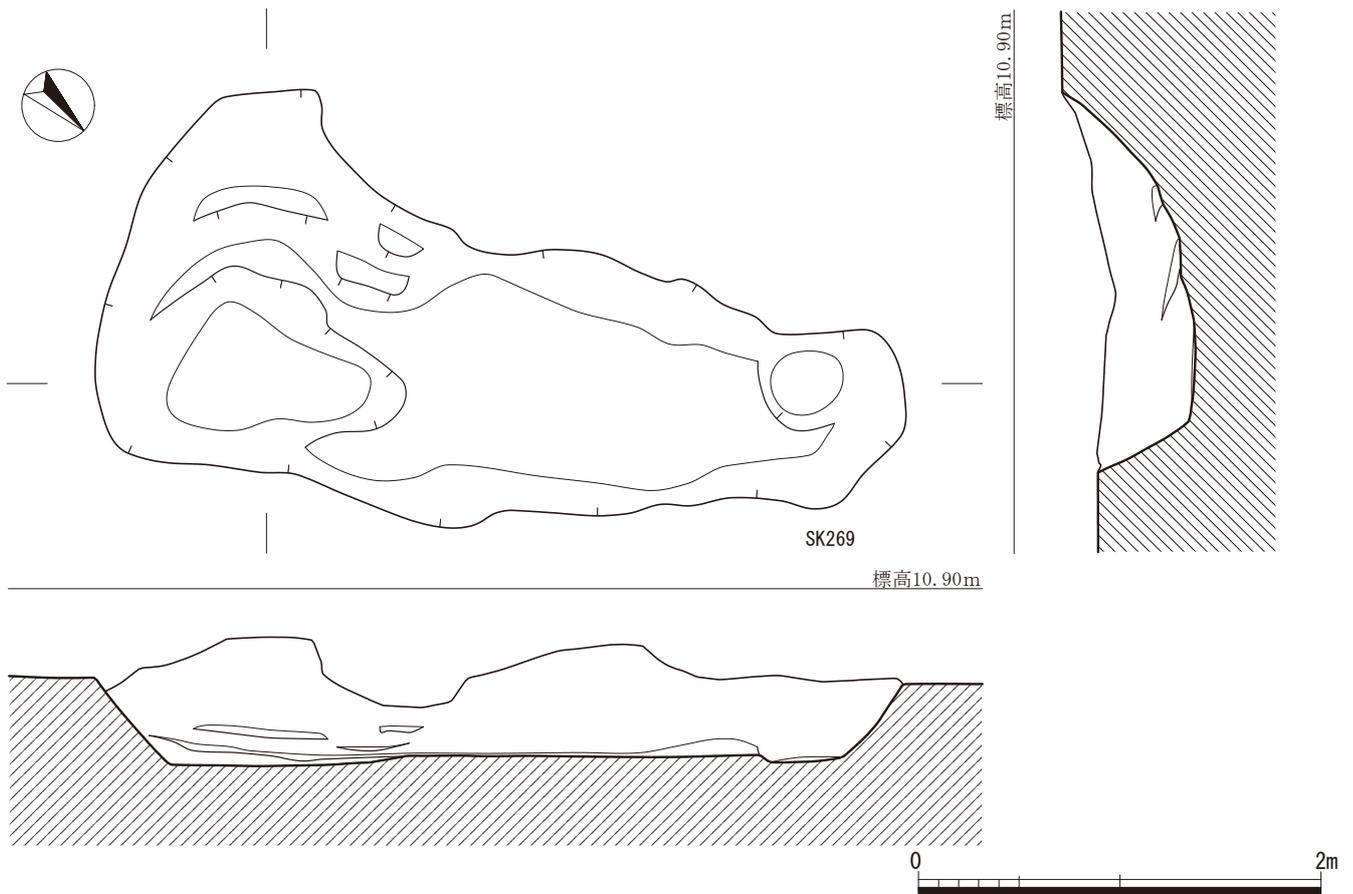
調査区南に位置する隅丸長方形土坑で、北西隅をS K 266に削平され、S K 268の上面を切る。長軸1.56m以上、短軸0.95m、深さ0.25mを測る。底面は、西から東へ緩やかに傾斜し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の皿、陶器の皿等が出土しており18世紀前半以降に位置づけられる。

S K 268 (第17図 図版7)

調査区南に位置する不整形土坑で、上面をS K 266・267等の土坑やピットに削平され、西隅をS K 271により削平される。長軸4.02m、短軸1.96m、深さ0.65mを測る。西から南にL字状の段を有し、断面は緩やかに内湾しながら立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の小坏・壺・播鉢、土師質の灯明皿、土鈴、軒丸瓦等が出土しており18世紀半ば以降に位置づけられる。土坑は、武家屋敷境のコーナー付近に位置しており、周辺は土坑や溝が複雑に切りあっている。位置的に排水施設に伴うものと考えられるが、水性堆積の土壌や粘土、砂等は確認できなかった。

S K 269 (第18図)

調査区南東に位置する不整形土坑で、S K 270を切る。長軸4.02m、短軸1.96m、深さ0.66



第18図 S K 269 実測図(1/40)

mを測る。南に階段状の段を有し、南端と北端にピット状の堀込を有す。断面は緩やかに内湾し立上る逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の壺・瓶、土鈴等が出土しており18世紀後半に位置づけられる。

S K 270 (第16図)

調査区南東に位置する方形土坑で、南東部をS K 269により削平される。長軸1.39 m以上、短軸0.89 m、深さ0.36 mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・水滴、陶器の壺等が出土しており18世紀前半に位置づけられる。

S K 271 (第16図 図版8)

調査南東に位置する不整形土坑で、東部をS K 217により削平される。長軸2.82 m以上、短軸1.50 m以上、深さ0.50 mを測る。北側に段を有し、断面は逆台形を呈す。埋土中より磁器の碗・碗蓋・皿、陶器の皿等が出土しており18世紀半ばに位置づけられる。土坑は武家屋敷境下段の北東隅に位置し、排水施設に関連する遺構の可能性はあるが、粘土や水性堆積物等は確認できなかった。

ピット

S P 230 (第17図 図版8)

調査区南東に位置するピットで、長軸0.45 m、短軸0.30 m、深さ0.45 mを測る。底面に土鍋が埋設されており、胞衣壺と考えられる。19世紀半ば以降に位置づけられる。

S P 263 (第17図)

調査区南東に位置するピットで、S K 268 を切り西部をピットにより削平される。長軸 0.30 m 以上、短軸 0.40 m、深さ 0.15 m を測る。埋土中より志野焼の皿が出土した。

土間状遺構

S X 70 (第19図 図版8)

調査区中央南に位置する遺構で、重機による表土剥ぎ段階で白色粘質土の広がりを確認した。粘質土の広がり、南北 3.75 m、東西 3.8 m で南は調査区外に伸び、東に向かい次第に減じ消失する。粘質土面には、赤色化した被熱痕跡や、円形にまとまる灰・炭の痕跡を 2 ヶ所検出しており、竈痕跡と考えられる。粘質土は厚いところでも数 cm と遺存状況は悪い。本来は土間として東により広がり、厨の床面を構成していたと考えられる。

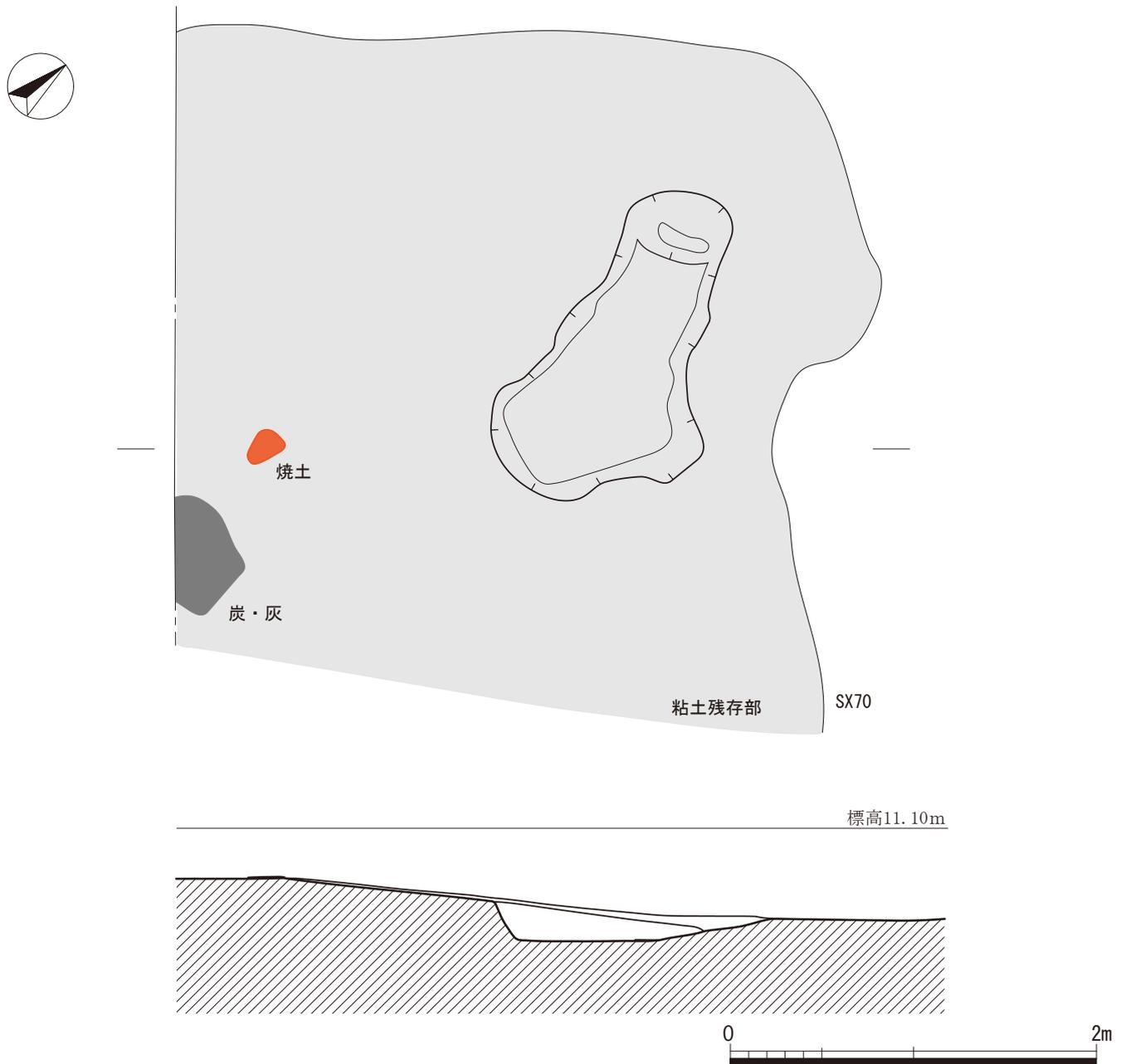
4区の調査(第4図 図版8)

学校敷地の北西隅に工事用スロープを造成することに伴い確認調査を行ったが、調査対象地の 2/3 は旧校舎の基礎で削平されており、残り 1/3 部分からは溝・土坑を確認した。遺構検出地山は褐色土の混入する造成土であったため、重機により堀下げを行ったが、4 m 近く掘削しても地山に達しなかった。1～3区で検出した S D 62 の延長部分に相当すると考えられる。

2. 出土遺物

今回の調査では、近世陶磁器を中心として、土師質土器・土製品・石製品・瓦や西洋陶器・中国産磁器などが出土している。また、少量ながら弥生土器・須恵器・土師器・古瓦・輸入陶磁器等が出土している。出土遺物の総量は、パンコンテナ 29 箱である。以下に特筆すべき遺物について述べる。なお、法量等については、遺物観察表を参照されたい。

27・28 は、S D 209 出土品で、朝妻焼の碗である。高台内に「朝」の銘が施される。126・130 は、S K 5 出土品であり、126 は清朝磁器の碗蓋で、内外面に捻花文を施す。130 は西洋陶器皿で、立上りに段を有し、緩やかに内湾し口縁部に至る。口縁部周辺には蔓バラが廻り、見込部分には、西洋の風景と騎馬人物および 3 人の人物が描かれている。裏面には窯名等の印・銘は描かれていないが、アラビア数字の 3 と思しき文字が書かれている。19 世紀前半代のイギリス製の陶器皿と考えられる。153 は、S K 37 出土磁器瓶の底部で、高台内に「トア」と墨書が書かれている。182 は、S K 90 出土の陶器製灰入で口縁端部に剥落が目立つ。灰落しとして利用されたと考えられる。高台見込に「御ハタ」との墨書が書かれており、久留米藩の旗に関連する役職に関連する遺物と考えられる。188 は、S K 95 出土の朝妻焼の碗であり、高台内に「朝」の銘が施される。203 は、S K 100 出土の清朝磁器碗である。内外面に霊芝文を施す。226 は、S K 131 出土の清朝磁器碗である。外面に霊芝文を施す。292 は、S K 208 出土の朝妻焼陶胎染付の皿で、高台内に「朝」の銘が施される。321 は、S K 212 出土の陶製ハマで、両面に墨書が認められる。表面には「寿」の漢字が、裏面には「のろいは」と平仮名で書かれており、裏面の仮名が「呪い」を意味するのであれば、占い等の呪術系の道具と考えられる。339 は、S K 223 出土の清朝磁器皿で内外面に草花文、高台



第19図 S X70 実測図(1/40)

見込に異体字の銘が施される。348～351、362はS K 233出土の清朝磁器。348・349は碗で、外面に捻花・靈芝文、内面見込に二重圏線と花が施され、高台内部に異体字銘が施される。350・351は小碗で、350は外面に雲と蓮弁、内面見込に二重圏線と柘榴、高台見込に「成化年製」銘が施される。いわゆる蚩手の技法が用いられており、透かし状となっている。351は外面に雲と柘榴文が施される。362は鉢で、外面に花唐草と蓮弁文、内面に唐草、内面見込に草花文を施し、高台見込に異体字銘を施す。379はS K 233出土の端反碗で、漆継の痕跡を残す。511はS K 271出土の朝妻焼の碗で、高台内に「朝」の銘が施される。519はS P 262出土の志野焼皿で、円形の見込から段を有し立上り口縁部は角皿となる。内面には鉄釉による線描きが施される。高台はなく平底で、底面接地部の釉葉は剥ぎ取られている。

3. 総括

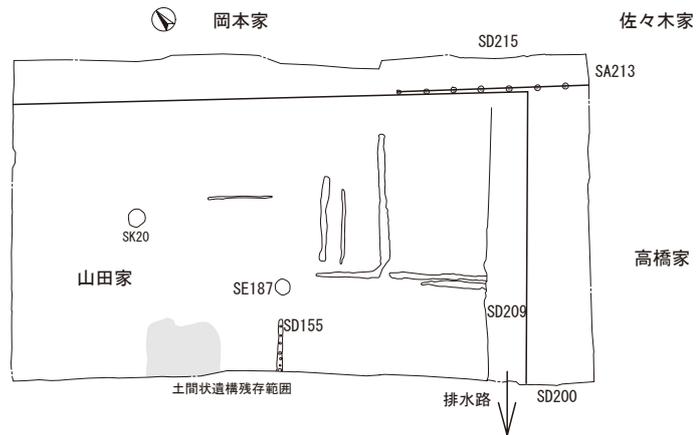
(1) 京隈小松原地区の武家屋敷の造成

久留米城下の整備は、元和7年(1621)に久留米藩主として久留米に入府した、有馬豊氏によって開始される。調査地が位置する京隈小路の造成は翌元和8年に京隈村の住人を移し、武家屋敷の造成を開始し、寛永9年(1632)に一定の整備が完了している。しかしながら、調査地のある京隈小松原は、未だ着手されておらず、小松原小路に武家屋敷が完成し津田勘兵衛他10名の武士が屋敷を移すのは延宝2年(1674)のことである。したがって小松原小路の完成は京隈小路の完成より40年ほど遅れることとなる。調査地となった京町小学校の敷地は、4軒の武家屋敷地に相当し、学校を挟んで東西にある南北道路及び北に位置する東西道路は江戸時代の道を踏襲している。今回の調査では、北及び東に位置する武家屋敷地は南西に位置する敷地より高くなっており、段造成が行われている。『天保年間久留米城下絵図』(以下天保図)では、各屋敷の門は北西に位置する岡本家は北側、東に位置する佐々木・高橋の両家は東側、南西に位置する山田家は西側の道に向かい門を構えている状況が窺える。現在の京町小学校と西側南北道路の敷地には1.5～2m程の高低差が存在し、西側道路が低くなっている。今回の調査では、この西側道路に門を構える山田家の敷地は、他の屋敷地より1～1.4m程度低くなっており、切土造成を行うことによって西側道路の高さに敷地を合わせて造成した状況を示している。京隈小路を始めとする久留米城下の武家屋敷は、段造成を行い階段状の屋敷地が広がっていたと考えられるが、ここにもその痕跡を認めることができる。また、調査地内では屋敷地造成に伴い、埋め戻された遺構も確認されている。SD 62やSK 174・SK 256がそれで、出土遺物から17世紀後半代には埋められていた状況を示す。特にSD 62については、南から北に向かい傾斜する溝で北端の深さは2mを超えており、造成当時は丘陵上からの排水路か谷が存在していたと考えられ、小松原小路造成により埋め立てられている。このように見ると、武家屋敷地の造成は、埋立工事や切土・盛土造成を行う大規模事業であり、京隈小松原小路地区では、久留米城に近い京隈小路の造成から始まり、徐々に規模を拡大しながら小松原小路へと造成範囲を広げていった状況が、発掘調査からも見受けられる。

(2) 山田家敷地の天保～幕末期の利用状況

第30次調査地点の大半は、天保図によると山田家の敷地に位置している。山田家は、馬廻役で200石の家柄で、幕末期まで当地に居を構えており、幕末期の当主は山田稔養である。今回の調査では、18世紀末から19世紀の遺構が多く検出されており、屋敷地の利用状況が推測できる。先述のように、山田家の敷地は切土造成によって西に門を構え、北及び東の屋敷地からは一段低い立地状況を示す。そのため、東の屋敷地との境には南北溝SD 209が掘り込まれ、北から南へと排水を行っている。この排水溝はそのまま南の戸田・梶村両家の屋敷境を抜け排水されたと考えられる。北側屋敷境の段差部分には明瞭な排水施設が確認できないことから、上段の岡本家の排水は北へ向かいなされていた可能性がある。調査区南西部には土間状の白色粘土が検出された区画があり、粘土上には被熱し円形に赤色化した部分や炭・灰が検出された部分があり厨と想定される。また厨の東

には井戸（SE187）があり、水場と厨が隣接して位置している。このような厨と井戸の配置は、現存する武家屋敷である坂本繁二郎生家にも見受けられる。母屋等の建物礎石は確認されていないが、厨の周辺に存在すると推定されるため、検出遺構の少ない、北西側か調査区外の南西側に屋敷が広がっていたと考えられる。屋敷地の裏庭となる東部には廃棄土坑等が掘り込まれている。また、南部分是比较



第20図 屋敷境と空間利用天保～幕末期（1/500）

的遺構密度が低く、時期不明ながら浅い溝が平行して並んでおり、菜園等の畑地として利用された可能性があるが定かではない。今回の調査では、門の位置は確定できていないが、門に近い北西側の空間に屋敷地を置き、厨に近接して井戸を配置する状況が確認できた。また、裏庭に廃棄土坑を掘り、高低差のある東側には排水路を設置するなど屋敷地の利用状況を垣間見ることができた。

（3）山田稔養と幕末期の出土遺物

幕末の山田家当主、山田稔養は、元治元年（1864）小倉戦争に従軍、慶応3年（1867）幕府海軍操練所に入所し、勝海舟の教えを受ける。帰藩後は、久留米藩海軍に所属し雄飛丸・千歳丸の乗組員として戊辰戦争に従軍した。また明治維新後はハーバード大学法学部に入学し、帰国後は横浜で起業し、後に日本貿易協会会長に就任する。幕末の動乱期を海軍操練所や長崎へ行き来し、久留米藩海軍を支えた稔養であるが、その往来の証左となるような遺物が出土している。SK5より出土した西洋陶器皿（127）がそれである。また、SK5その他の遺構から、清朝磁器の碗・皿・鉢等が多く出土しており、その数は破片資料も含めると31点に上る。これらは、長崎で入手し、久留米に持ち込まれたと考えられ、幕末期に各地を往来し、活躍した久留米藩士にふさわしい遺物が出土したといえる。

《参考文献》

『久留米人物誌』1981年 篠原 正一 久留米人物誌刊行委員会

『米府年表』文化2年～明治15年（1805～1882）戸田 熊次郎（『久留米市誌』下付録収録を参照）

第1表 第30次調査出土遺物観察表1

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版9	1	SD2	磁器	碗	-	(3.9)	(2.6)	染付	草	-	-	砂付着	-	肥前	18C前	20160500001
図版9	2	SD2	土師質	小皿	-	3.3	1.5	-	ナデ	ナデ	-	-	焼成後底部穿孔	-	-	20160500002
図版9	3	SD2	土師質	灯明皿	7.2	4.5	10.2	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	20160500003
図版9	4	SD2	土師質	灯明皿	7.4	3.8	1.7	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	20160500004
図版9	5	SD62	磁器	皿	-	(8.2)	1.6	染付	二重圏線不明	-	圏線 角?	-	-	肥前	17C中	20160500150
図版9	6	SD62下層	磁器	小坏	(5.4)	2.5	3.1	染付	圏線 舟	-	-	-	-	肥前	17C中	20160500164
図版9	7	SD62下層	磁器	皿	(15.2)	(10.2)	2.6	染付	圏線 花唐草	貝 青海波	-	圏線	-	肥前	17C中	20160500165
図版9	8	SD62下層	陶器	皿	-	4.6	1.7	灰釉	-	-	砂目3	無釉	-	肥前	17C前	20160500166
図版9	9	SD62下層	陶器	碗	-	(4.6)	(2.2)	灰釉	-	-	砂目3	-	-	肥前	17C前	20160500147
図版9	10	SD64	磁器	碗	(9.8)	3.6	5.5	色絵	花卉	-	-	砂付着	-	肥前	17C後	20160500189
図版9	11	SD64	磁器	碗	(7.8)	3.8	5.0	白磁	-	-	-	-	口錆	肥前	17C後	20160500186
図版9	12	SD64	磁器	小坏	6.7	2.4	3.3	白磁	-	-	-	砂付着	-	肥前	17C中	20160500187
図版9	13	SD105	磁器	小皿	9.4	5.3	2.2	染付	-	草花	フリモノ	砂付着	-	肥前	17C後	20160500332
図版9	14	SD105	磁器	手塩皿	(8.0)	(4.2)	1.8	白磁	-	唐草 型押	菊型押	-	型物	肥前	17C後~18C前	20160500333
図版9	15	SD105	磁器	ミニチュア皿	(4.6)	(1.8)	1.6	染付	-	-	不明	無釉	-	肥前	-	20160500334
図版9	16	SD105	磁器	仏飯器	-	3.9	(4.2)	白磁	-	-	-	-	-	-	17C後~18C前	20160500335
図版9	17	SD105	陶器	碗	-	3.6	5.2	透明	-	-	-	無釉「■水」	関西系	肥前	17C後	20160500336
図版9	18	SD105	瓦質	鉢	-	-	(5.5)	-	花 透かし	-	-	-	-	-	-	20160500339
図版9	19	SD200	陶器	擂鉢	-	6.5	4.9	褐釉	-	12本1単位溝	-	糸切 無釉	-	-	-	20160500604
図版9	20	SD200	陶器	蓋	5.2	7.0	3.1	褐釉	-	無釉	-	-	-	-	-	20160500605
図版9	21	SD200	陶器	鍋	17.5	8.7	7.4	透明釉	無釉	-	-	-	片口 把手	-	19C前	20160500610
図版9	22	SD200	陶器	鍋	(16.2)	7.4	7.6	褐釉	飛鉋半無釉	-	-	-	片口	-	19C前	20160500609
図版9	23	SD200	陶器	ハマ	5.4	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	20160500606
図版9	24	SD200	陶器	ハマ	6.9	-	(1.3)	-	-	-	-	-	3足残	-	-	20160500607
図版9	25	SD209上層	磁器	端反碗	(11.6)	(5.4)	5.5	染付	格子 梅家屋	格子	圏線 不明	-	-	肥前	19C前中	20160500647
図版9	26	SD209上層	磁器	小碗	(6.0)	3.4	5.7	染付	山水楼閣	-	-	-	-	肥前	19C前中	20160500649
図版9	27	SD209上層	磁器	碗	-	4.1	(4.8)	染付	草花 蝶	-	-	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	20160500650
図版9	28	SD209上層	磁器	碗	-	3.6	(3.4)	染付	松竹梅	-	-	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	20160500651
図版9	29	SD209上層	磁器	小皿	(8.2)	4.2	2.5	染付	-	岩 草花	-	-	型物	肥前	19C前~中	20160500653
図版9	30	SD209上層	磁器	小皿	(8.5)	3.9	2.6	染付	-	亀 渦	-	-	型物 灯明皿	肥前	19C前~中	20160500654
図版9	31	SD209上層	磁器	小皿	8.9	4.1	2.4	白磁	-	菊花型押	-	-	型物	肥前	19C前~中	20160500655
図版9	32	SD209上層	磁器	鉢子	2.2	4.4	12.8	染付	草花	-	-	-	-	肥前	19C中	20160500659
図版9	33	SD209上層	磁器	皿	-	-	-	白磁	-	菊花型押	-	「朝」	型物	筑後	18C前	20160500652
図版9	34	SD209上層	陶器	急須蓋	5.6	1.9	1.5	透明釉	鉄釉渦	無釉	-	糸切	-	-	19C中	20160500660
図版9	35	SD209下層	磁器	碗	10.2	4.2	6.2	染付	藤コンニャク印判	フリモノ	-	渦福	-	肥前	18C前	20160500669
図版9	36	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	3.8	5.4	染付	圏線 菊五葉・若葉コンニャク印判	-	-	圏線 略字	-	肥前	18C前	20160500675
図版9	37	SD209下層	磁器	碗	(10.2)	(4.0)	5.2	染付	圏線 五葉若葉・花コンニャク印判	-	-	圏線「大明年製」	-	肥前	18C前	20160500673
図版9	38	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	4.4	5.6	染付	圏線 花唐草	-	-	二重角福	-	肥前	18C前	20160500671
図版9	39	SD209下層	磁器	碗	10.1	4.2	5.3	染付	圏線 四方禪牡丹	-	-	渦福	-	肥前	18C前	20160500685
図版9	40	SD209下層	磁器	碗	10.0	3.9	4.7	染付	菊花	-	-	-	-	肥前	18C前	20160500686
図版9	41	SD209下層	磁器	碗	(9.4)	3.8	5.1	染付	鳥 稲穂	-	-	-	-	肥前	18C前	20160500679
図版9	42	SD209下層	磁器	碗	(9.6)	(3.8)	5.2	染付	松竹梅	-	-	二重角福	-	肥前	18C前	20160500678

第2表 第30次調査出土遺物観察表2

第2章 第30次調査

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版9	43	SD209下層	磁器	碗	(10.0)	(4.0)	5.2	染付	格子 波 花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605000680
図版9	44	SD209下層	磁器	碗	10.8	4.6	6.1	染付	草花 鳥	-	-	圏線「大明年製」?	-	肥前	18C前	201605000676
図版9	45	SD209下層	磁器	碗	10.2	4.2	5.2	染付	圏線 唐草花 コンニャク印判	-	-	角福?	くらわんか手	肥前	18C中	201605000683
図版9	46	SD209下層	磁器	碗	9.6	4.1	5.0	染付	圏線 松竹梅	-	-	渦福?	くらわんか手	肥前	18C中	201605000672
図版9	47	SD209下層	磁器	碗	8.5	4.4	5.1	白磁	-	-	-	蛇ノ目高台	口縁釉剥	肥前	17C末~18C前	201605000692
図版9	48	SD209下層	磁器	碗蓋	-	4.0	(2.4)	染付	草花	四方禪	-	二重圏線 五弁花コンニャク印判	-	肥前	18C中~後	201605000699
図版9	49	SD209下層	磁器	小坏	(5.4)	2.2	3.6	染付	海老	-	-	-	-	肥前	18C前	201605000693
図版9	50	SD209下層	磁器	小坏	(6.2)	2.5	3.4	色絵	蝶	-	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605000697
図版9	51	SD209下層	磁器	小猪口	5.5	2.6	4.1	染付	桐コンニャク印判	-	-	-	-	肥前	18C前	201605000698
図版9	52	SD209下層	磁器	皿	11.8	3.9	3.4	染付	-	線	蛇ノ目釉剥	無釉	-	肥前	18C中~後	201605000702
図版9	53	SD209下層	磁器	紅皿	5.1	3.0	1.2	白磁	菊花型押	-	-	無釉	型物	肥前	-	201605000706
図版9	54	SD209下層	磁器	蓋	8.5	-	2.8	青磁	青磁釉	透明釉	-	-	-	肥前	18C中~後	201605000712
図版9	55	SD209下層	磁器	蓋	5.1	-	1.6	染付	花唐草	-	-	-	-	肥前	18C中~後	201605000711
図版9	56	SD209下層	磁器	仏飯器	-	4.5	5.9	染付	笹	-	-	無釉	-	肥前	18C中	201605000709
図版9	57	SD209下層	磁器	仏飯器	(9.0)	(4.5)	6.5	染付	圏線 線	-	-	-	-	肥前	18C中	201605000708
図版9	58	SD209下層	磁器	鉢	25.1	10.4	10.2	染付	二重圏線 窓 草花	二重圏線 雲 橋	二重圏線 橋	二重圏線 圏線	色絵素地 口縁絵花	肥前	18C前~中	201605000667
図版10	59	SD209下層	陶器	壺	-	(4.2)	(4.4)	透明釉	丸	白土ハケ	-	-	現川系	肥前	18C中	201605000714
図版10	60	SD209下層	陶器	壺	(10.8)	4.2	5.9	透明釉	-	白土ハケ	-	-	現川系	肥前	18C中	201605000715
図版10	61	SD209下層	陶器	壺	(9.2)	4.2	6.2	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	-	-	-	肥前	18C中	201605000716
図版10	62	SD209下層	陶器	壺	(10.2)	4.1	5.4	褐釉	-	-	-	-	天目	-	18C前~中	201605000721
図版10	63	SD209下層	陶器	壺	(9.2)	4.0	4.3	透明釉	-	山水	-	無釉 「小松久」	関西系	肥前	17C後	201605000722
図版10	64	SD209下層	陶器	壺	-	4.8	(3.6)	透明釉	-	-	-	胎土目	-	-	17C前~中	201605000724
図版10	65	SD209下層	陶器	壺	(9.6)	(3.6)	4.8	透明釉	-	山水?	-	無釉	関西系	肥前	17C末~18C前	201605000727
図版10	66	SD209下層	陶器	小壺	(7.0)	2.0	3.7	透明釉	菊花	-	-	無釉	関西系	肥前	17C後	201605000725
図版10	67	SD209下層	陶器	小壺	7.1	3.6	4.3	褐釉	-	-	-	無釉	-	肥前	18C前	201605000726
図版10	68	SD209下層	陶器	皿	-	7.8	(4.8)	灰釉	白土ハケ	白土ハケ	-	無釉	-	肥前	17C前~中	201605000729
図版10	69	SD209下層	陶器	皿	(12.4)	4.2	3.6	灰釉	-	-	蛇ノ目釉剥	無釉	口縁内湾	肥前	18C前	201605000728
図版10	70	SD209下層	陶器	皿	(18.0)	(9.0)	5.6	透明釉	-	-	蛇ノ目釉剥	無釉	高高台	肥前	18C前	201605000664
図版10	71	SD209下層	陶器	皿	(17.0)	(6.8)	5.2	灰釉	-	ハケ	蛇ノ目釉剥	無釉	脚付	肥前	17C末~18C前	201605000730
図版10	72	SD209下層	陶器	皿	(15.2)	5.9	6.5	灰釉	-	ハケ	蛇ノ目釉剥	無釉	口縁玉縁	肥前	17C末~18C前	201605000731
図版10	73	SD209下層	陶器	蓋	8.4	3.8	3.0	透明釉	-	無釉	-	無釉 糸切	-	-	-	201605000733
図版10	74	SD209下層	陶器	仏飯器	(7.0)	3.6	4.8	透明釉	-	白土ハケ	-	無釉	現川系	肥前	18C前	201605000732
図版10	75	SD209下層	陶器	壺	-	(5.6)	(5.6)	褐釉	-	無釉	-	-	-	-	-	201605000738
図版10	76	SD209下層	陶器	鉢	-	11.2	(12.2)	褐釉	ハケ波状	-	砂目2	-	植木鉢 転用	肥前	17C後	201605000739
図版10	77	SD209下層	土師質	小皿	(7.2)	3.5	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000740
図版10	78	SD209下層	土師質	灯明皿	8.1	4.4	1.4	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000741
図版10	79	SD209下層	土師質	灯明皿	(9.2)	5.1	1.7	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000742
図版10	80	SD209下層	土師質	火鉢	(19.4)	(15.8)	11.5	-	ナデ	ナデ ハケ	ハケ	-	-	-	-	201605000751
図版10	81	SD209下層	瓦	軒丸瓦	15.5	(8.2)	1.8	-	三巴	-	-	-	-	-	-	201605000752
図版10	82	SD209下層	瓦	軒平瓦	(17.3)	(5.9)	1.7	-	蓮華	-	-	-	-	-	-	201605000753
図版10	83	SD209下層	土製品	土人形	(4.7)	3.8	0.5	-	大黒天型	-	-	-	型物	-	-	201605000749
図版10	84	SD209下層	土製品	寒水がらう	(9.9)	6.7	0.7	-	-	-	-	-	猿型把手	肥前	-	201605000743

第3表 第30次調査出土遺物観察表3

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等					
図版10	85	SD209下層	土製品	土鈴	(6.5)	5.7	0.4	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000744	
図版10	86	SD209下層	土製品	土鈴	(5.3)	3.9	0.3	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000745	
図版10	87	SD209下層	土製品	土鈴	(3.5)	3.6	0.3	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000746	
図版10	88	SD209下層	土製品	土鈴	(3.5)	3.9	0.5	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000747	
図版10	89	SD209下層	土製品	土鈴	(4.0)	(3.2)	0.4	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000748	
図版10	90	SE138	磁器	碗	(10.4)	4.2	5.9	染付	圏線 草花	-	-	略字銘	くらわんか手	肥前	18C中	201605000371	
図版10	91	SE138	陶器	小皿	9.6	4.8	3.0	褐釉	-	-	-	糸切	-	-	-	201605000379	
図版10	92	SE138	土師質	灯明皿	(7.6)	3.2	1.9	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000380	
図版10	93	SE138 2層	磁器	碗	10.2	3.8	5.3	染付	圏線 丸に市松・格子	二重圏線 丸に市松・格子	丸に四方櫛	-	-	肥前	18C後	201605000364	
図版10	94	SE138 2層	磁器	碗	7.6	2.5	3.9	染付	松竹梅	-	-	-	-	肥前	18C中	201605000366	
図版10	95	SE138 2層	磁器	蓋	9.6	3.8	5.3	白磁	-	-	-	-	-	肥前	18C後	201605000368	
図版10	96	SE138 2層	磁器	紅皿	4.5	1.6	1.5	白磁	菊花型押	-	-	-	型物	肥前	-	201605000369	
図版10	97	SE138 2層	陶器	埴	-	4.1	(3.6)	透明釉	竹?	-	-	無釉	-	肥前	17C末~18C前	201605000376	
図版10	98	SE147 下層	磁器	碗	(10.4)	4.4	5.3	染付	圏線 網	-	-	渦福	-	肥前	18C前	201605000406	
図版10	99	SE147 下層	磁器	碗	8.5	3.5	4.6	染付	芒 岩 鳥	-	フリモノ	「大明年製」	-	肥前	18C前	201605000407	
図版10	100	SE147 下層	磁器	碗	(10.2)	-	(5.4)	染付	圏線 菊花・五葉若葉コンニャク印判	-	-	圏線 略字銘	-	肥前	18C前	201605000409	
図版10	101	SE147 下層	磁器	碗	8.1	-	(3.2)	色絵	花 瓜?	-	-	-	-	肥前	18C前	201605000411	
図版10	102	SE147 下層	磁器	碗	(9.0)	-	5.4	色絵	蝶 扇 草花	-	花	-	-	肥前	18C前	201605000412	
図版10	103	SE147 下層	磁器	皿	(12.4)	(8.0)	2.9	染付	圏線 唐草	格子 花	二重圏線 五弁花コンニャク印判	圏線 「■明■製」	くらわんか手	肥前	18C中	201605000414	
図版10	104	SE147 下層	磁器	皿	(14.0)	(8.4)	4.0	染付	圏線 花唐草	松 柳 岩 青海波	二重圏線 五弁花	圏線 「■化年製」	口縁輪花	肥前	18C前	201605000415	
図版10	105	SE147 下層	磁器	蓋物	9.7	6.3	7.2	染付	圏線 五葉若葉 松 竹	-	-	-	口縁無釉	肥前	18C	201605000417	
図版10	106	SE147 下層	磁器	灰入	8.4	5.5	5.0	染付	二重圏線 山水 草花	無釉	-	-	内面鉄漿付着	肥前	18C	201605000418	
図版10	107	SE147 下層	陶器	埴	-	3.6	5.1	褐釉	白釉	-	-	-	口縁輪花	-	17C後~18C前	201605000420	
図版10	108	SE147 下層	陶器	皿	-	6.0	(3.2)	透明釉	-	-	-	蛇ノ目釉剥	-	被熱	肥前	17C後~18C前	201605000425
図版10	109	SE147 下層	陶器	片口鉢	-	5.5	6.8	透明釉	-	-	-	蛇ノ目釉剥	無釉	-	肥前	17C後~18C前	201605000427
図版10	110	SE147 下層	陶器	鉢	-	-	(20.1)	透明釉	白土ハケ	-	-	-	武雄系	肥前	17C後~18C前	201605000428	
図版10	111	SE147 下層	陶器	播鉢	-	-	(5.5)	褐釉	-	11本1単位	-	-	脚付	-	-	201605000429	
図版10	112	SE147 下層	陶器	壺	-	9.6	17.0	褐釉	輪線状釉欠	無釉	-	-	-	-	-	201605000431	
図版10	113	SE147 下層	陶器	平仄	6.3	4.4	3.5	-	-	-	-	糸切	煤付着	-	-	201605000432	
図版10	114	SE147 下層	土師質	灯明皿	7.0	3.8	1.4	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000433	
図版10	115	SE147 下層	石製品	砥石	2.3	1.5	0.4	-	-	-	-	-	4g	-	-	201605000436	
図版10	116	SE174	磁器	碗	-	3.8	(4.5)	白磁	-	-	-	砂付着	-	肥前	17C中	201605000484	
図版10	117	SE174	陶器	播鉢	-	(9.2)	(10.9)	-	-	-	-	糸切	-	-	-	201605000486	
図版11	118	SE187	磁器	碗	-	-	(3.3)	染付	二重圏線 銀杏 渦繫	-	二重圏線 銀杏	-	-	肥前	18C後~19C前	201605000568	
図版11	119	SE187	磁器	瓶	-	-	(5.1)	染付	蛸唐草	無釉	-	-	-	肥前	18C後~19C前	201605000569	
図版11	120	SK4	陶器	鉢	-	-	(4.8)	灰釉	-	白土ハケ	-	-	-	武雄	17C中	201605000006	
図版11	121	SK4	陶器	瓶	-	-	(5.4)	褐釉	不明	-	-	-	型物	肥前	-	201605000005	
図版11	122	SK4	土師質	灰取	(8.3)	(6.5)	(4.4)	-	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	201605000007	
図版11	123	SK5	磁器	端反碗	9.6	3.9	5.5	染付	松葉	圏線	岩波 圏線	-	-	肥前	19C中	201605000020	
図版11	124	SK5	磁器	小碗	7.1	3.6	5.6	白磁	鑄	-	-	-	-	肥前	19C中	201605000008	
図版11	125	SK5	磁器	端反碗蓋	8.1	3.7	2.6	染付	花鳥	-	亀	-	-	肥前	19C中	201605000009	
図版11	126	SK5	磁器	碗蓋	-	-	(1.3)	青華	捻花	捻花	-	不明	清朝磁器	中国	18C末~19C前	201605000014	

第4表 第30次調査出土遺物観察表4

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版11	127	SK5	磁器	皿	(13.0)	7.0	3.7	染付	唐草	蛸唐草	松竹梅	「成化年製」	口縁輪花 蛇目凹型高台	肥前	19C前	201605 000021
図版11	128	SK5	陶器	急須	6.1	6.4	10.2	透明釉	椿	-	-	墨痕	関西系	-	19C前	201605 000024
図版11	129	SK5	陶器	急須	6.0	5.2	9.9	透明釉	緑釉	-	-	-	関西系	-	19C前	201605 000025
図版11	130	SK5	陶器	皿	25.5	14.2	2.7	コバルト	-	蔓花	イギリス風景	3	西洋陶器	イギリス	19C前	201605 000015
図版11	131	SK5	陶器	播鉢	35.7	13.6	12.2	透明釉	-	7本溝	重ね痕	-	-	-	-	201605 000023
図版11	132	SK6	土師質	土鍋	-	-	(2.7)	-	ナデ	ナデ	-	-	玉縁	-	16C	201605 000026
図版11	133	SK11	磁器	小碗	6.6	3.2	5.3	染付	水仙	輪線	-	-	-	肥前	19C中	201605 000031
図版11	134	SK11	磁器	小碗	7.0	2.9	3.2	白磁	-	-	-	砂付着	-	肥前	19C	201605 000032
図版11	135	SK11	陶器	急須	9.8	8.8	12.9	透明釉	白土掛流	-	-	-	東野亭	筑後	19C中	201605 000037
図版11	136	SK11	陶器	片口鉢	15.0	6.8	7.6	透明釉	-	-	-	高台無釉	-	-	19C中	201605 000036
図版11	137	SK12	磁器	小皿	10.1	5.5	2.5	染付	唐草	蛸唐草	二重圏線 五弁花	二重角福圏線	-	肥前	18C中	201605 000051
図版11	138	SK12	磁器	向付	10.3	6.7	6.3	染付	網丸花	花	二重圏線 五弁花	「大明成化年製」 圏線	-	肥前	18C中	201605 000050
図版11	139	SK12	磁器	油壺	2.5	4.3	5.9	染付	草花 蝶	-	-	-	-	肥前	18C中	201605 000053
図版11	140	SK12	磁器	油壺	-	3.3	5.2	染付	松葉	-	-	-	-	肥前	18C中	201605 000042
図版11	141	SK12	陶器	壺	-	4.0	(3.5)	透明釉	-	鉄釉	-	-	-	肥前	18C前	201605 000043
図版11	142	SK12	陶器	片口鉢	(14.2)	-	(5.2)	透明釉	白土ハケ	白土掛流	-	-	-	肥前	18C前	201605 000049
図版11	143	SK12	土師質	小皿	-	-	(1.1)	-	ナデ	ナデ	-	-	内曇	-	-	201605 000047
図版11	144	SK12	土師質	灯明皿	7.9	4.7	2.2	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 000052
図版11	145	SK12	瓦	軒平瓦	(10.2)	(16.1)	4.1	-	唐草	-	-	-	-	-	-	201605 000046
図版11	146	SK19	磁器	小碗	(7.2)	3.5	4.8	色絵染付	雪輪 竹 印	-	-	-	-	肥前	19C	201605 000059
図版11	147	SK19	磁器	小碗	-	(3.4)	(2.4)	青華	靈芝	靈芝	渦	二重圏線 不明文字	清朝磁器	中国	19C前	201605 000061
図版11	148	SK19	磁器	小盃	5.9	2.5	2.7	青華	-	松 鶴	-	-	-	肥前	19C中～ 後	201605 000062
図版11	149	SK19	磁器	角皿	8.2	4.5	2.5	鉄・瑠璃釉	鉄釉	瑠璃釉 菊花	菊花	-	-	瀬戸・美濃	19C中	201605 000063
図版11	150	SK19	陶器	小皿	8.9	3.5	2.7	灰釉	-	花 白土象嵌	-	-	-	肥前	-	201605 000065
図版11	151	SK19	陶器	急須蓋	10.8	-	1.2	透明釉	白土掛流	無釉	-	-	東野亭	筑後	19C中	201605 000066
図版12	152	SK21	土製品	面子	3.1	2.1	1.1	-	翁	-	-	-	-	-	-	201605 000068
図版12	153	SK35	磁器	瓶?	-	11.0	(1.8)	白磁	-	-	-	「トア」墨書	蛇ノ目凹型 高台	肥前	18C末～ 19C	201605 000073
図版12	154	SK37	磁器	碗	-	(4.0)	(2.9)	染付	草	圏線	フリモノ	-	-	肥前	19C	201605 000076
図版12	155	SK40	磁器	皿	11.6	6.3	2.8	染付	松葉	月 鯉 滝	-	-	コバルト	肥前	19C	201605 000077
図版12	156	SK40	磁器	皿	12.4	7.4	3.2	染付	花	花卉	松竹梅	-	蛇ノ目凹型 高台 コバルト 型紙 口縁輪花	肥前	19C後～	201605 000078
図版12	157	SK40	磁器	皿	13.2	7.2	3.8	色絵染付	唐草	花 窓に花	松竹梅	-	蛇ノ目凹型 高台 口縁輪花	肥前	19C後～	201605 000079
図版12	158	SK40	磁器	瓶	5.4	-	(13.3)	色絵	花 窓に唐子	-	-	-	口縁輪花 濁手 柿右 衛門様式	肥前	17C後半	201605 000080
図版12	159	SK40	磁器	瓶	3.3	8.7	25.3	染付	芙蓉	-	-	-	コバルト	肥前	19C後～	201605 000081
図版12	160	SK40	磁器	鉢	18.5	7.8	7.9	染付	寿 福	-	-	「南+音」銘	コバルト 型紙紙	瀬戸・美濃	19C後～	201605 000082
図版12	161	SK40	陶器	片口鉢	15.4	7.3	7.1	透明釉	-	-	ハマ痕5	無釉	-	肥前	19C	201605 000083
図版12	162	SK40	土師質	焜炉	18.0	17.4	19.1	-	沈線4条 ナデ	ナデ	-	-	-	-	19C	201605 000273
図版12	163	SK40	土師質	サナ	13.2	-	2.5	-	ナデ	ナデ	-	-	穿孔19穴	-	19C	201605 000275
図版12	164	SK46	陶器	溝縁皿	(14.0)	-	(1.8)	透明釉	-	-	-	-	-	肥前	17C前	201605 000088
図版12	165	SK46	瓦	軒丸瓦	-	-	1.3	-	三巴	-	-	-	-	-	-	201605 000089
図版12	166	SK50	磁器	端反碗	9.2	3.6	5.5	染付	石榴	雷	圏線 松竹梅	-	コバルト	肥前	19C中～	201605 000090

第5表 第30次調査出土遺物観察表5

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版12	167	SK50	磁器	鉢	20.3	7.1	8.0	染付	波	-	水仙	-	コバルト	肥前	19C中～	20160500091
図版12	168	SK52	磁器	蓋物	-	-	(3.9)	染付	唐草	-	-	-	口縁釉剥	肥前	18C後	20160500092
図版12	169	SK52	陶器	埴	-	-	(2.6)	透明釉	-	-	-	-	-	肥前	18C	20160500093
図版12	170	SK57上層	磁器	碗	-	(3.9)	(3.7)	染付	丸	-	-	角福?	-	肥前	18C中～	20160500094
図版12	171	SK57上層	磁器	蓋物蓋	(9.4)	-	(1.8)	色絵染付	梅	-	-	-	-	肥前	18C中～	20160500098
図版12	172	SK57下層	磁器	小坏	-	2.5	(0.9)	染付	-	-	草	「雅」銘	-	肥前	17C中～	20160500100
図版12	173	SK57下層	磁器	小猪口	(5.2)	-	(3.3)	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後～18C前	20160500101
図版12	174	SK57下層	陶器	埴	-	(3.8)	(2.1)	鉄釉	-	-	-	-	-	肥前	17C後～18C前	20160500102
図版12	175	SK85	磁器	碗蓋	-	4.3	(1.9)	染付	雲 梅	-	二重圏線 羊歯	-	-	肥前	18C中	20160500221
図版12	176	SK85	陶器	埴	-	3.0	(4.0)	透明釉	花	-	-	無釉	関西系	肥前	17C後～18C前	20160500222
図版12	177	SK85	陶器	埴	-	(4.6)	(3.1)	透明釉	白土掛流	白土ハケ	-	-	-	肥前	17C後～18C前	20160500223
図版12	178	SK85	陶器	土瓶	(11.6)	-	(6.3)	緑釉	-	-	-	-	-	-	18C後	20160500224
図版12	179	SK90	磁器	鉢	(11.8)	(7.2)	6.9	染付	竹林	雪輪	二重圏線	-	口縁綾花	肥前	19C中～	20160500239
図版12	180	SK90	磁器	小坏	6.2	3.0	3.1	色絵	-	花卉	-	-	口錆	肥前	19C中～	20160500236
図版12	181	SK90	磁器	小皿	8.0	4.9	2.3	染付	-	山水 家屋	-	-	口縁輪花	肥前	19C中～	20160500237
図版12	182	SK90	陶器	灰入	10.7	10.7	9.4	透明釉	白土 松	-	-	「御ハタ」墨書 五足ハマ痕	-	-	19C	20160500240
図版12	183	SK90	陶器	胎蓋	-	4.4	(8.7)	透明釉	-	-	-	-	被熱	肥前	19C	20160500241
図版12	184	SK92	磁器	碗	-	-	(2.8)	染付	草	-	-	-	-	肥前	18C	20160500244
図版12	185	SK92	磁器	碗	-	3.0	(1.7)	色絵	花卉	-	-	-	蛇ノ目高台	肥前	17C後	20160500243
図版12	186	SK95	磁器	碗	(10.4)	3.9	5.5	染付	花卉	-	-	圏線 「大■年■」	-	肥前	18C前	20160500248
図版12	187	SK95	磁器	碗	(9.6)	(4.4)	4.8	染付	花唐草 菊	-	-	二重角福?	-	肥前	18C前	20160500250
図版12	188	SK95	磁器	碗	-	(4.6)	(3.7)	染付	-	-	-	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	20160500251
図版12	189	SK95	磁器	碗	11.2	5.2	7.0	染付	山水	-	-	-	生掛釉 くらわんか手	肥前	18C前～中	20160500247
図版12	190	SK95	磁器	碗	-	3.5	4.6	青磁染付	青磁釉	笹	二重圏線笹	-	-	肥前	18C中～	20160500252
図版12	191	SK95	磁器	小坏	(5.6)	(3.2)	2.8	染付	亀甲 雪	-	-	-	-	肥前	18C	20160500245
図版12	192	SK95	磁器	碗蓋	(9.0)	3.4	2.8	染付	藤コンニャク 印判	-	-	-	-	肥前	18C前	20160500255
図版12	193	SK95	磁器	猪口	7.2	3.9	4.7	白磁	-	-	-	-	-	肥前	18C前	20160500256
図版12	194	SK95	磁器	皿	(14.2)	-	2.6	染付	丸	芙蓉手	-	-	-	肥前	17C末～18C前	20160500261
図版12	195	SK95	磁器	鉢	10.5	-	(5.9)	青磁染付	青磁釉	酸漿	-	-	-	肥前	18C中	20160500254
図版13	196	SK95	陶器	壺	-	5.9	(6.2)	鉄釉	鉄釉	無釉	-	-	-	肥前	-	20160500258
図版13	197	SK95	陶器	灰入	9.7	4.1	5.3	褐釉	褐釉	無釉	-	-	-	肥前	-	20160500257
図版12	198	SK95	磁器	碗	(9.2)	-	(4.1)	染付	草花 雲	-	-	-	-	肥前	18C前～中	20160500262
図版12	199	SK97	陶器	土瓶	-	-	(3.4)	褐釉	褐釉	-	-	-	-	-	18C後～	20160500264
図版13	200	SK98	磁器	碗	-	(3.8)	4.7	染付	菊花	-	-	-	-	肥前	18C中	20160500265
図版13	201	SK98	瓦	軒丸瓦	(2.5)	(11.8)	1.6	-	三巴	-	-	-	-	-	-	20160500266
図版13	202	SK100	磁器	端反碗	10.6	4.4	5.7	染付	格子 花 雲	工字繫	花	-	-	肥前	19C前～中	20160500285
図版13	203	SK100	磁器	碗	-	-	(2.1)	青華	靈芝	靈芝	-	-	清朝磁器	中国	19C前	20160500286
図版13	204	SK100	磁器	小碗	7.0	2.5	3.8	染付	菊花陽刻	-	-	-	-	肥前	18C	20160500278
図版13	205	SK100	磁器	鉢	17.1	9.2	6.4	染付	山水	窓に山水・ 花・稲束	鳳凰	-	-	肥前	18C末～19C前	20160500276
図版13	206	SK100	磁器	段重蓋	(15.2)	-	4.4	染付	唐草	-	-	-	-	肥前	18C末～19C前	20160500283
図版13	207	SK100	陶器	急須	6.2	5.8	9.1	透明釉	-	-	-	-	-	肥前	18C末～19C前	20160500288
図版13	208	SK100	陶器	播鉢	(32.0)	-	5.5	褐釉	-	13本1単位溝	-	-	-	-	-	20160500279
図版13	209	SK100	陶器	小皿	(8.6)	2.4	2.2	透明釉	-	-	-	糸切底	被熱	肥前	-	20160500280

第6表 第30次調査出土遺物観察表6

第2章 第30次調査

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内 印銘等				
図版13	210	SK100	瓦	棧瓦	(3.6)	(9.2)	1.9	-	三巴	-	-	-	-	-	-	201605 000289
図版13	211	SK100	陶器	壺	20.0	15.9	38.7	褐釉	タタキ ナデ	タタキ ナデ	-	-	-	-	-	201605 000291
図版13	212	SK103	磁器	碗	(8.4)	(3.2)	5.5	染付	蝶	-	-	-	-	肥前	19C前	201605 000314
図版13	213	SK103	磁器	小碗	(6.8)	(3.6)	5.3	染付	梅花	-	-	-	-	肥前	19C前	201605 000321
図版13	214	SK103	磁器	端反碗	-	(4.8)	6.2	染付	山水	-	岩波	-	-	肥前	19C前～ 中	201605 000315
図版13	215	SK103	磁器	皿	(12.6)	(8.0)	3.2	染付	不明	山水	-	-	蛇ノ目凹型 高台	肥前	19C前～ 中	201605 000317
図版13	216	SK103	磁器	小皿	10.2	5.9	2.5	染付	-	格子 花	-	-	型物 口錆 口縁輪花	肥前	19C前～ 中	201605 000322
図版13	217	SK103	磁器	小皿	(9.0)	5.2	2.4	染付	-	山水 家屋	-	-	型物 口錆 口縁輪花	肥前	19C前～ 中	201605 000318 ・323
図版13	218	SK103	磁器	小皿	-	5.2	(10.1)	染付	-	-	-	-	口縁打欠 再利用品	肥前	19C前～ 中	201605 000316
図版13	219	SK103	磁器	壺	(8.7)	(3.0)	8.2	染付	山水樓閣 月 島「啼落」	-	-	-	口縁釉剥	肥前	19C前～ 中	201605 000324
図版13	220	SK103	陶器	ミニチュア鉢	(3.4)	(1.幅)	2.7	透明釉	-	-	-	無釉	-	-	-	201605 000329
図版13	221	SK120	磁器	碗	(10.0)	-	(4.8)	染付	こんにやく印 判藤	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 000348
図版13	222	SK120	磁器	小皿	6.0	2.5	2.7	色絵	草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 000350
図版13	223	SK120	陶器	碗	(12.4)	(6.0)	7.8	褐釉	-	-	-	-	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 000351
図版13	224	SK128	土師質	壺	-	22.1	(6.0)	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605 000356
図版13	225	SK131	磁器	碗	(10.2)	(4.0)	5.2	染付	草花	-	-	-	-	肥前	18C中～	201605 000357
図版13	226	SK131	磁器	碗	-	-	2.2	青華	靈芝	-	-	-	清朝磁器	中国	19C前	201605 000358
図版13	227	SK131	磁器	小皿	(7.0)	(4.8)	1.7	染付	-	草花	-	-	-	肥前	19C前	201605 000360
図版13	228	SK142	磁器	小碗	5.8	3.1	3.4	色絵	梅花	-	-	-	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 000382
図版13	229	SK142	磁器	碗	-	(4.0)	(4.4)	染付	藤コンニャク 印判	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 000381
図版13	230	SK142	陶器	鉢	-	-	(10.3)	緑釉	白土ハケ 獅子	緑釉	-	-	-	武雄系	17C後	201605 000384
図版13	231	SK142	瓦	丸瓦	26.0	13.6	2.0	-	-	ナデ	布目	-	-	-	-	201605 000385
図版13	232	SK153	磁器	碗	10.0	4.2	5.6	染付	三巴 唐草 圏線	-	-	-	二重角福?	肥前	17C末～ 18C前	201605 000442
図版13	233	SK153	磁器	小碗	(7.0)	2.7	3.4	染付	酸漿 圏線	-	-	-	-	肥前	17C末～ 18C前	201605 000443
図版13	234	SK153	磁器	皿	-	-	3.9	染付	草花	芙蓉手	-	-	口縁綾花	肥前	17C後	201605 000449
図版13	235	SK153	陶器	碗	11.2	4.3	6.2	銅緑・透明釉	銅緑釉	透明釉	フリモノ	無釉	-	肥前	17C後	201605 000445
図版13	236	SK153	陶器	擂鉢	(29.8)	-	5.7	口縁鉄釉	-	12本1単位溝	-	-	-	-	-	201605 000447
図版13	237	SK153	土師質	灯明皿	9.0	4.4	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 000452
図版13	238	SK153	土師質	灯明皿	8.6	3.5	1.7	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 000451
図版13	239	SK156	磁器	端反碗	(10.0)	-	(3.4)	染付	格子 草花	格子	-	-	-	肥前	19C前～ 中	201605 000453
図版13	240	SK156	陶器	ハマ	(9.0)	(8.6)	1.6	-	-	-	-	-	2足残存	-	-	201605 000454
図版13	241	SK157	磁器	端反碗	11.4	5.0	6.5	染付	山水	-	山水	-	-	肥前	19C前～ 中	201605 000456
図版13	242	SK158	磁器	端反碗	(10.2)	3.8	6.0	染付	琴 不明	雷	圏線 松竹梅	-	-	肥前	19C中	201605 000457
図版13	243	SK158	陶器	急須蓋	9.0	3.0	(1.7)	透明釉	白土ハケ	-	-	-	東野亭 ツマミ剥落	筑後	19C中	201605 000458
図版14	244	SK159	磁器	碗	10.0	-	(4.5)	染付	草	-	-	-	-	肥前	18C中	201605 000459
図版14	245	SK159	磁器	皿	14.1	7.8	4.0	染付	唐草	松竹梅	二重圏線 五弁花	圏線 二重角福	-	肥前	18C前	201605 000460
図版14	246	SK159	陶器	瓶	-	(10.0)	(6.7)	透明釉	不明	-	-	-	-	-	-	201605 000461
図版14	247	SK160	磁器	端反碗	(10.6)	4.5	6.1	染付	山水	-	岩波	-	-	肥前	19C前	201605 000462
図版14	248	SK160	磁器	碗	-	4.8	(2.9)	染付	山水	-	圏線 岩波	-	-	肥前	19C前	201605 000463
図版14	249	SK160	磁器	御神酒徳利	1.5	3.5	10.2	色絵	梅 松	-	-	砂付着	-	肥前	-	201605 000465
図版14	250	SK160	陶器	壺	-	16.2	(16.9)	褐・灰釉	獅子	-	-	-	-	肥前	-	201605 000464
図版14	251	SK160	瓦	軒丸瓦	(7.6)	(10.7)	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	201605 000466
図版14	252	SK160	ガラス	瓶	-	-	(3.0)	-	-	-	-	-	-	-	19C	201605 000467

第7表 第30次調査出土遺物観察表7

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版14	253	SK171	磁器	碗	(4.4)	(3.8)	4.7	染付	草	-	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605000472
図版14	254	SK171	磁器	皿	-	11.0	(10.4)	染付	圏線	岩網芒	-	ハリ痕1	-	肥前	17C末~18C前	201605000480
図版14	255	SK171	磁器	ミニチュア皿	4.1	1.8	1.6	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605000473
図版14	256	SK171	磁器	瓶	-	6.2	(9.8)	色絵	七宝繫窓に草花・格子	-	-	-	-	肥前	18C	201605000481
図版14	257	SK171	陶器	壺	(9.6)	-	(4.4)	褐・灰釉	-	-	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605000475
図版14	258	SK171	陶器	水指	-	4.2	(4.3)	褐・灰釉	-	-	-	砂付着	-	肥前	17C末~18C前	201605000476
図版14	259	SK171	陶器	ミニチュア壺	3.0	2.3	1.9	透明釉	-	-	-	無釉	-	-	-	201605000477
図版14	260	SK171	土製品	土鈴	7.2	5.8	0.7	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000478
図版14	261	SK175	磁器	碗	-	-	(2.8)	染付	-	-	-	-	-	肥前	18C	201605000550
図版14	262	SK175	陶器	ハマ	5.8	3.0	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	201605000551
図版14	263	SK175	陶器	壺	-	21.6	(17.2)	褐釉	白釉掛流	-	-	-	便槽	-	-	201605001359
図版14	264	SK180	磁器	小碗	6.7	2.4	2.8	染付	笹	-	-	-	-	肥前	18C後~	201605000553
図版14	265	SK180	磁器	小皿	8.2	4.4	2.6	染付	-	波船	-	-	-	肥前	19C前	201605000554
図版14	266	SK180	磁器	小瓶	-	3.6	(7.7)	染付	草花	-	-	-	-	肥前	19C前	201605000555
図版14	267	SK180	陶器	小壺	8.8	2.9	4.5	灰釉	-	-	-	無釉	-	肥前	18C末~19C	201605000556
図版14	268	SK180	陶器	急須蓋	10.8	4.4	(1.4)	透明釉	白土ハケ	-	-	-	ツمامミ剥落東野亭	筑後	19C中	201605000559
図版14	269	SK180	陶器	急須蓋	6.0	-	2.7	灰釉	-	無釉	-	-	-	-	-	201605000558
図版14	270	SK180	陶器	急須蓋	8.4	6.2	3.8	銅緑釉	-	無釉	-	-	-	-	19C	201605000560
図版14	271	SK180	土師質	小皿	6.9	2.8	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000562
図版14	272	SK180	土師質	サナ	(14.0)	-	1.2	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000561
図版14	273	SK180	土製品	鳩笛	(8.0)	(4.0)	(2.8)	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605000563
図版14	274	SK180	土製品	土人形亀	(6.2)	(4.2)	(2.8)	-	-	-	-	-	型物	-	18C後~19C前	201605000565
図版14	275	SK190	磁器	広東碗	-	(6.4)	(3.3)	染付	不明	不明	岩波?	「大明■」	-	肥前	-	201605000572
図版14	276	SK190	磁器	皿	(13.0)	(7.8)	4.7	染付	唐草	草花	二重圏線五弁花	圏線	くらわんか手	肥前	18C後	201605000584
図版14	277	SK190	磁器	皿	(13.2)	(7.8)	4.0	染付	唐草	草花	二重圏線	-	蛇ノ目凹型高台	肥前	18C後	201605000573
図版14	278	SK190	磁器	小皿	(10.4)	(6.6)	1.9	染付	-	草花	圏線	-	口縁綾花	肥前	18C後	201605000574
図版14	279	SK190	磁器	紅皿	5.1	1.3	1.6	白磁	無釉	-	-	-	型物	肥前	-	201605000575
図版14	280	SK190	磁器	小瓶	-	3.7	(7.2)	染付	草花	-	-	畳付砂付着	-	肥前	18C後	201605000597
図版14	281	SK190	磁器	仏飯器	7.1	3.4	6.6	染付	蛸唐草	-	-	釉剥	-	肥前	18C後	201605000598
図版14	282	SK190	陶器	鉢	(30.4)	-	(12.6)	灰・銅緑釉	銅緑釉掛流	銅緑釉掛流	-	-	-	肥前	18C後~19C前	201605000599
図版14	283	SK190	陶器	播鉢	-	9.6	(5.2)	-	-	8本1単位溝	-	糸切	-	-	-	201605000588
図版14	284	SK190	陶器	蓋	3.6	-	2.4	褐釉	-	無釉	-	-	-	-	-	201605000589
図版14	285	SK190	土師質	灯明皿	(8.0)	3.2	1.9	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000581
図版14	286	SK190	土師質	小皿	(7.4)	3.2	1.8	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000582
図版14	287	SK190	土師質	小皿	(7.4)	4.4	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000579
図版14	288	SK190	土師質	小皿	(7.0)	4.3	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000580
図版15	289	SK190	磁器	碗	(9.6)	4.2	5.1	染付	網	網	二重圏線菊花	角福?	-	肥前	17C後~18C前	201605000623
図版15	290	SK208	磁器	碗	(10.2)	4.1	4.8	染付	花唐草	-	-	-	-	肥前	18C前	201605000624
図版15	291	SK208	磁器	小碗	6.4	2.5	4.9	白磁	鎚	-	-	無釉	生掛釉	肥前	17C中	201605000625
図版15	292	SK208	陶胎	皿	-	6.4	(2.3)	染付	唐草	松竹梅	二重圏線五弁花	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605000621
図版15	293	SK208	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	3.7	染付	唐草	山水梅松	二重圏線	二重圏線	-	肥前	18C前	201605000622
図版15	294	SK208	磁器	水滴	(3.2)	3.3	2.4	染付	草	無釉掛	-	布目	型物	肥前	-	201605000627
図版15	295	SK208	磁器	蓋	2.7	-	(2.2)	白磁	-	-	-	-	ツمامミ剥落	肥前	-	201605000626
図版15	296	SK208	陶器	壺	(10.0)	5.4	6.4	透明釉	山水	-	-	無釉「小松吉」	関西系	肥前	17C後	201605000620

第8表 第30次調査出土遺物観察表8

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等					
図版15	297	SK208中層	磁器	碗	(11.4)	4.2	6.0	色絵	猪目繁窓に笹竹	-	-	畳付砂付着	-	肥前	17C後	201605000630	
図版15	298	SK208中層	磁器	碗	(10.2)	(3.8)	5.0	染付	圈線 松	-	-	圈線	-	肥前	17C後	201605000631	
図版15	299	SK208中層	磁器	碗	9.4	3.6	5.4	染付	網 蔓草	圈線	二重圈線 蔓草	圈線	生掛釉	肥前	17C後	201605000632	
図版15	300	SK208中層	磁器	小碗	(6.6)	2.7	4.7	染付	圈線 草	-	-	角■	-	肥前	17C後	201605000634	
図版15	301	SK208中層	磁器	碗	-	(3.2)	(1.2)	染付	不明	-	二重圈線 羊歯	-	-	肥前	18C中	201605000635	
図版15	302	SK208中層	磁器	碗	-	5.6	(2.7)	青磁	-	-	フリモノ	-	-	肥前	17C	201605000636	
図版15	303	SK208中層	磁器	皿	-	(14.6)	(6.5)	褐釉	-	白土ハケ	砂目痕	無釉	武雄系	肥前	17C中～後	201605000637	
図版15	304	SK208中層	土師質	小皿	8.9	4.2	2.1	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000642	
図版15	305	SK208中層	土師質	小皿	9.0	4.2	2.1	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605000641	
図版15	306	SK208下層	磁器	六角鉢	-	3.5	5.4	染付	花卉	-	-	「大明製化年製」	生掛釉	肥前	17C中～後	201605000643	
図版15	307	SK208下層	陶器	皿	24.7	9.4	6.1	透明釉	-	褐・青釉掛流 白土ハケ 砂目痕6	-	無釉	武雄系	肥前	17C中～後	201605000645	
図版15	308	SK208下層	陶器	皿	13.7	4.9	3.5	透明・銅緑釉	透明釉	銅緑釉	蛇ノ目釉剥	砂目痕4	-	肥前	17C中～後	201605000644	
図版15	309	SK208下層	土師質	土鍋	(49.6)	-	(7.6)	-	ハケ ナデ	ハケ ナデ	-	-	煤付着	-	-	201605000646	
図版15	310	SK211	磁器	碗	(10.2)	-	(3.2)	染付	草	-	-	-	口縁釉剥	肥前	18C前	201605000771	
図版15	311	SK211	磁器	栓	4.8	2.4	(2.4)	染付	輪線	無釉	-	-	-	肥前	-	201605000772	
図版15	312	SK212	磁器	端反碗	10.0	3.6	5.6	染付	松竹梅	雷	圈線 松竹梅	-	-	肥前	19C中	201605000776	
図版15	313	SK212	磁器	碗	10.0	3.3	4.1	染付	文字	-	-	-	-	肥前	19C中	201605000773	
図版15	314	SK212	磁器	小碗	(7.0)	3.4	5.6	染付	花	-	-	-	-	肥前	19C中	201605000777	
図版15	315	SK212	磁器	盃	6.1	2.4	2.8	染付	-	圈線 山水船	-	-	コバルト	肥前	19C後	201605000779	
図版15	316	SK212	磁器	端反碗蓋	9.0	4.1	2.4	染付	格子 草花	格子	圈線 蝶	-	-	肥前	19C中	201605000781	
図版15	317	SK212	磁器	皿	11.0	6.5	2.9	染付	笹	岩 草花	-	-	溶着痕	肥前	19C中	201605000782	
図版15	318	SK212	磁器	小皿	8.0	3.8	2.1	染付	-	笠 杖 丁子	-	-	-	肥前	19C中	201605000783	
図版15	319	SK212	陶器	急須蓋	(4.2)	-	2.5	透明釉	白土 鉄絵花	無釉	-	-	-	-	19C	201605000789	
図版15	320	SK212	陶器	平仄	5.3	3.2	2.6	透明釉	-	無釉	-	糸切	-	-	-	201605000791	
図版15	321	SK212	陶器	ハマ	5.2	5.2	0.6	-	墨書「寿」	墨書「のろいは」	-	-	転用呪具	-	-	201605000800	
図版15	322	SK212	土師質	灯明皿	6.4	3.9	1.1	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000795	
図版15	323	SK212	土師質	灯明皿	6.5	4.0	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000796	
図版15	324	SK212	土師質	灯明皿	6.3	4.2	1.1	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000797	
図版10	325	SK212	石製品	硯	(5.7)	(4.7)	(1.1)	-	-	-	-	-	赤間硯 32g	長門	-	201605000802	
図版10	326	SK212	石製品	火打石	5.5	4.6	2.6	-	-	-	-	-	75g	-	-	201605000803	
図版15	327	SK217	磁器	碗	(10.6)	(4.2)	5.0	染付	松 松毬	-	-	-	-	-	18C中	201605000818	
図版15	328	SK217	磁器	碗	(10.0)	3.6	4.9	染付	草花	-	-	-	-	-	肥前	18C中	201605000819
図版15	329	SK217	磁器	碗	(12.0)	(8.2)	6.5	染付	柳 月 文字	二重圈線	圈線	-	-	肥前	18C中	201605000817	
図版15	330	SK217	陶胎	皿	(22.0)	(12.8)	4.4	染付	花唐草	唐草 花	-	圈線	口縁輪花	肥前	18C前	201605000822	
図版15	331	SK217	陶器	壺	-	4.4	(3.4)	緑釉	-	-	-	-	-	肥前	17C後	201605000828	
図版15	332	SK217	陶器	擂鉢	(38.0)	(12.6)	13.4	透明釉	-	-	-	-	-	-	18C	201605000833	
図版10	333	SK217	ガラス	簪	(5.3)	0.6	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	201605000835	
図版15	334	SK219	磁器	碗	(6.0)	-	(3.4)	染付	山	雷	-	-	-	肥前	19C中～	201605000849	
図版15	335	SK219	陶器	鍋	(16.8)	-	5.4	透明釉	-	-	-	-	-	-	19C中～	201605000847	
図版16	336	SK223	磁器	碗	-	(4.0)	6.0	染付	圈線 雪輪	圈線 波線	圈線	-	-	肥前	19C中	201605000854	
図版16	337	SK223	磁器	端反碗	-	-	5.6	染付	二重圈線 羊歯	二重圈線 蔓草	-	-	-	肥前	19C中	201605000856	
図版16	338	SK223	磁器	広東碗	-	5.9	(3.3)	染付	蔓草	-	花	-	-	肥前	19C前	201605000855	
図版16	339	SK223	磁器	皿	(8.8)	4.3	2.6	青華	草花	二重圈線 草花	-	異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605000859	

第9表 第30次調査出土遺物観察表9

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版16	340	SK223	陶器	蓋	(7.6)	3.0	2.4	鉄釉	-	無釉	-	糸切	-	-	19C	201605000864
図版16	341	SK223	陶器	土瓶	(9.0)	-	(7.9)	灰釉	草花	無釉	-	-	-	-	19C	201605000863
図版16	342	SK223	陶器	盤	(24.4)	(23.6)	4.3	灰釉	重線	銅緑釉掛流	-	無釉	足付	-	19C	201605000861
図版16	343	SK233	磁器	碗	(10.8)	4.5	5.8	染付	蕉	-	蕉	-	-	肥前	18C末~19C前	201605000942
図版16	344	SK233	磁器	碗	9.4	4.8	5.0	染付	草花	-	-	口縁釉剥	-	肥前	19C前	201605000987
図版16	345	SK233	磁器	碗	8.2	3.7	6.1	染付	若松	-	岩波	-	被熱	肥前	19C前	201605000941
図版16	346	SK233	磁器	広東碗	11.0	5.6	5.8	染付	籠 草花 蝶	二重圏線	圏線 岩波	-	-	肥前	18C末~19C前	201605000944
図版16	347	SK233	磁器	端反碗	(9.6)	(4.6)	4.4	染付	月鳥 「月落鳥啼」	-	不明	-	-	肥前	19C前	201605000945
図版16	348	SK233	磁器	端反碗	(9.6)	4.1	5.0	青華	捻花 靈芝	-	二重圏線花	二重圏線 異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605000979
図版16	349	SK233	磁器	端反碗	-	(4.0)	5.1	青華	捻花 靈芝	-	二重圏線花	二重圏線 異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605000933
図版16	350	SK233	磁器	小坏	8.0	2.9	3.4	青華	雲 蓮弁	二重圏線	二重圏線 石榴	「成化年製」	清朝磁器 筆手	中国	19C前	201605000984
図版16	351	SK233	磁器	小坏	(9.6)	2.4	4.3	青華	雲 石榴	-	-	-	清朝磁器	中国	19C前	201605000983
図版16	352	SK233	磁器	小碗	7.2	2.6	3.2	染付	山鳥	フリモノ	-	-	-	肥前	18C末~19C前	201605000988
図版16	353	SK233	磁器	広東碗蓋	9.9	5.6	2.7	染付	岩波 花	二重圏線	圏線 岩波	波 草花	-	肥前	18C末~19C前	201605000946
図版16	354	SK233	磁器	広東碗蓋	(9.2)	5.1	2.8	染付	草花 蝶	-	岩波	草花	-	肥前	18C末~19C前	201605000989
図版16	355	SK233	磁器	広東碗蓋	10.0	5.4	2.5	染付	山水 草花	二重圏線	圏線 岩波	草花	-	肥前	18C末~19C前	201605000990
図版16	356	SK233	磁器	広東碗蓋	9.3	5.2	2.8	染付	草花 蝶	-	岩波	草花	-	肥前	18C末~19C前	201605000947
図版16	357	SK233	磁器	碗蓋	9.7	4.3	2.8	染付	鶴	-	鶴 亀	鶴	-	肥前	18C末~19C前	201605000949
図版16	358	SK233	磁器	碗蓋	8.2	3.3	2.7	染付	若松 鶴	-	若松 鶴	-	-	肥前	18C末~19C前	201605000950
図版16	359	SK233	磁器	皿	14.5	10.0	5.7	染付	圏線 源氏香	松竹 鶴	-	蛇ノ目凹型高台	-	肥前	18C末~19C前	201605000991
図版16	360	SK233	磁器	皿	(13.6)	8.9	4.2	染付	圏線 源氏香	二重圏線 雪輪 笹	-	蛇ノ目凹型高台	-	肥前	19C前	201605000951
図版16	361	SK233	磁器	皿	10.0	6.6	2.4	白磁	-	菊花型押	-	-	口錆 型物	肥前	19C前	201605000952
図版16	362	SK233	磁器	鉢	(18.2)	8.0	8.2	青華	圏線 花唐草 蓮弁	二重圏線 唐草	二重圏線 草花	異体字	清朝磁器	中国	19C前	201605000932
図版16	363	SK233	磁器	段重	(13.4)	10.2	5.2	色絵	草花	-	-	-	-	肥前	19C前	201605000992
図版16	364	SK233	磁器	蓋	(20.4)	(9.4)	4.9	色絵	赤壁賦	-	-	「永■」	-	肥前	19C	201605000993
図版16	365	SK233	磁器	御神酒徳利	2.5	-	(9.1)	染付	藤	-	-	-	-	肥前	18C後	201605000955
図版16	366	SK233	磁器	猪口	(7.2)	4.0	4.3	染付	水裂 雪輪	-	-	-	-	肥前	18C中	201605000958
図版16	367	SK233	磁器	合子身	6.3	5.8	2.4	染付	梅	-	-	無釉	-	肥前	-	201605000957
図版16	368	SK233	磁器	合子蓋	6.8	6.9	1.5	染付	鳥竹 岩	-	-	-	-	肥前	-	201605000956
図版16	369	SK233	陶器	埴	(10.6)	4.8	5.6	灰・緑釉	波線 輪線	-	-	-	端反	-	19C	201605000959
図版16	370	SK233	陶器	埴	(10.6)	(3.4)	6.1	褐釉	灰釉掛流	-	-	-	端反	-	19C	201605000995
図版16	371	SK233	陶器	埴	(11.6)	4.3	6.2	褐釉	灰釉掛流	-	-	-	端反 被熱	-	19C	201605000996
図版16	372	SK233	陶器	小皿	-	4.4	1.1	-	-	雲 龍	-	-	型物	-	-	201605000961
図版16	373	SK233	陶器	蓋	(8.6)	-	4.4	褐釉	-	無釉	-	-	-	-	-	201605000998
図版16	374	SK233	陶器	瓶	9.5	6.6	10.7	褐釉	下半無釉	-	-	-	煤付着	-	19C	201605000974
図版16	375	SK233	陶器	播鉢	(37.2)	14.8	16.0	褐釉	-	-	-	-	-	-	-	201605000977
図版16	376	SK233	陶器	播鉢	21.1	9.1	7.3	褐釉	-	-	-	-	-	-	-	201605000967
図版16	377	SK233	土師質	灯明皿	(7.4)	4.4	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605000976
図版17	378	SK233下層	磁器	碗	8.2	3.4	6.1	染付	若松	-	岩波	-	被熱	肥前	19C中	201605001003
図版17	379	SK233下層	磁器	端反碗	10.4	4.1	6.7	染付	圏線 四方禪	二重圏線 渦	二重圏線 羊齒	-	漆継	肥前	19C中	201605001002
図版17	380	SK233下層	磁器	端反碗	8.5	3.6	5.3	染付	圏線 ダミ 草花	二重圏線 ダミ 草花	草花	-	-	肥前	19C中	201605001004
図版17	381	SK233下層	磁器	広東碗蓋	9.6	5.5	4.8	染付	草花	-	岩波	草花	-	肥前	18C末~19C前	201605001005
図版17	382	SK233下層	陶器	四耳壺	-	10.9	(21.2)	透明・褐釉	上半褐釉 下半透明釉	-	-	-	-	-	-	201605001008
図版17	383	SK233下層	陶器	壺	17.1	9.0	17.5	褐釉	下半釉剥	-	-	釉剥	-	-	-	201605001009

第10表 第30次調査出土遺物観察表10

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版17	384	SK233下層	陶器	灯明皿	8.5	5.4	4.1	灰釉	「半」印刻	-	-	-	油煙付着	-	-	201605001010
図版17	385	SK233下層	陶器	土瓶蓋	(7.6)		2.6	褐釉	-	無釉	-	-	-	-	19C	201605001006
図版17	386	SK240	磁器	小坏	5.9	2.0	3.4	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後	201605001017
図版17	387	SK240	磁器	小坏	(5.8)	(2.6)	3.3	白磁	菊花型押	菊花型押	-	-	口銹 型物	肥前	17C後	201605001018
図版17	388	SK240	磁器	仏飯器	7.2	3.5	5.5	染付	桐コニヤク印判	-	-	-	-	肥前	18C前	201605001027
図版17	389	SK240	陶器	碗	10.3	4.2	6.3	透明・銅緑釉	銅緑釉	透明釉	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605001020
図版17	390	SK240	陶器	碗	(5.2)	4.3	5.8	褐釉	白土ハケ	白土ハケ	-	-	-	肥前	18C前	201605001019
図版17	391	SK240	陶器	碗	(10.4)	4.4	6.0	透明釉	白土丸	白土掛流	-	砂付着	現川系	肥前	18C前	201605001028
図版17	392	SK240	土師質	灯明皿	7.7	3.8	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605001026
図版17	393	SK240	土師質	灯明皿	5.7	3.1	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605001025
図版17	394	SK240	土師質	小皿	(8.6)	4.4	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605001031
図版17	395	SK240	土師質	小皿	5.8	3.5	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	焼成後底部穿孔	-	-	201605001032
図版17	396	SK240	土製品	土鈴	(6.6)	(5.7)	0.6	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605001033
図版17	397	SK248	磁器	碗	-	4.2	(1.8)	染付	-	-	-	渦福	-	肥前	18C前	201605001058
図版17	398	SK248	磁器	手塩皿	-	-	1.3	染付	紅葉コニヤク印判	-	-	-	-	肥前	18C前	201605001063
図版17	399	SK248	磁器	ミニチュア皿	4.1	1.8	1.4	染付	-	松葉	-	無釉	-	肥前	-	201605001062
図版17	400	SK248	磁器	仏飯器	-	4.1	6.8	染付	圏線	-	フリモノ	-	-	肥前	-	201605001061
図版17	401	SK248	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(1.8)	(1.8)	-	三巴	-	-	-	-	-	-	201605001065
図版17	402	SK249	磁器	皿	-	(4.0)	(2.3)	白磁?	-	-	蛇ノ目軸剥	無釉	-	肥前	18C後	201605001066
図版17	403	SK253	磁器	小碗	(8.2)	3.9	3.9	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C末~18C前	201605001070
図版17	404	SK253	土師質	灯明皿	-	(4.2)	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605001071
図版17	405	SK256	陶器	碗	-	(4.2)	(5.2)	色絵	圏線 網 花	-	-	-	-	肥前	17C後	201605001098
図版17	406	SK256	陶器	皿	-	-	(2.5)	透明・銅緑釉	透明釉	銅緑釉	-	-	-	肥前	17C後	201605001099
図版17	407	SK256	磁器	鉢	-	-	(15.1)	透明・褐釉	白土ハケ	-	-	-	武雄系	肥前	17C後	201605001100
図版17	408	SK266	磁器	碗	10.4	4.1	6.3	染付	梅 菊花格子	-	-	「大明年製」	-	肥前	17C後	201605001111
図版17	409	SK266	磁器	碗	9.2	3.1	4.8	染付	椿	-	-	-	-	肥前	18C前	201605001110
図版17	410	SK266	磁器	小碗	8.0	3.2	4.5	白磁	-	-	-	-	生掛釉	肥前	18C前~中	201605001114
図版17	411	SK266	磁器	小坏	7.5	3.8	5.4	染付	水裂	-	柴垣 梅	-	-	肥前	18C前	201605001113
図版17	412	SK266	磁器	皿	-	(5.8)	(2.5)	色絵	-	花卉	蛇ノ目軸剥 蓮弁	-	-	肥前	17C後	201605001117
図版17	413	SK266	磁器	小皿	6.5	2.9	2.3	白磁	-	-	-	-	-	肥前	-	201605001115
図版17	414	SK266	陶器	碗	10.0	3.8	4.4	透明釉	-	山水 樓閣	-	「清水」	関西系	肥前	17C後	201605001118
図版17	415	SK266	陶器	皿	(30.2)	12.3	10.2	灰・褐釉	下半無釉	白土ハケ	砂目痕5	無釉	-	肥前	17C中	201605001119
図版17	416	SK266	陶器	壺	10.6	8.4	15.9	鉄釉	-	無釉	-	-	-	-	-	201605001121
図版17	417	SK266	陶器	播鉢	-	(11.0)	(6.6)	-	-	-	-	糸切	-	-	-	201605001120
図版17	418	SK266	土師質	灯明皿	8.2	4.2	1.3	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605001125
図版17	419	SK266	土師質	小皿	(8.2)	(4.6)	1.5	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605001124
図版17	420	SK266	土師質	土鍋	(38.4)	-	(5.2)	-	ナデ	ハケ目	-	-	-	-	-	201605001122
図版17	421	SK266	土師質	サナ	(12.0)	-	2.6	-	ナデ	ナデ	穿孔	-	-	-	-	201605001123
図版17	422	SK267	磁器	皿	-	(8.0)	(2.2)	染付	圏線	山水 草花	二重圏線	二重圏線	-	肥前	18C前	201605001129
図版17	423	SK267	磁器	皿	-	(9.6)	(1.8)	染付	-	-	二重圏線 不明	-	生掛釉	肥前	17C中~後	201605001130
図版17	424	SK267	磁器	皿	10.8	(7.2)	1.9	染付	圏線 折松葉	紅葉	-	圏線 ハリ1	-	肥前	18C前	201605001128
図版17	425	SK267	磁器	皿	10.7	7.0	2.2	染付	圏線 折松葉	紅葉	-	圏線 ハリ1	-	肥前	18C前	201605001127
図版17	426	SK267	陶器	皿	-	(8.4)	(4.0)	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	蛇ノ目軸剥	無釉	-	肥前	18C前	201605001132
図版17	427	SK267	陶器	皿	9.2	3.1	2.4	褐釉	-	-	-	無釉 糸切	-	-	-	201605001133

第11表 第30次調査出土遺物観察表11

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等					
図版17	428	SK268上層	磁器	碗	10.9	4.0	6.1	染付	圏線 草花	-	-	圏線 「■■■■」	-	肥前	17C後	201605 001135	
図版17	429	SK268上層	磁器	碗	(10.2)	4.4	5.9	染付	圏線 花唐草 蓮弁 丸に格子・ 山水・草花	四方禪	二重圏線 草花	二重角福	被熱	肥前	18C中	201605 001136	
図版17	430	SK268上層	磁器	碗	(9.6)	4.0	5.8	染付	-	-	-	-	-	肥前	18C中	201605 001138	
図版17	431	SK268上層	磁器	碗	9.8	3.6	4.8	染付	菊	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001137	
図版17	432	SK268上層	磁器	碗	8.8	3.8	5.0	青磁染付	山水楼閣	-	山水楼閣	-	-	肥前	18C中～	201605 001147	
図版17	433	SK268上層	磁器	碗	10.0	3.4	5.2	色絵	藤 柴垣 竹 岩 草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001151	
図版17	434	SK268上層	磁器	小碗	8.7	3.0	4.2	白磁	-	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001148	
図版17	435	SK268上層	磁器	小碗	9.8	3.0	3.7	色絵	-	花卉	-	-	口錆 朝顔型	肥前	17C後	201605 001152	
図版18	436	SK268上層	磁器	碗蓋	9.3	3.4	2.9	染付	圏線 四方禪 草花	-	-	「宣明年製」	-	肥前	17C後	201605 001153	
図版18	437	SK268上層	磁器	碗蓋	9.8	3.6	2.9	染付	圏線 四方禪 草花	-	-	「宣明年製」	-	肥前	17C後	201605 001154	
図版18	438	SK268上層	磁器	碗蓋	(10.0)	-	(2.9)	青磁染付	青磁釉	四方禪	二重圏線 五弁花	渦福	口錆	肥前	18C中	201605 001155	
図版18	439	SK268上層	磁器	皿	12.4	7.2	3.4	染付	圏線 花唐草	山水楼閣	二重圏線 五弁花コン ニャク印判	圏線 「大明年製」 ハリ1	口錆	肥前	18C中	201605 001156	
図版18	440	SK268上層	磁器	皿	(13.6)	8.5	4.3	染付	圏線 花唐草	岩 草花 鹿	二重圏線	圏線 「大明年製」 ハリ1	口縁輪花	肥前	18C中	201605 001157	
図版18	441	SK268上層	磁器	手塩皿	5.0	2.0	1.5	染付	-	折松葉	-	-	-	肥前	18C	201605 001165	
図版18	442	SK268上層	磁器	ミニチュア蓋物	(4.8)	(1.8)	1.9	染付	花唐草	-	-	-	口縁剥剝	肥前	-	201605 001164	
図版18	443	SK268上層	磁器	蓋	(10.4)	-	(2.3)	染付	二重圏線 桐	-	-	-	-	肥前	18C中	201605 001168	
図版18	444	SK268上層	磁器	水滴	11.2	4.2	7.0	色絵	鯉型物	-	-	布目	型物	肥前	-	201605 001169	
図版18	445	SK268上層	陶器	埴	9.6	4.6	6.1	透明釉	-	-	無釉	-	関西系	肥前	18C前	201605 001170	
図版18	446	SK268上層	陶器	埴	(8.6)	4.5	5.4	褐釉	-	-	-	-	把手剥離	-	-	201605 001173	
図版18	447	SK268上層	陶器	埴	-	(4.8)	7.3	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	-	-	-	肥前	18C前	201605 001174	
図版18	448	SK268上層	陶器	埴	(10.8)	(4.4)	4.4	透明釉	丸	白土掛流	-	-	現川系	肥前	18C前	201605 001175	
図版18	449	SK268上層	陶器	小坏	(6.8)	3.4	3.6	褐釉	-	-	-	無釉	-	肥前	18C前	201605 001177	
図版18	450	SK268上層	陶器	小坏	(5.6)	3.4	3.9	褐釉	-	-	-	無釉	-	肥前	18C前	201605 001178	
図版18	451	SK268上層	陶器	皿	-	13.2	(6.6)	灰釉	-	白土ハケ	-	-	武雄系	肥前	17C後～ 18C前	201605 001181	
図版18	452	SK268上層	陶器	播鉢	-	11.2	(7.2)	-	-	-	-	糸切	-	-	18C	201605 001184	
図版18	453	SK268上層	陶器	壺	-	8.0	(7.4)	褐釉	白土掛流	-	-	-	-	-	-	201605 001187	
図版18	454	SK268上層	陶器	壺	(18.4)	-	(9.9)	透明釉	-	-	-	-	-	-	-	201605 001212	
図版18	455	SK268上層	陶器	蓋	7.2	4.2	3.2	褐釉	-	無釉	-	糸切	-	-	-	201605 001188	
図版18	456	SK268上層	土師質	小皿	6.2	3.2	1.2	-	ナデ	ナデ	-	ナデ	-	-	-	201605 001189	
図版18	457	SK268上層	土師質	灯明皿	7.9	4.2	3.2	-	ナデ	ナデ	-	糸切後ナデ	油煙付着	-	-	201605 001194	
図版18	458	SK268上層	土師質	灯明皿	7.8	4.2	1.5	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 001195	
図版18	459	SK268上層	土師質	灯明皿	8.1	4.0	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 001197	
図版18	460	SK268上層	土製品	土鈴	7.5	6.4	0.8	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605 001202	
図版18	461	SK268上層	土製品	寒水がうがう	(6.3)	(3.2)	(2.5)	-	ナデ	-	-	-	-	猿型把手	肥前	-	201605 001204
図版18	462	SK268中層	陶器	埴	(8.4)	4.6	6.2	褐釉	-	-	-	-	被熱	肥前	18C前	201605 001214	
図版18	463	SK268中層	瓦	軒丸瓦	15.3	(4.4)	1.8	-	三巴	-	-	-	-	-	-	201605 001219	
図版18	464	SK268下層	磁器	皿	-	-	(0.8)	染付	-	八卦	-	圏線	-	-	18C中～ 後	201605 001221	
図版18	465	SK268下層	磁器	小猪口	5.3	2.9	2.9	白磁	-	-	-	-	口錆	肥前	18C前	201605 001220	
図版18	466	SK268下層	陶器	埴	(9.8)	3.1	5.3	透明釉	菊	草花	-	無釉	関西系	肥前	18C前	201605 001223	
図版18	467	SK268下層	陶器	小皿	9.5	3.8	2.3	褐釉	-	-	-	糸切 無釉	-	-	-	201605 001228	
図版18	468	SK268下層	土師質	小皿	6.4	3.9	1.1	-	ナデ	ナデ	-	糸切	-	-	-	201605 001231	
図版18	469	SK268下層	土師質	灯明皿	(8.0)	4.0	1.6	-	ナデ	ナデ	-	糸切	油煙付着	-	-	201605 001233	
図版18	470	SK268ベルト	磁器	碗	(10.2)	4.4	5.6	染付	網	網	菊花	二重角福	-	肥前	18C前	201605 001236	

第12表 第30次調査出土遺物観察表12

第2章 第30次調査

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版18	471	SK268ベルト	磁器	碗	(9.6)	4.3	5.3	染付	圏線 菊花 五葉若葉コン ニャク印判	-	-	圏線 「大明年製」	-	肥前	18C前	201605 001237
図版18	472	SK268ベルト	磁器	小坏	(6.8)	2.8	4.0	染付	圏線 窓草花	-	圏線 花	-	色絵素地	肥前	18C前	201605 001240
図版18	473	SK268ベルト	磁器	小坏	6.8	2.7	3.8	染付	圏線 窓草花	圏線	圏線 花	-	色絵素地	肥前	18C前	201605 001241
図版18	474	SK268ベルト	磁器	小坏	(6.4)	(2.6)	2.6	染付	雨降	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001243
図版18	475	SK268ベルト	磁器	小坏	5.1	3.0	3.6	色絵	輪線	-	-	-	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 001242
図版18	476	SK268ベルト	磁器	碗蓋	10.4	3.8	2.7	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C末~ 18C前	201605 001244
図版18	477	SK268ベルト	磁器	花生	-	6.6	(5.9)	青磁	-	無釉	-	-	-	肥前	18C	201605 001245
図版18	478	SK268ベルト	磁器	水滴	(4.6)	(3.0)	(2.0)	色絵	鶉	無釉	-	-	型物	肥前	18C	201605 001246
図版18	479	SK269上層	磁器	碗	9.7	3.7	5.0	染付	唐草	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001252
図版18	480	SK269上層	磁器	碗	10.0	3.9	5.0	染付	稲穂	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001253
図版18	481	SK269上層	磁器	碗	(9.4)	3.9	5.7	色絵染付	圏線 丸に菊・花	-	-	二重角福	-	肥前	18C前	201605 001249
図版18	482	SK269上層	磁器	碗	(9.2)	4.2	6.2	染付	圏線 四方襷 花	-	-	「宣徳年製」	-	肥前	17C末	201605 001256
図版18	483	SK269上層	磁器	小碗	8.4	-	(4.6)	染付	圏線 雨降	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001255
図版18	484	SK269上層	磁器	小坏	(7.6)	(4.0)	5.2	染付	山水 家屋	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001259
図版18	485	SK269上層	磁器	小坏	4.3	1.8	2.5	白磁	鎚型押	-	-	-	型物	肥前	18C	201605 001261
図版18	486	SK269上層	磁器	碗蓋	10.5	4.4	2.7	染付	蓮弁 草花	四方襷	二重圏線 蝶竹梅	-	-	肥前	18C中	201605 001257
図版18	487	SK269上層	磁器	碗蓋	9.4	3.2	2.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001258
図版18	488	SK269上層	磁器	皿	12.1	3.4	3.5	染付	-	波	蛇ノ目釉剥	無釉	-	肥前	18C中~ 後	201605 001265
図版18	489	SK269上層	磁器	皿	-	7.5	(2.7)	染付	圏線 唐草	山水	二重圏線 五弁花コン ニャク印判	圏線 「大明年製」	-	肥前	18C中	201605 001264
図版18	490	SK269上層	磁器	皿	(24.0)	(10.6)	5.3	赤絵	-	草花 鳥	圏線 草	砂付着	-	中国	16C	201605 001262
図版18	491	SK269上層	磁器	小皿	5.1	2.1	1.5	染付	折松葉	-	-	無釉	-	肥前	18C	201605 001268
図版18	492	SK269上層	磁器	猪口	(7.4)	(3.8)	4.9	白磁	-	-	-	-	口錆	肥前	18C前	201605 001272
図版19	493	SK269上層	磁器	蓋物	(9.4)	(6.0)	4.6	染付	葡萄	-	-	蛇ノ目凹型高台	口縁釉剥	肥前	18C前	201605 001271
図版19	494	SK269上層	磁器	仏飯器	-	2.8	5.1	染付	圏線 草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001273
図版19	495	SK269	磁器	油壺	-	2.9	(3.3)	染付	笹	-	-	-	-	肥前	18C	201605 001295
図版19	496	SK269	陶器	壺	10.9	4.8	6.5	透明釉	白土ハケ	白土ハケ	-	-	-	肥前	17C後~ 18C前	201605 001298
図版19	497	SK269	陶器	壺	11.6	4.6	4.6	透明釉	-	山水 舟	-	無釉	関西系	肥前	17C後~ 18C前	201605 001299
図版19	498	SK269	陶器	小坏	7.2	3.9	4.5	褐釉	-	-	-	無釉	-	肥前	17C後~ 18C前	201605 001300
図版19	499	SK269	陶器	瓶	6.6	-	13.6	透明・鉄釉	白土ハケ	-	-	-	-	肥前	17C後~ 18C前	201605 001301
図版19	500	SK269	土製品	寒水か ^ラ ガラ	9.6	5.3	0.6	-	ナデ	ナデ	-	-	猿型把手	肥前	-	201605 001302
図版19	501	SK269下層	磁器	碗	(9.6)	4.0	4.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後~ 18C前	201605 001307
図版19	502	SK269下層	陶胎	碗	-	3.7	5.0	染付	草花	-	-	-	-	-	18C前	201605 001308
図版19	503	SK269下層	磁器	小猪口	6.0	3.6	4.3	染付	二重圏線 松 波 鳥	-	-	「大明年製」	-	肥前	18C前	201605 001309
図版19	504	SK270	磁器	碗	-	(4.0)	(4.1)	染付	梅	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001310
図版19	505	SK270	磁器	碗蓋	-	4.3	(1.6)	染付	蓮弁	-	渦 フリモノ	「富貴長春」	-	肥前	-	201605 001311
図版19	506	SK270	磁器	水滴	(6.0)	3.7	2.0	染付	菊花型押	-	布目	-	-	肥前	18C	201605 001314
図版19	507	SK270	陶器	小壺	6.8	4.3	8.5	灰釉	-	-	-	-	-	肥前	18C	201605 001315
図版19	508	SK270	土師質	小皿	(11.0)	(8.6)	1.0	-	ナデ	ナデ	内曇	-	-	-	-	201605 001317
図版19	509	SK271 3層	磁器	碗	(10.2)	(4.2)	5.8	白磁	-	-	-	-	-	肥前	17C後~ 18C前	201605 001324
図版19	510	SK271 3層	磁器	碗	(10.2)	3.6	4.8	色絵	扇 草花	-	-	-	-	肥前	18C前	201605 001323
図版19	511	SK271 3層	磁器	碗	(10.4)	4.1	5.8	染付	二重圏線 蕪	-	-	「朝」	朝妻焼	筑後	18C前	201605 001325
図版19	512	SK271 3層	磁器	碗蓋	10.8	4.6	2.3	染付	二重圏線 籠 草 鳥	圏線 ダミ	二重圏線 松竹梅	-	-	肥前	18C中	201605 001326

第13表 第30次調査出土遺物観察表13

図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			染付 釉薬	文様・調整				特徴	製作地・胎土	時期	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み	底面・高台内印銘等				
図版19	513	SK271 3層	磁器	皿	(11.8)	(7.6)	3.4	染付	圏線 唐草	草花	二重圏線 五弁花コン ニヤク印判	「年製」?	くらわんか 手	肥前	18C中	201605 001327
図版19	514	SK271 3層	陶器	皿	(12.6)	4.6	3.4	灰釉	-	-	蛇ノ目釉剥	無釉	-	肥前	18C	201605 001328
図版19	515	SK271 3層	土師質	焙烙	(50.2)	-	(5.0)	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605 001330
図版19	516	SK271 3層	土師質	鉢	(31.0)	-	(9.0)	-	ハケ ナデ	ナデ	-	-	-	-	-	201605 001329
図版19	517	SP230	陶器	土鍋蓋	13.5	5.1	3.7	透明釉	鉄絵	-	-	-	-	-	19C 中	201605 000925
図版19	518	SP230	陶器	土鍋	17.0	7.8	7.2	透明釉	無釉	透明釉	-	-	把手緑釉 煤付着 片口	-	19C中	201605 00924
図版19	519	SP262	陶器	皿	11.1	6.5	2.7	灰釉	-	鉄絵	-	無釉	志野焼	美濃	17C前	201605 001106

第3章 第31次調査

1. 検出遺構

今回の調査では、弥生時代の土坑2基、16～17世紀の流路1条、近世の溝2条、土坑8基、ピット等が検出された。

溝

SD6 (第21・24図 図版21)

調査区北東で検出された溝である。軸はN-51°-Eである。平面形状は直線的であるが、北側は太くなる。断面形は逆台形を呈し、北側は深くなる。検出された長さは3.4m、幅0.7m、深さは北側で0.5m、南側で0.3mである。埋土は暗褐色の粘質土が主体を成す。SD9を切る。遺物は19世紀の陶磁器等が出土している。

SD9 (第22・24図 図版21)

調査区北側で検出された溝である。軸はN-33°-Wである。平面形状は不整形で、やや蛇行する。断面形は逆台形を呈する。検出された長さは5.2m、幅2.9m、深さは0.2mである。埋土は暗褐色の粘質土が主体を成す。SD6、SK8、SK18、SK21(30次SK208)に切られ、SD12を切る。遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器等が出土している。

土坑

SK2 (第22・24図 図版21)

調査区北側で検出された長軸2.1m、短軸1.6m、深さ0.21mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SK5に切られ、SK10を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

SK5 (第22・24図 図版21)

調査区北側で検出された長軸1.6m、短軸0.8m、深さ0.2mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SK2・10を切っている。遺物は18世紀の陶磁器等が出土している。

SK7 (第22・25図 図版21)

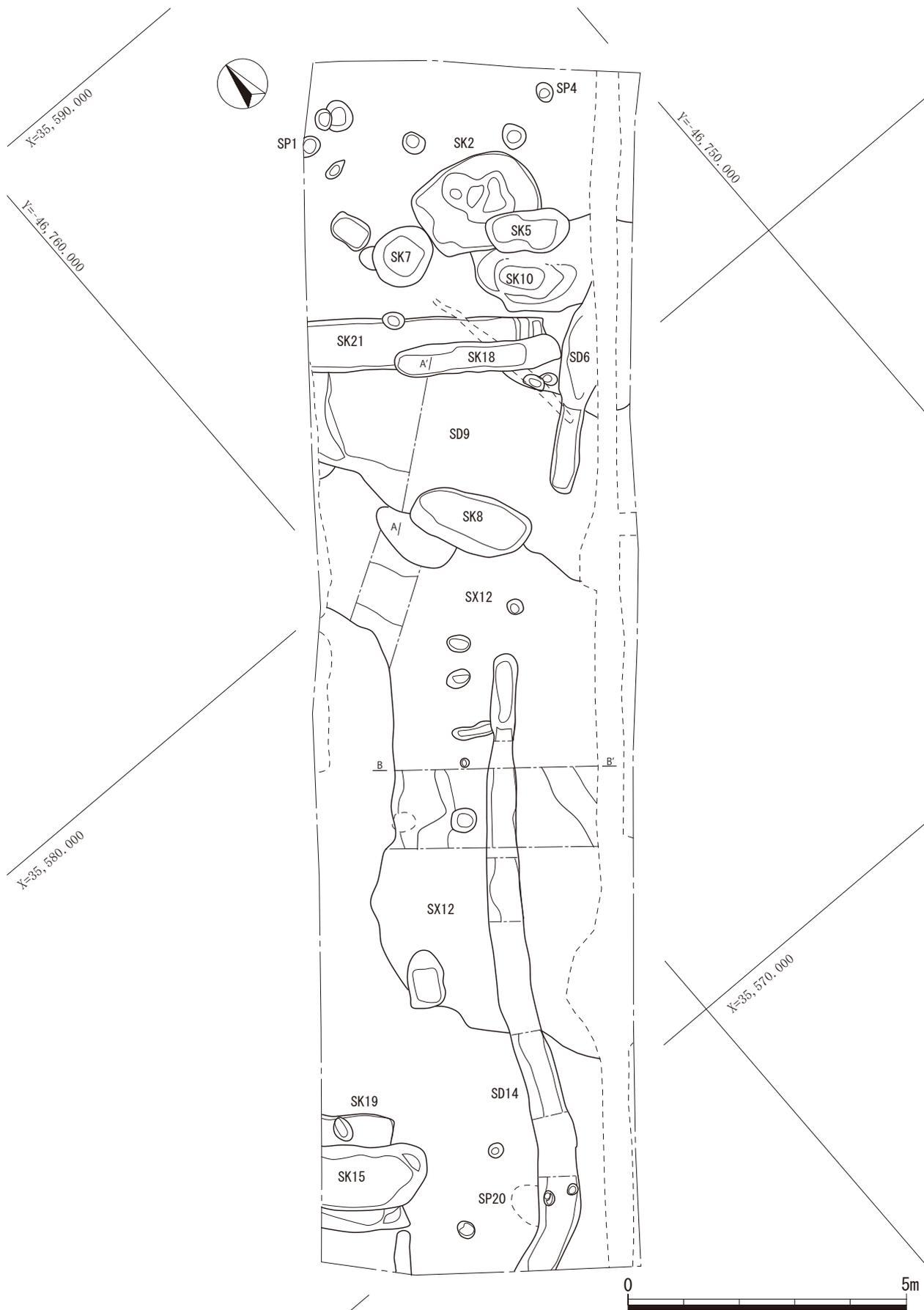
調査区北側で検出された直径1.1m、深さ0.4mの土坑である。平面形は円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。遺物は弥生時代中期の土器等が出土している。

SK8 (第22図 図版21)

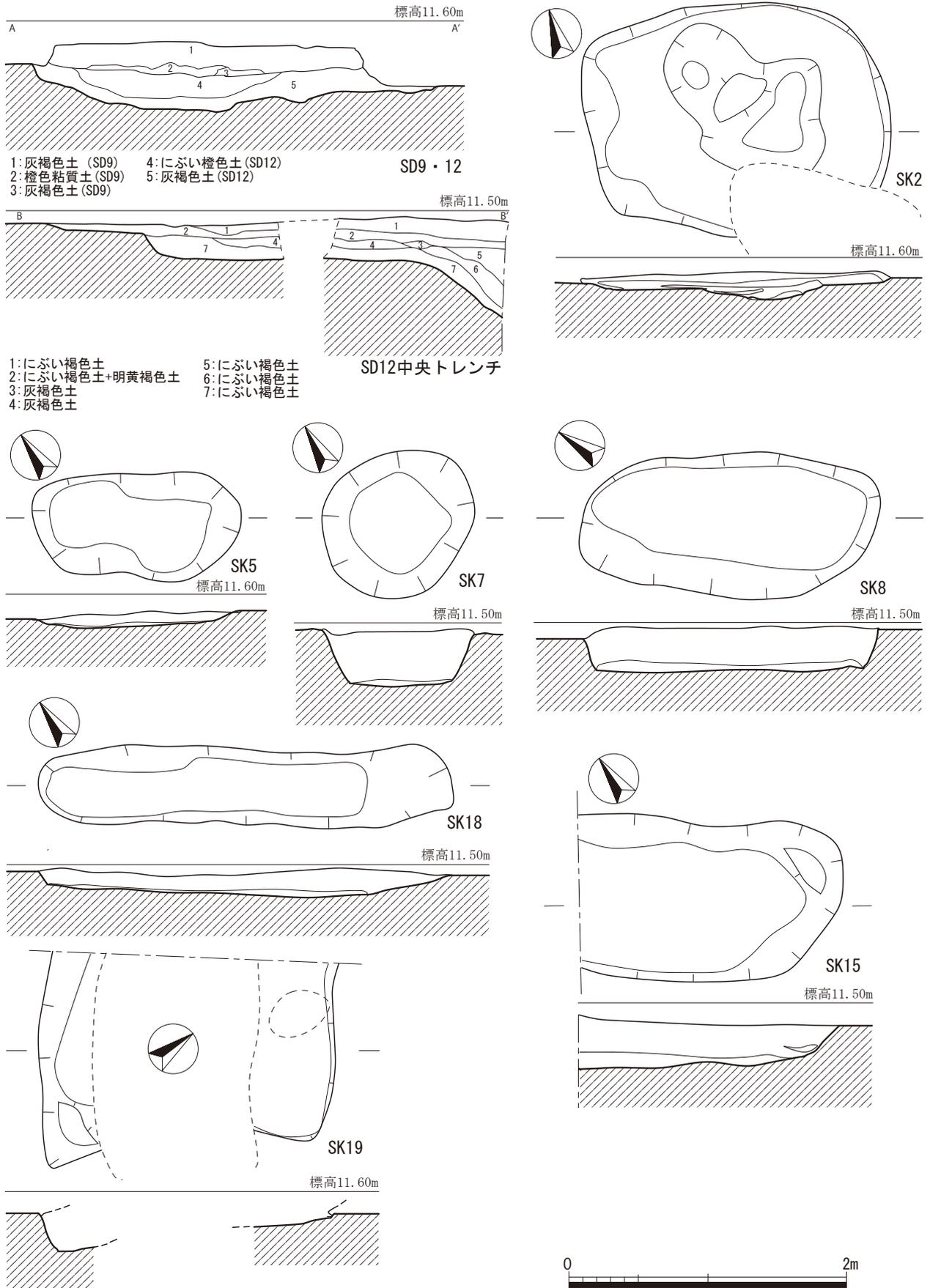
調査区中央北寄りで検出された長軸3.0m、短軸0.5m、深さ0.3mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SD9を切っている。遺物は18世紀の陶磁器等が出土している。

SK10 (第21図 図版22)

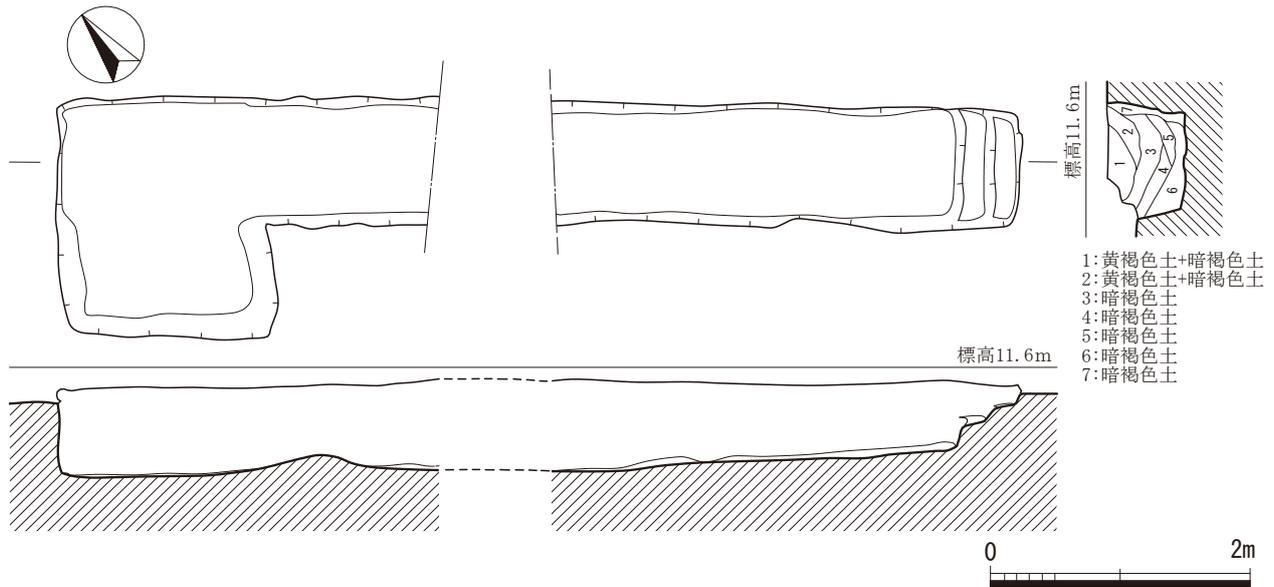
調査区北側で検出された長軸2.0m、短軸1.3m、深さ0.2mの土坑である。平面形は楕円形を



第21図 第31次調査区遺構配置図 (1/100)



第22図 SD9・SD12、SK2・5・7・8・15・18・19 実測図 (1/40)



第23図 SK21 実測図(1/40)

呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SK2・SK5に切られる。遺物は磨滅が著しい弥生時代中期の土器等が出土しているが、細片の為図示できない。

SK15 (第22・25図 図版22)

調査区南側で検出された長軸1.8m、短軸1.1m、深さ0.4mの土坑である。平面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SK19を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

SK18 (第22図 図版22)

調査区北側で検出された長軸2.9m、短軸0.6m、深さ0.2mの土坑である。平面形は細長い方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SD9・SK21を切っている。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

SK19 (第22・25図)

調査区南側で検出された長軸2.1m、短軸1.5m、深さ0.3mの土坑である。平面形は方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。SK15に切られる。遺物は18世紀前半の陶磁器等が出土している。

SK21 (30次SK208) (第23・25図 図版22)

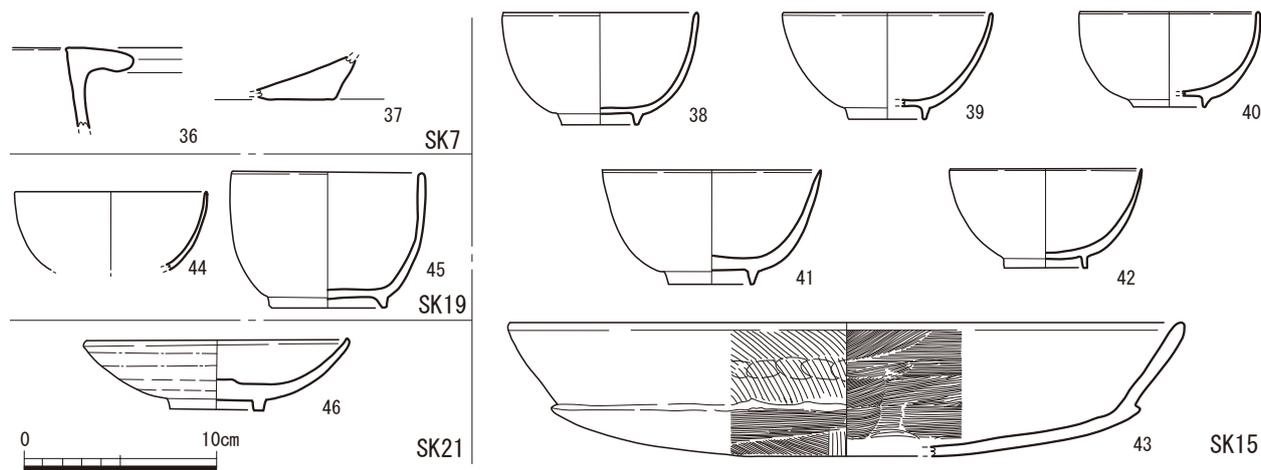
調査区北側で検出された長軸4.2m、短軸0.9m、深さ0.7mの土坑である。平面形は靴形に屈曲する細長い長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色の粘質土を主体とする。遺物は17世紀後半から18世紀前半の陶磁器等が出土している。

流路

SX12 (第24図 図版22)



第24図 SD6・9・21、SX12、SK2・5出土遺物実測図(1/4)



第25図 SK7・15・19・21実測図(1/4)

調査区中央から南側で検出された長軸11.6m、短軸3.9m、深さ0.8mの流路である。平面形は不整形を呈し、断面形は丸みを帯びた逆台形を呈する。埋土は黄褐色の粘土を斑に含む、暗褐色の粘質土を主体とする。SD9・14、SK8に切られる。遺物は16世紀から17世紀の土器、陶磁器等が出土している。西に隣接する第30次調査区へも続いており、幅や方向をランダムに変えていく。底面は水性堆積を示すように鉄分が付着しており、苑池の様相を呈している。

2. 出土遺物(第24・25図 図版23・24)

今回の調査では、弥生土器、近世陶磁器など、パンコンテナー2箱分の遺物が出土した。以下特筆すべき遺物について述べる。法量等の詳細については、遺物観察表を参照願う。

1はSD6出土の染付の小碗である。口縁は端反を呈し、19世紀の所産とみられる。3～21はSD9出土遺物である。3～5は18世紀前半の丸碗である。14の染付皿は口縁が端反を呈し、高台径が13よりも小さくなることから、17世紀後半の所産とみられる。18のひょうそくは器高が高く、17世紀後半の所産とみられる。SX12の出土遺物は、22～28であり、いずれも16世紀の土鍋や羽釜である。SK7からは、弥生時代中期の土器が出土している(36、37)。SK15出土の磁器碗38～42は18世紀前半の所産とみられる。

3. 総括

(1) 遺構の時期

古い遺構から順に述べる。SK7、SK10は弥生時代の遺構である。両者とも弥生時代中期の土器が出土している。次に古い遺構は、SX12である。16世紀の土師器の土鍋、小皿などが出土している。太さを変えながら蛇行する、不整形な平面形状、緩やかにカーブを描く断面形状、そして遺構底面の鉄分の沈着などから鑑みるに、SX12は流路であると考えられる。次に古い遺構は、17世紀後半から18世紀前半の遺物が出土するSD9、SK21である。SD9、SK21を切っているSK8、SK18は18世紀前半の遺物が出土している。また、SK2、SK5、SK15、SK19も18世紀前半の遺物が出土している。最も新しい遺構は、SD6であり、19世紀から幕末の遺物が出土して

いる。SD14、SP1、SP4は近代の陶磁器等が出土していることから、攪乱と判断し、遺構の詳細は述べていない。

(2) 居住者について

当屋敷地の居住者は、絵図によると、延寶八年図によると安藤氏、天保図以降は高橋氏となっている。以下各氏について述べる。

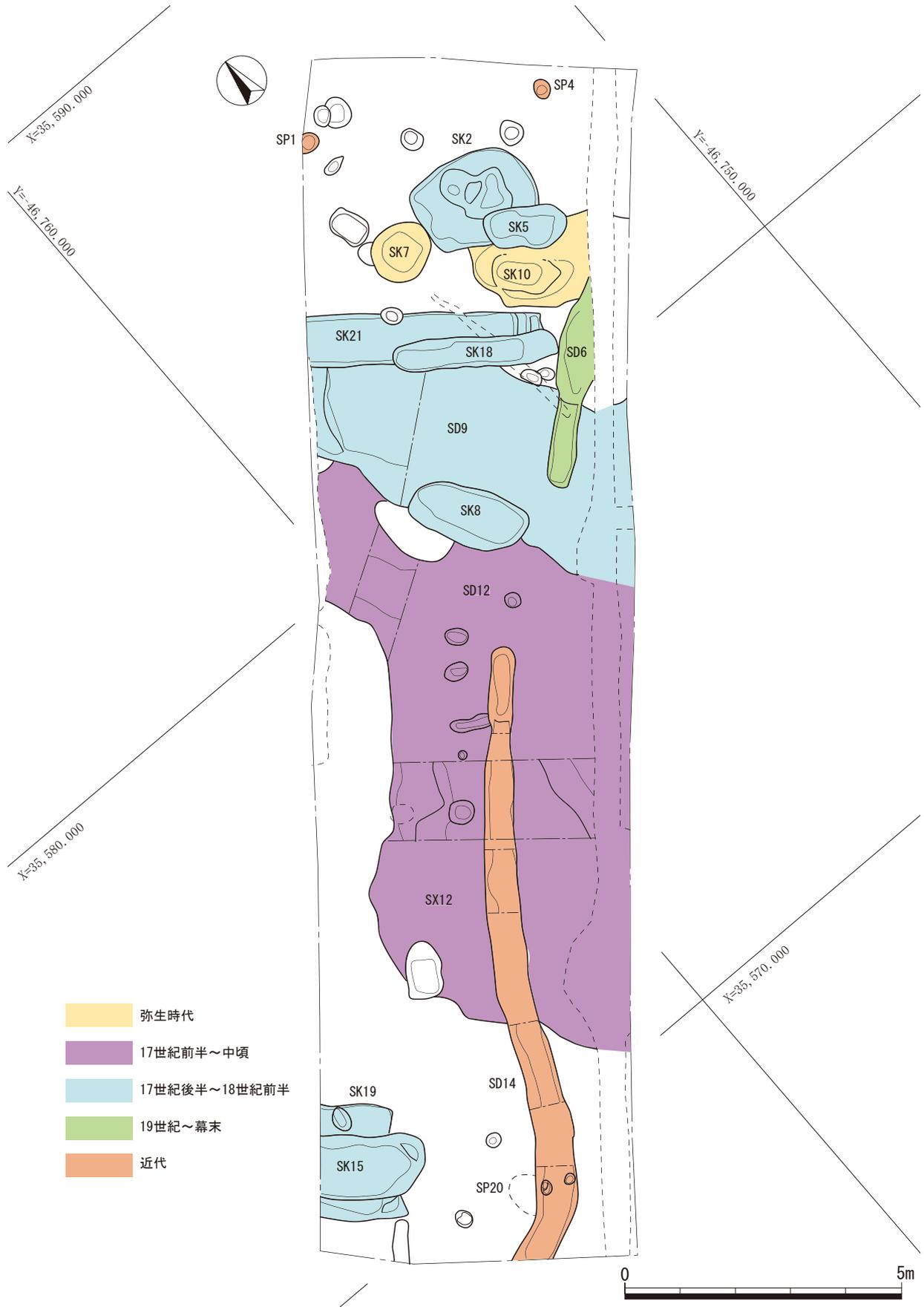
安藤氏は、「御家中略系譜」（新有馬文庫 久留米市中央図書館蔵）に記載がない。「寛永御家中分限帳」（1624～1643年）『久留米市史』第九巻資料編近世Ⅱによると、安藤忠兵衛が200石の馬廻（渡瀬将監組）と記載されている。1637年の島原の乱では、足輕を四人連れて参陣している。

「寛文分限帳」（1666年）には、御城番安藤伊右衛門とあり、忠兵衛と同一人物である。扶持は250石、長柄は1本、指物は銀の半月、渡瀬将監組に属する。また、同分限帳の別項に、御配当式拾石三人扶持、此米七石、但し一カ年分、安藤次太夫とあり、こちらは、伊右衛門の嫡子、後の半次と考えられる。『延寶八年図』には、安藤半次とある。その3代後の亨は、明和7年に出奔し、廃家断絶している。『明治二年図』には、十間屋敷に安藤家があるが、当地の安藤氏と同家系なのか、不明である。次に高橋氏について述べる。

次に高橋氏について述べる。当地の高橋氏は、城下にある高橋三家のうちの一系統である。本家筋は外郭に居住した高550石の高橋瀬兵衛家である。高橋安右衛門、安左衛門、音門などがおり、明治まで外郭に継続して居住している。初代瀬兵衛の弟が二人おり、上から弥惣右衛門、権左衛門である。この二人は別家を立てているが、「御家中略系譜」には、「権左衛門 在別系」とのみあり、詳細は不明である。弘化から嘉永ごろとみられる絵図によると、当地には高橋権四郎が記載されており、権の字が共通することから、当地の高橋権四郎は、権左衛門の系統である可能性がある。弥惣右衛門の家系は、京隈小路2番目筋の東側に屋敷を構えている。本家筋の初代瀬兵衛は、初め松平左衛門督（池田輝政の子忠継か）に仕え、後に久留米において有馬家に召し出され、島原の乱では大小姓として参陣している。瓊林院（有馬忠頼）の代に出世し、550石を得る。以後、江戸屋敷聞番役、御手廻頭役格などを歴任した。安政二年図及び明治5年図では、高橋門蔵（権四郎の次の代）が記載されている。「明治二年藩士分限帳」には、「竹之間組御蔵米130石御殿番當時助高橋門蔵小」とある。小は小松原の意であり、小松原小路に位置する当地の高橋氏が130石の家格であったことがわかる。

第14表 出土遺物観察表1

図面・図版番号	遺物番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調(釉調)		文様・調整			胎土・備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面・高台		
					(長)	(幅)	(厚)							
第24図 図版23	1	SD6	磁器	小碗	(9.4)	4.2	4.4	染付		花鳥	—	—	19世紀	201904 000007
第24図 図版23	2	SD6	磁器	碗	(7.4)	4.6	(1.6)	白磁		—	—	—		201904 000010
第24図 図版23	3	SD9	磁器	碗	—	(4.6)	(4.4)	染付		菊・草	—	銘あり	18世紀後半	201904 000017
第24図 図版23	4	SD9	磁器	碗	(9.6)	(4.0)	5.5	染付		梅	—	—	18世紀後半	201904 000018
第24図 図版23	5	SD9	磁器	碗	—	(4.2)	(5.2)	染付		草花	—	—	18世紀後半	201904 000019
第24図 図版23	6	SD9	陶器	土瓶蓋	(10.0)	5.2	1.9	褐釉		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	—		201904 000012
第24図 図版23	7	SD9	磁器	皿	—	(6.0)	(1.4)	染付		圏線	芙蓉手	「大明」	17世紀後半～18世紀前半	201904 000022
第24図 図版23	8	SD9	磁器	小坏	(7.3)	(3.8)	4.7	染付		松葉	—	—	17世紀後半～18世紀前半	201904 000024
第24図 図版23	9	SD9	磁器	碗	9.0	3.8	5.1	白磁		—	—	—		201904 000025
第24図 図版23	10	SD9	磁器	仏飯	(7.8)	3.9	5.3	白磁		—	—	—		201904 000027
第24図 図版23	11	SD9	磁器	仏飯	—	4.2	(6.0)	白磁		—	—	—		201904 000026
第24図 図版23	12	SD9	磁器	脚付皿	(10.9)	(6.6)	2.9	染付		圏線	草花	—		201904 000020
第24図 図版23	13	SD9	磁器	皿	(15.2)	(10.6)	2.8	染付		圏線・蔓草	藤	—	18世紀前半	201904 000021
第24図 図版23	14	SD9	磁器	皿	13.9	7.4	3.3	染付		圏線	山水樓閣	—	17世紀後半	201904 000023
第24図 図版23	15	SD9	陶器	碗	(9.8)	4.4	5.8	藁灰釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000028
第24図 図版23	16	SD9	陶器	碗	—	4.5	(6.0)	藁灰釉・銅緑釉		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	砂目	17世紀後半	201904 000029
第24図 図版23	17	SD9	陶器	碗	(10.7)	(5.0)	6.6	褐釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000030
第24図 図版23	18	SD9	陶器	ひょうそく	8.0	5.1	6.0	褐釉		回転ナデ	回転ナデ	—		201904 000031
第24図 図版23	19	SD9	土師器	小皿	9.8	6.6	1.8	にぶい黄 橙	浅黄橙	ナデ	回転ナデ	—	油煙付着	201904 000033
第24図 図版23	20	SD9	土師器	焼塩壺	(5.8)	(5.4)	8.4	橙	橙	ナデ・ユビオサエ	ナデ・ユビオサエ	ナデ ユビオサエ		201904 000032
第24図 図版23	21	SD9	陶器	甕	(20.0)	17.4	33.3	灰釉・自然釉		タタキ・ナデ	タタキ	タタキ		201904 000034
第24図 図版24	22	SD12	土師器	土鍋	—	—	(2.6)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	—		201904 000036
第24図 図版24	23	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.6)	橙	橙	ナデ	ナデ	—		201904 000039
第24図 図版24	24	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.0)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000040
第24図 図版24	25	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(2.1)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ	—		201904 000041
第24図 図版24	26	SD12最上層	土師器	土鍋	—	—	(1.5)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000042
第24図 図版24	27	SD12中央ト レンチ	土師器	土鍋	—	—	(3.2)	にぶい橙	にぶい橙	ナデ	ナデ・ハケメ	—		201904 000043
第24図 図版24	28	SD12中央ト レンチ	土師器	羽釜	—	—	(4.2)	褐灰	橙	ナデ	ナデ	—		201904 000044
第24図 図版24	29	SD21	土師器	小皿	(6.5)	(4.4)	1.6	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ	ナデ	糸切り		201904 000035
第24図 図版24	30	SK2	磁器	碗	—	(3.9)	(3.3)	染付		草花・竹垣	—	「大明年製」	18世紀前半	201904 000001
第24図 図版24	31	SK2	磁器	碗	(12.0)	—	(3.3)	染付		圏線・梅	—	—	18世紀前半	201904 000002
第24図 図版24	32	SK2	磁器	碗	—	—	(3.8)	染付		圏線・草・岩	圏線	—	18世紀前半	201904 000003
第24図 図版24	33	SK2	磁器	皿	(13.4)	(6.3)	4.2	白磁		—	—	—	口縁輪花	201904 000004
第24図 図版24	34	SK2	瓦質土器	火鉢	—	20.4	(18.5)	灰	灰	ハケメ	ハケメ	ナデ		201904 000005
第25図 図版25	35	SK5	陶器	播鉢	(33.4)	—	(8.2)	褐釉	—	回転ナデ	播り目	—		201904 000006
第25図 図版25	36	SK7	弥生土器	甕	—	—	(4.3)	にぶい橙	橙	摩耗	摩耗	—		201904 000013
第25図 図版25	37	SK7	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	にぶい橙	橙	ユビオサエ	ユビオサエ	—		201904 000014
第25図 図版25	38	SK15	磁器	碗	(10.3)	4.0	6.0	染付		牡丹・撫子	—	「大明成化年製」		201904 000045
第25図 図版25	39	SK15	磁器	碗	(10.9)	(4.0)	5.6	染付		菊	—	圏線		201904 000046
第25図 図版25	40	SK15	磁器	碗	(9.4)	(3.8)	5.0	染付		牡丹	—	圏線		201904 000047
第25図 図版25	41	SK15	磁器	碗	10.5	4.1	5.2	染付		花唐草	—	「大明成化年製」		201904 000048
第25図 図版25	42	SK15	磁器	碗	(11.4)	4.4	6.0	色絵		燕子花・猪目	—	兜巾		201904 000049
第25図 図版25	43	SK15	土師器	焙烙	(35.4)	(30.6)	7.0	にぶい褐	にぶい褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	ハケメ		201904 000050
第25図 図版25	44	SK19	磁器	碗	10.0	—	(4.1)	染付		巴唐草	—	—		201904 000051
第25図 図版25	45	SK19	磁器	碗	9.9	5.9	7.1	染付		花唐草	—	—		201904 000052
第25図 図版25	46	SK21	陶器	皿	13.9	4.8	3.8	銅緑釉		回転ナデ	蛇の目輪剥ぎ	—		201904 000053



第26図 第31次調査区時期別遺構図 (1/100)

圖版



1. 調査地点より筑後川を望む（東から）



2. 1区遠景（南から）

図版 2

京限侍屋敷遺跡
第30次調査



1. 2区遠景（南から）



2. 3区遠景（南から）



1. SA213 全景 (北から)



2. SD2 土層 (北から)



3. SD62 掘下状況 (南から)



4. SD200 土層 (南から)



5. SD209 遺物出土状況 (北から)



6. SE138 掘下状況 (東から)



7. SE146・147 掘下状況 (北から)



8. SE174 掘下状況 (南から)

図版 4

京限侍屋敷遺跡
第30次調査



1. SE187 掘下状況（南から）



2. SK5 遺物出土状況（南から）



3. SK5 遺物出土状況拡大（南から）



4. SK5 完掘状況（西から）



5. SK6 完掘状況（東から）



6. SK11 完掘状況（西から）



7. SK12 遺物出土状況（東から）



8. SK19 完掘状況（南から）



1. SK20 甕検出状況（西から）



2. SK85 完掘状況（西から）



3. SK90 完掘状況（西から）



4. SK92・95 完掘状況（北から）



5. SK100 完掘状況（東から）



6. SK103 完掘状況（西から）



7. SK120 完掘状況（東から）



8. SK128 検出状況（東から）

図版 6



1. SK129 検出状況（東から）



2. SK131 完掘状況（東から）



3. SK153 完掘状況（北から）



4. SK158 完掘状況（西から）



5. SK171 完掘状況（西から）



6. SK175 検出状況（西から）



7. SK180 完掘状況（北から）



8. SK190 完掘状況（南から）



1. SK212 完掘状況（東から）



2. SK217 完掘状況（南から）



3. SK219・226 完掘状況（南から）



4. SK223 完掘状況（西から）



5. SK233 完掘状況（西から）



6. SK243 完掘状況（西から）



7. SK248 土層状況（北から）



8. SK268 完掘状況（北から）

図版 8



1. SK271 完掘状況 (東から)



2. SP230 出土状況 (北東から)



3. SX70 検出状況 (南から)



4. 東西屋敷境段差 (北から)



5. 東西屋敷境段差 (南から)



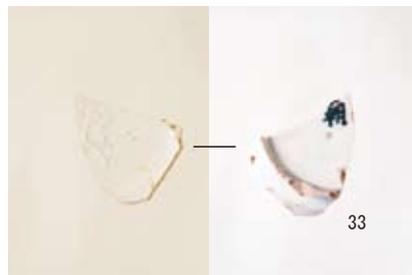
6. 南北屋敷境段差 (東から)



7. 4区遠景 (北から)



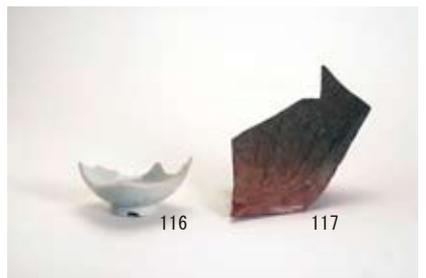
8. 4区掘下状況 (北から)



出土遺物写真 1

図版 10

京隈侍屋敷遺跡
第30次調査



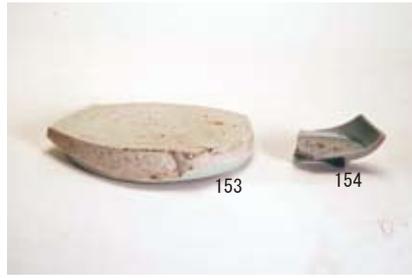
出土遺物写真 2



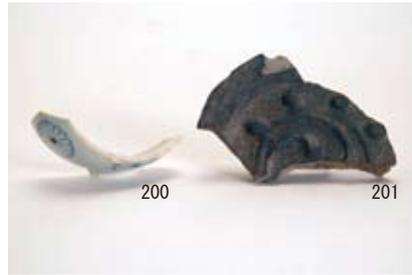
出土遺物写真 3

図版 12

京隈侍屋敷遺跡
第30次調査



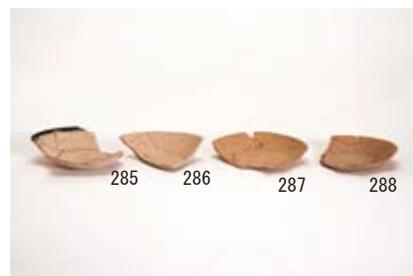
出土遺物写真 4



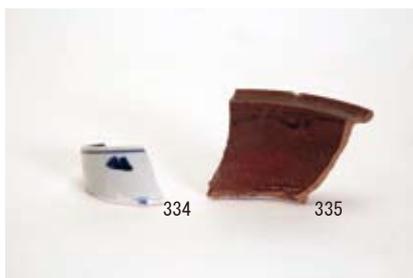
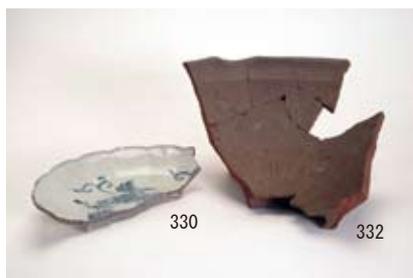
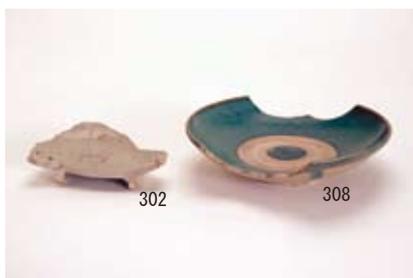
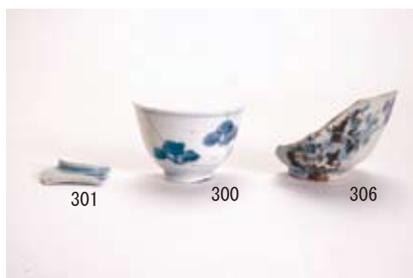
出土遺物写真 5

図版 14

京隈侍屋敷遺跡
第30次調査



出土遺物写真 6



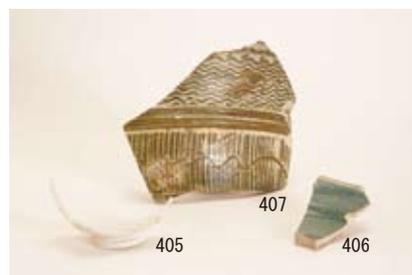
出土遺物写真 7

図版 16

京隈侍屋敷遺跡
第30次調査



出土遺物写真 8



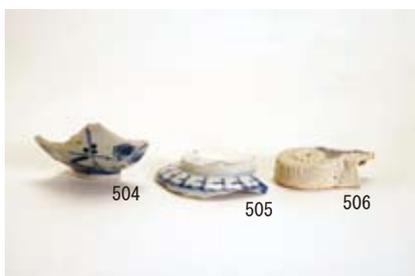
出土遺物写真 9

図版 18

京限侍屋敷遺跡
第30次調査



出土遺物写真10



出土遺物写真11



1. 調査区遠景（南東上空から）



2. 調査区遠景（東上空から）



1. SD6 完掘状況（北から）



2. SD9・SX12 土層断面（西から）



3. SK2 土層断面（北から）



4. SK2 完掘状況（西から）



5. SK5 土層断面（北から）



6. SK5 完掘状況（北から）



7. SK7 完掘状況（北から）



8. SK8 完掘状況（西から）

図版 22



1. SK10 完掘状況（北から）



2. SK15 完掘状況（東から）



3. SK18 土層断面（西から）



4. SK21 掘削状況（西から）



5. SK21 土層断面（東から）



6. SX12 土層断面（南から）



7. SX12 土層断面（西から）

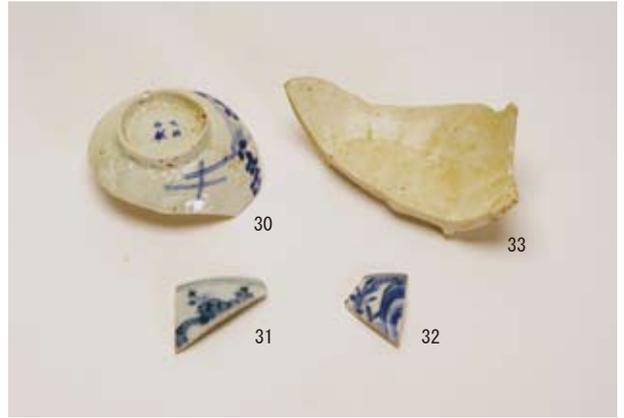


8. SX12 掘削状況（北から）



出土遺物写真 1

図版 24



京隈侍屋敷遺跡
第31次調査

出土遺物写真 2

報告書抄録

ふりがな	きょうぐまさむらいやしきいせき だい30・31じはつくつちようさほうこく		
書名	京限侍屋敷遺跡 第30・31次発掘調査報告		
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第431集		
編著者名	熊代昌之(編) 江頭俊介		
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課		
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9225 FAX 0942-30-9714 Email: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp		
発行年月日	2021(令和3)年3月31日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
きょうぐまさむらいやしきいせき 京限侍屋敷遺跡 第30次調査	くるめしきょうまち 久留米市京町 256	40203	31187	33° 19' 11"	130° 29' 52"	20160630～ 20170316	829 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
京限侍屋敷遺跡 第30次調査	集落	近世	柵列 溝 土坑 井戸 ピット	1 7 61 4 2	近世陶磁器、中国陶磁器、 西洋陶器、土師質土器、 石製品、瓦		幕末期の土坑より西洋陶器、 清朝磁器が出土	
要約								
近世久留米藩武家屋敷、京限侍屋敷の一部を調査。4家分の敷地を調査し、17世紀半ばの段造成による土木工事痕跡を検出。また、4家の屋敷境を検出し、城下の町割りの一端が明らかとなった。調査地は主に天保年間久留米城下絵図における山田家の敷地内であり、排水用の溝、土坑、井戸、ピット等を検出。19世紀の土坑、SK5からは、ほぼ完形の西洋陶器皿、清朝磁器碗等が出土している。								
土木工事の届出日		平成28年6月13日			遺物の発見通知日		平成29年3月21日 28文財第1798号	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
きょうぐまさむらいやしきいせき 京限侍屋敷遺跡 第31次調査	くるめしきょうまち 久留米市京町 256	40203	31187	33° 19' 11"	130° 29' 52"	20190701～ 20190912	138 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
京限侍屋敷遺跡 第31次調査	集落	弥生 近世	土坑 流路遺構 溝 土坑 ピット	2 1 2 8	弥生土器、近世陶磁器、 土師器、瓦質土器		近世の侍屋敷に伴う土坑 や溝及び、苑池遺構など を検出した。	
要約								
久留米市の北西部の低位段丘上に位置する京限侍屋敷遺跡の調査である。調査区は市立京町小学校敷地内にあたる。調査は近世の屋敷地の一部を対象とした。屋敷に伴う土坑や溝、苑池遺構などを検出し、陶磁器等の遺物が出土した。隣接する第30次調査と合わせ、安藤氏及び高橋氏の生活史解明に資する資料が得られた。								
土木工事の届出日		平成28年6月13日			遺物の発見通知日		令和元年9月17日 1文財第686号	

京隈侍屋敷遺跡

—第30・31次発掘調査報告—

久留米市文化財調査報告書 第431集

令和3年3月31日

発行 久留米市教育委員会

印刷 中村印刷有限会社